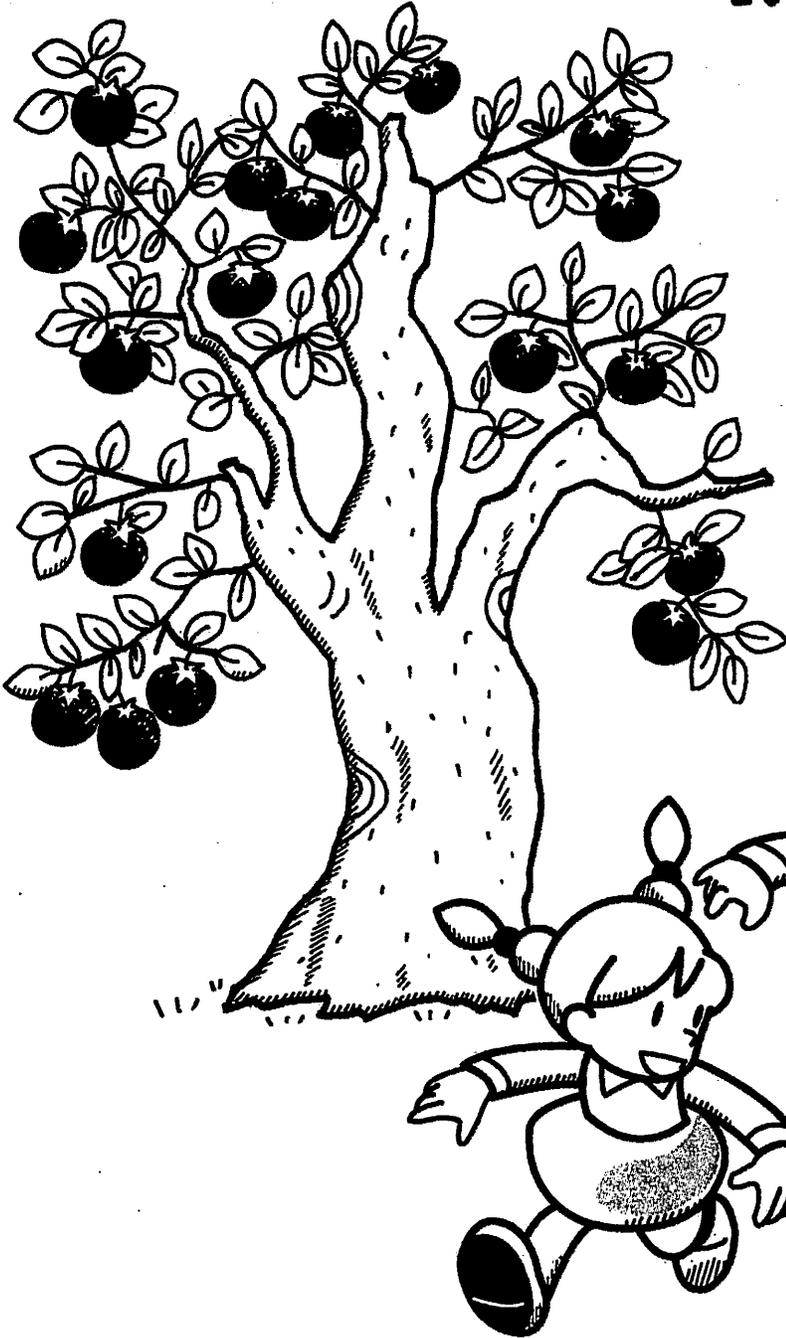


日曜学校教案誌

vol. **7**
2002. 10. 11. 12月号



すべて良い木は良い実を結び
悪い木は悪い実を結ぶ

日本キリスト改革派教会 中部中会教育委員会

もくじ

まえがき	木下裕也	3
巻頭説教「次の世代に向き合うために」	二宮 創	4
論文「オランダ改革派教会における契約の子の教育」その二 牧田吉和	牧田吉和	7
寄稿「腹話術習得法」その一	大西敏雄	12
日曜学校・教会学校訪問 東京恩寵教会		16
中学生・高校生のための教会史 第26課～第38課	杉山 明	19
『日曜学校教案誌』発行のための自由基金のお願い		36
2002年10・11・12月分カリキュラム		37
聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例		39
10月6日		40
10月13日		48
10月20日		56
10月27日		64
11月3日		72
11月10日		80
11月17日		88
11月24日		96
12月1日		104
12月8日		111
12月15日		118
12月22日		125
12月29日		132
幼稚園 工作		139
小学科下級 工作		140
2003年1・2・3月分カリキュラム		143
2002年度カリキュラム(2002年4月～2003年3月)		144
編集後記		146

まえがき

木下 裕也（豊明教会牧師）

私が中部中会の教育委員会の働きに一度目に加えていただいたのは、今から八年ほど前のことであつたと思います（今年から再び教育委員会のメンバーです）。その当時から委員会での討論においても、従来から中会内で、また改革派教会全体で広く用いられていた教案誌についてしばしば論評され、また中会の教会学校教師研修会などの場でも、改革派教会の手による教案誌を求める声があがっていたように記憶しています。

私たちの教会でもその教案誌を購入していましたが、やはり改革派教会の教案としてはそのまま用いることには問題も感じ、日曜学校教師会のおりに「教案研究」の時間を設けてその内容について検討し、時には修正をほどこしながら用いていました。

しかしある時、この教案誌の使用を一度とりやめてみてはどうかとの意見が出され、勇気は要りましたが教師会として思い切って決断しました。もちろん私たちの教会独自の教案をつくることを前提にしてのことです。

その後一年間、他教会で用いておられた「子どもカテキズム」を参考にさせていただきながら、牧師が毎週の教案を書きました。とにかく大変な仕事で、内容的にも不十分であつたこと

を、今も教師方に申し訳なく思っています。

そういう中で相馬伸郎教師から、中部中会で（当初は有志の牧師と日曜学校教師方で）教案誌をつくっていく旨の志をお伺いし、またお誘いも受けました。毎回力不足を覚えながら何とかここまで持ちこたえてきたというのが実感ですが、この働きをとおして多くのことを考えさせられ、また大きな益を受けることができました。

今年度の大会役員修養会でも青年伝道や教会教育の問題について、かなりの時間をさいて活発な討論がなされました。今は改革派教会全体として、この重要な問題を根本から問い直し、将来に向けてしっかりとしたヴィジョンを描くための大切なときであらうと思います。

さらに、この教案誌を大会教育委員会の発行にしていこうとの方向性が打ち出され、検討がすすめられてもいます。できるかぎりすみやかに実現するよう、期待をこめて待ち望んでいるひとりです。もちろん執筆陣をより広く求めることができることや、経済的な便宜等もありますが、何より日曜学校のカテキズムもやはり憲法の領域にかかわるものである以上、大会的な配慮と指導のもとにすすめられていくことがふさわしいと考えるからです。

「次の世代に向き合うために」

—テサロニケの信徒への手紙2章7～12節による説教—

二宮 創（筑波みことば教会牧師）

「これからの改革派教会」……これが修養会の主題である。私たちが大会をあげて機構改革や、女性役員や、適正な財務について取り組んでいるのは、今ここにいる教会役員のため以上に、私たちの教会の未来のため、すなわち次の世代の兄弟姉妹のためにほかならない。私たちの労苦は、次世代のための奉仕とも言えよう。

今回の特徴は、私たち教会役員が、改めて次世代に向き合おうとする営みにある。この場で奉仕して下さる兄弟姉妹たちのみならず、教会に居るはずなのに姿を消してしまった契約の子たちや、教会に来て居場所を見つけれない若者たちも、向き合いたいのである。

修養会を始めるに際して、私たちはまずもって御言葉に耳を傾け、使徒パウロが教会の次世代にどう向き合ったかについて、ご一緒に思いを巡らそうではないか。

「テサロニケの信徒への手紙」は、使徒パウロの書簡の中でも最も初期の作品と言われる。初代教会に対する使徒の初々しい教えが、ここに残されている。しかもこの手紙は、迫害によって引き離されてしまった使徒パウロが、生まれたばかりの乳飲み子のような教会に、何とかして命の糧・霊の乳を送り届けようとする情愛に満ちており、霊的に幼い兄弟姉妹を懸命に養育しようとする親心に溢れている。

苦難の中にある兄弟姉妹たちが、「信仰によって働き、愛のために労苦し、希望をもって忍耐している」様子を伝え聞いたパウロは、矢も盾もたまず筆を取って、1章の始めから3章の

終りまでという異例の長さで挨拶をしたためた。先程朗読した2章7～12節には、使徒と教会共同体が一緒にいた頃の様子が回想されている。

7～8節、「私たちはキリストの使徒としての権威を主張することが出来たのです。しかし、あなたの方間で幼子のように成りました。ちょうど母親がその子供を大事に育てるように、私たちはあなた方をいとおしく思っていたので、神の福音を伝えるばかりでなく、自分の命さえ喜んで与えたいと願ったほどです。あなた方は私たちにあって愛する者となったからです。」

驚くなかれ！パウロはなんと！福音を宣教する自分の使命と献身を、「幼子に対する母親の営み」に譬えている。7節〈母親〉と訳された言葉トロフォスは、生みの親を意味する母メーテルと区別されて〈乳母、養育者、看護婦〉を意味する。キリスト信者の生みの親は、造り主・贖い主・慰め主なる神ご自身にほかならない。パウロはそのことを意識して、「幼子に乳を与える乳母」に福音宣教者である自分を譬えているのである。幼い教会に霊の乳を与える使徒は、7節〈大事に育てる〉乳母に譬えられる。〈大事に育てる〉と訳された言葉は、もともと「温める、和らげる」という意味を持つ。乳児を胸元に抱き寄せて温める……幼子の顔を見つめながらその心を和らげる……そんな乳母の姿が見事に浮かび上がってくるではないか。霊的に幼い兄弟姉妹に霊の乳を与える仕方、これと同じだということである。

注目すべきは、8節〈神の福音を伝えるばかりでなく、自分の命さえ喜んで与えたいと願った〉という告白である。幼子を温め、和らげ、

霊の乳を飲ませる。この営みを経てパウロは、自分の命さえも与えて悔いなしという境地に至った、というのである。この情愛こそ、主イエス・キリストが十字架で示された犠牲的愛、あの神の愛に倣う愛でなくて何であろう。残念なのは、7節〈あなた方の間で幼子のようにになりました〉という読み方である。これでは折角の譬が台無しになってしまう。実はここには、もう一つの本文が伝えられている。口語訳のように〈あなた方の間で優しく（柔和に）振る舞った〉と読むべきであろう。

使徒パウロは、霊的な乳飲み子たちを招き寄せる柔和な乳母、幼い兄弟姉妹たちに霊の乳を自分の命と共に与える優しい母親。この麗しい回想録は、更にこう続く。

9～12節、「兄弟たち、私たちの労苦と骨折りを覚えていてでしょう。私たちは、誰にも負担をかけまいとして、昼も夜も働きながら、神の福音をあなた方に宣べ伝えたのでした。あなた方信者に対して、私たちがどれほど敬虔に、正しく、非難されることのないように振る舞ったか、あなた方が証しし、神も証しして下さい。あなた方が知っている通り、私たちは父親がその子供に対するように、あなた方一人一人に呼びかけて、神の御心にそって歩むように励まし、慰め、強く勧めたのでした。御自身の国と栄光に与らせようと、神はあなた方を招いておられます。」

もう驚かない！パウロは期待通り！自分の使命と献身を、今度は「子供に対する父親の営み」に譬えている。古代の父親像を用いて、自分の営みのもう一つの側面をいきいきと描くのである。9節〈誰にも負担をかけまい〉。キリストの福音によって誕生した神の子たちを、わが子と認知した父親は、幼い子供たちに負担をかけまいと〈労苦し骨折った〉〈昼も夜も働いた〉。経済的負担をかけて教会の成長を妨げることがないように、パウロは福音宣教の働きの傍ら、

自分でパンを得るためにも、額に汗して働いたのである。

教会の次の世代の成長を願い、経済的負担をかけまいと働く父親パウロは更に、信者である子供たちに対して、10節〈敬虔に、正しく、非難されることのないように振る舞った〉と告白する。神の御心に適うように、自ら姿勢を正した。世にあって咎められる所のない清い者とされるように、邪悪で曲がった時代にあっても非の打ち所がない神の子供とされるように、自ら模範となって一生懸命に努力した。そう告白するのである。この姿は、律法の文字や世間の体裁を気にして、ビクビクするような姿と全く違う。むしろ、聖霊の恵みと感謝の生活に心がけて、暗れ暗れと礼拝・賛美・奉仕・勤労する「赦された罪人の姿」である。

自らを罪人と称してはばかりず、しかも赦された罪人として生きる模範を子供に示し、12節〈一人一人に呼びかけて、神の御心に沿って歩むように励まし、慰め、強く勧めた〉とある。〈励ます〉と訳された言葉は「傍らに呼ぶ」の意、〈慰める〉と訳された言葉は「傍らで語る」の意、〈強く勧める〉と訳された言葉は〈証言する、証かしする〉の意である。子供を傍らに呼んで語りかけ、神と共に歩む道筋を自らの模範をもって証しする。この姿こそ、地上を旅されたキリストの受難と栄光の姿、弟子たちと共に歩まれた主イエスに倣う姿でなくて何であろう。

戦後50年。まもなく60周年を迎える、日本キリスト改革派教会の歴史を振り返る時、そこに私たちは、パウロそっくりの先輩たちの姿を見るのである。幼子を胸元に抱き寄せて霊の乳を含ませる母親たち、子供の傍らで神と共に生きる模範を示す父親たちを見るのである。キリストの十字架に示された犠牲的愛に倣って、霊的な幼子を愛し抜いた母親たち。主イエスの受難と栄光に満ちた旅人の姿に倣って、育ち盛りの兄弟姉妹を教え諭した父親たち。そんな先輩た

ちを思うのである。

先輩への感謝を共有する私たちは、ひとつの痛みをも共有している。霊的な父親や母親から受け継いだ愛を、次の世代に伝えようと努力しているのに、それが思うにまかせないという痛みである。先輩たちのやり方に倣い、キリストの愛を受け継がせようと労苦しているのに、なかなか次世代に伝わらないという痛みである。見落としてはならないこと。それは、次の世代たちにも痛みがあるということ。今ここにいる私たちと、心が通じない……話しても分かってもらえない……そんな痛みを、彼らも抱いているのである。今ここに、世代間の大きなギャップがある。それぞれに痛みを覚えながら、ただ言葉もなく、遠巻きにお互いを見つめている。そんな世代間の破れ目に今、私たちは立たされ

ているのである。

では、私たち教会役員は何をなすべきなのか。それは、世代間の破れ目に立っていて下さる主イエス・キリストの御姿を、霊の眼でしかと見ることはなかるうか。神でありつつ人となられた仲保者が、私たちの痛みだけでなく、次世代たちの痛みを共感して下さるからである。主イエスへの全幅の信頼がなければ、キリストに倣う私たちの営みは空しい。しかし、主イエス・キリストへの信頼さえあれば、使徒パウロに倣って次世代に向き合う営みは、必ず実を結ぶに違いない。

(2002年6月11日、大会役員修養会・開会礼拝にて)

「オランダ改革派教会における契約の子の教育」 その二

牧田 吉和（神戸改革派神学校校長）

前回（第5号）は、オランダ改革派教会の契約の子の教育が「家庭」と「学校」と「教会」の「トライアングル」において成立していたことを指摘し、その三つのうち「家庭」における契約の子の教育について紹介いたしました。今回は、残りの二つ、「学校」と「教会」における契約の子の教育について紹介させていただくことにします。

II. オランダ改革派教会のカテキズム教育と「学校」

1. 改革派信仰の確立と学校の設立

オランダにおいて宗教改革が起こり、改革派信仰が導入された時、重要な意味をもったのは学校教育でした。改革派信仰が国民の間に定着するためには、子供たちが改革派信仰の原理によって教育される必要があったからです。すでに1574年の「ドルトレヒト地方大会」は牧師たちに良い学校を作るように要請しており、1586年の「ハーグ全国総会」は学校の設立が中会、小会の責任であることを表明しています。1582年の「ネイメイヘン地方大会」は公権力に対してハイデルベルグ信仰問答によって教育が行われる学校の設立を求めています。

2. 学校をめぐる教会と公権力との関係

このようにして改革派信仰に基づく学校が設立されて行くのですが、問題となったのは学校をめぐる教会と公権力との関係でした。学校は教会と公権力に依存せざるを得なかったのです

が、その際教会と公権力がどのような相互の関係を保つかということが問題になります。全体的な状況としては、両者の関係は比較的良好でした。教師の任命は両者が一緒になって行っていましたし、また教師の試験は教会が、給与、学校の施設関係、教科書などの教材、その他の財政面は公権力が責任をもつ、という役割分担がなされていました。後には生徒が費用を負担するという事態もおこったのですが、それに伴って教会の執事的奉仕が機能し、貧しい子供たちの援助を行ったのです。いずれにしても、どの子供たちにも教育を受けさせねばならないという強い自覚があったことは確かです。

教会の側の学校に対する責任に関して言いますと、中会あるいは牧師たちによる監督責任が定められていました。教会は、教師たちの品行と仕事振り、特に信仰教育の仕方また教科書について厳しく監督しました。子供たちも調査対象とされ、信仰教育が効果的になされているかどうかを知るために、教理に関して試験さえ実施されたのです。教会の監督責任は、学校規則にも及び、定められていた改革派信仰の堅持が正しく維持されているかどうかも調査されました。しかし、教会による監督責任も18世紀には入るとないがしろにされる傾向が生まれ、そのためにその息慢が糾弾される事態も起こります。この事実は、18世紀には学校経営に関して、教会よりも公権力の方がより大きな影響力を持つようになっていたことを裏づけるものです。

学校の教師は特に教理に関して中会あるいは小会によって試験されました。また、教師とし

て、敬虔な生活、信条に関する誓約、改革派教会の信徒であること、戒規に服すること、教育の能力などが条件として要求されました。しかし、これらの条件を満たす教師を得ることは必ずしも容易ではなかったことも事実のようです。

3. 学校教育の内容

学校教育は、一市民として生活するために、読むこと、書くこと、計算することなどの実用的な教育、また道徳やしつけなどを行いました。何よりも重要な意味を持ったのはやはり信仰教育でした。1618-19年の「ドルトレヒト全国総会」は、教理問答教育のために週二日を割くことを要求しました。教理問答教育を担当したのは、当然のことですが通常は教師でした。しかし、特別な状況では、牧師や教会の教理問答教師が担当することもありました。

教理問答教育の内容に関しては、例えば、1586年の「ハーグ全国総会」の定めたところによれば、低学年のクラスでは使徒信条、十戒、主の祈り及びその他の祈り、中級クラスに進むと教理問答、福音書や書簡を読むことなどを教えることが求められました。さらに一般的には聖書歴史、教会史も教えられました。祈りに関しては、朝夕の祈り、食前食後の祈りなどの訓練がなされ、詩編歌を歌うことも教えられ、それによって教会の公同礼拝の参加への備えがなされたのです。

教材としての教理問答書に関しては、1618-19年の「ドルトレヒト全国総会」は、初級の生徒には「ABCブック」、中級の生徒にはファウケリウスの「キリスト教要理」、高学年には「ハイデルベルク信仰問答」を指定しました。これは一例であって、前回家庭で用いられた教理問答に多様性があったように、学校でも様々な教理問答書が使用されたのです。

教理問答教育の方法ですが、1618-19年の「ドルトレヒト全国総会」が指示していますように一般的には「記憶」が重視されました。教師

の前で暗誦して言えることが要求されました。成績優秀者は教理問答説教がなされる教会の教理問答礼拝の中で暗誦を実演することが求められました。

III. オランダ改革派教会のカテキズム教育と「教会」

1. 聖日午後の教理問答礼拝の確立

オランダ改革派教会の契約の子の教育のトライアングルの第三は「教会」です。「教会」におけるカテキズム教育は、何と言っても聖日の午後に行われた教理問答礼拝が中心的役割を担いました。

オランダにおいて、聖日の午後に教理問答に基づく礼拝がなされるようになったのは歴史的には1570年前後からです。教理問答礼拝に関連して、1568年の「ヴェーゼル協議会」また1571年の「エムデン大会」は、どのカテキズムを用いるかの選択の自由をまだ認めていました。1574年の「ドルトレヒト地方大会」はハイデルベルク信仰問答の使用に言及しています。1578年の「ドルトレヒト全国総会」及び1581年の「ミッデルブルフ全国総会」はハイデルベルク信仰問答を用いることを、またフランス語を使用するワルン教会に対してはジュネーブ教会信仰問答を用いることを定めています。1586年の「ハーグ全国総会」はハイデルベルク信仰問答の使用を決定し、それ以来教理問答礼拝とハイデルベルク信仰問答は一体的なものとなったのです。

当初の頃は、教理問答礼拝と別個に特に子供たちのための教理問答教育がなされていたわけではありませんでした。むしろ、子供たちも教理問答礼拝に出席することが期待され、学校の教師たちには子供たちを教理問答礼拝に導くことが要求されていました。この点から、すでに言及しましたように教理問答礼拝の場における子供たちの教理問答の暗誦が実施されていた事

情も理解していただけるでしょう。

教理問答礼拝自体はオランダ改革派教会の教会形成にとって重大な意味を持つと考えられていましたので、これを定着させるために歴史的にはかなり粘り強い努力が傾けられました。中会は教理問答礼拝の実施状況について牧師たちに報告させたり、中会自身が乗り出して状況把握に努めるといった事態も起こっていました。1586年の「ハーグ全国総会」や1618-19年の「ドルトレヒト全国総会」は毎聖日午後の教理問答礼拝の実施を義務付けることにもなりました。たとえば、牧師や学校の先生そして彼らの家族、さらに子供たちしか出席しなかったとしても教理問答礼拝を実施することを要求したのです。

これらの動きからも察せられますように、教理問答礼拝を根付かせるのに困難が伴っていたようです。一例を挙げれば、1606年の「ウトレヒト地方大会」によれば、27教会のうち教理問答礼拝を実施していたのは3教会のみでした。これは例外ではなく、他の所でも同様な状況がありました。その理由としては、牧師の能力や怠慢の問題、教理的差異の問題、安息日聖別の軽視、公権力が非協力……等々の問題点を挙げる事ができるでしょう。

このような困難さが伴ったにも関わらず、中会は教理問答礼拝のために牧師たちを訓練し、ハイデルベルク信仰問答の解説書なども用意しました。また中会は、教理問答礼拝がどのように実施されているか絶えず監督し、それを怠っている場合には戒規の執行さえいとませんでした。公権力も安息日の聖別を軽視するものに対する方策を講じ、協力いたしました。このような努力の積み重ねによって、17世紀の後半には教理問答礼拝は一般的にはほぼ定着することになります。つまり定着までに少なくとも百年近い年月を要しているのです。

教理問答礼拝の順序は地域によっていくらかの差がありました、一般的には次のように行われました。

- (1) 聖書朗読
- (2) ハイデルベルク信仰問答の朗読
- (3) 教理問答説教
- (4) 子供たちによる信仰問答の暗誦

2. 教理問答礼拝とは別個の教理問答教育の定着化

教理問答礼拝と並んで、やがて子供たちの教理問答教育が別個に行われるようになりました。これは、元々は、学校にどうしても行けない子供たちもいて、それを補う意味で学校に代わる教理問答教育の場として考えられたものです。しかし、もう一つの重要な理由としては、教理問答礼拝が子供たちに適合するには少し難しくすぎるという実際的な問題がありました。そのため教理問答礼拝とは別の教理問答教育の場の必要性が自覚されるようになりました。すでに1618-19年の「ドルトレヒト全国総会」はハイデルベルク信仰問答の解説がキリスト教教理の最初の踏台としては子供たちの能力に余ることに触れています。しかし、その時にはまだ教理問答礼拝とは別個の教理問答教育をもたらすには至っていませんでした。

別個の子供たちの教理問答教育の試みが見られるようになったのは、1620年頃です。その頃から、中会の調査でその必要性が認識され、地方大会でも論議の対象にはなっていました。17世紀半ば頃から中会は教理問答礼拝とは別個の子供たちの教理問答教育を実施するように各教会に義務づけるようになっていきます。しかし、1673年の「ハーグ地方大会」が報告するところによれば、この時期になっても子供たちの教理問答教育を実施していない教会があったことがわかっています。実際上、各教会において教理問答教育と並んで別個の教理問答教育がなされるように徹底したのは、やっと17世紀の終わりぐらいのことです。この点でもやはり長い年月が必要だったのです。

3. 教理問答教育の実際

子供たちの教理問答教育の実際の状況は、時間的には聖日午後の教理問答礼拝の後で持たれることが多かったのですが、後には週日に、月曜から土曜まで教会の事情によって色々異なって実施されるようになりました。

場所的には、会堂、聖歌隊の部屋、小会室、場合によっては学校や孤児院などが使用されました。時間的には一時間ぐらいの長さでしたが、ヘウステン教会を例に取れば、午後4時から5時半までは女子のクラス、5時半から7時までが男子のクラスとして行われました。クラス編成は、男女、年齢別でなされ、場合によっては経済的に貧しい子供たちのクラスが別に編成されることもありました。

教理問答教育の教師としては、牧師はもちろんですが、教理問答教師（神学教育を受けていないが、小会によって受け入れられた伝道者）、女性教理問答教師（特に女子の教理問答教育を担当する）、牧師候補者、また教授たちがその責任を担いました。

教材としては、すでに家庭や学校における教理問答教育のところでも挙げた様々な教理問答が使用されました（具体的な教理問答の名はすでに挙げましたので、ここでは触れません）。これは家庭と学校と教会の一体的関係からすれば当然理解できることです。

教会の教理問答教育を終えて、信仰告白をするのは初期には14才頃でしたが、後になると遅くなり16歳から18才までが普通になりました。

しかし、以上で教理問答教育が全部終了したわけではなく、信仰告白を願い出ていざ聖餐にあずかろうとするとき、そこでも「信仰告白教理問答教育」を受けねばなりません。期間はいくらかの差がありましたが、例えば1646年のアムステルダムでは8週間にわたって、1655年頃のアルンヘムでは4週間にわたって週二回づつの教理問答教育を受けねばなりません。さらに、陪餐会員になって後も、毎聖日の

午後の礼拝でハイデルベルク信仰問答の説教を聞き続け、そのようにして生涯にわたって教理問答教育を受けつつ、教会生活を過ごすことになります。

IV. 現在のオランダ改革派教会におけるカテキズム教育

これまでオランダ改革派教会のカテキズム教育を歴史的な側面から概観してきましたが、現在のオランダ改革派教会のケースについて少し触れておきたいと思います。ただし、筆者が具体的に知っているのは「解放派オランダ改革派教会」(GKNV)の状況で、それをそのままオランダ改革派教会全体に当てはめるのは少し乱暴ですが、オランダ改革派教会の歴史的伝統の一端は知っていただけるでしょう。「解放派オランダ改革派教会」は1952年にカイバーなどが属していた「総会派オランダ改革派教会」(GKN)から分離した教会で、K. スキルダーがその中心的指導者でした。会員数は10万人ぐらいです。ここでは、特にこの教派の「学校」と「教会」の問題を取り上げることにします。

オランダでは19世紀後半に公立学校と私立学校の平等性が法律的に認められ、信徒たちの意思によって学校を設立することが原理的に可能になっています。私が属していたカンペンの改革派教会も900人ほどの会員数でしたが、同教会の会員立として幼稚園・小学校を持っていました。国家からの援助はありますが、相当の経済的犠牲を払うことなしには経営は成り立ちません。それでも改革派信仰に基づく教育を行うために会員たちはその犠牲を引き受けていました。筆者の子供たちがその学校に通っていた頃は、2学年の合同クラス編成でそれぞれクラスが大体20名ぐらいでした。日本で言えば分校程度の規模です。教派として自分たちの学校の教員養成機関をもっていましたので、教師はそこで訓練された人たちでしたし、同じ教会の会員

でもありました。教科書も教派として独自のものを用いていました。全体が改革派信仰に基づく教育でしたが、信仰面の教育としては聖書を教えることが中心で、低学年では特に詩編歌を暗誦させることに力を入れていました。このため主の日礼拝の子供たちの詩編歌の賛美は実にか強いものでした。いずれにしても、子供たちの信仰教育を自分たちの手で行うという強い決意と熱心に溢れていました。

教会のカテキズム教育は、伝統に忠実に行われていましたし、今もそうです。小学校を卒業する年令から6年あるいは7年の間教理問答教育が施されます。相当の年数ですからそれが徹底して行われることは容易に想像できるはずで、教会員の両親にはこれに出席させる義務が伴います。クラスは、日曜日ではなく（日曜日には教会学校はありません）、週日に週一回夕方から夜にかけて持たれ、年令別に分かれて、教理問答教育が行われています。教理問答教育といっても、教理問答だけではなく、契約の子の包括的な教育です。例を挙げますと、聖書知識、聖書歴史、教派の信条すなわちハイデルベルク信仰問答、ドルト信条、ベルギー信条、自分たちの教派の歴史を含む教会史等々、それぞれ年

令に合わせたテキスト・ブックによって教育を行います。このような訓練を受けた後に、信仰告白に至ります。したがって、教理教育を終了すると、日本の場合でいえば神学校の一年生ぐらいの信仰的知識は持つことになります。このような教育が、説教の水準を高くし、真理にしっかりと基礎づけられた、歴史に耐える教会を形成させることになります。

結び

オランダ改革派教会における契約の子の教育の状況を歴史的に追ってきました。オランダ改革派教会の持っている特有な歴史的状況がありますから、当然そのままわたしたちの教会に当てはめることはできません。しかし、歴史を超えて、信仰的には契約信仰という共通の基盤に私たちは立っています。従って、オランダ改革派教会の特殊性を十分に承知しつつも、今まで記してきたことが日本キリスト改革派教会の契約の子の教育の今後を考える上で必ず何かのヒントになるはずだ、と筆者は確信しています。そのようにこの小さい一文が用いられることを心から願っています。

腹話術習得法 その一

大西 敏雄（尾張旭教会牧師）

腹話術は、術者と人形が、聴衆（大人・子供たち）を相手に楽しくおもしろく話して、しかもひとつのまとまりのある話をする術です。

腹話術のやり方を説明します。目的は、皆さんが教会学校で聖書のお話を子供たちに楽しくわかりやすくする手段として、活用していただくためです。腹話術の人形の入手は非常に困難ですが、最近「口が動くぬいぐるみ」が売られていますので、それを利用して腹話術ができるように、腹話術のやり方を説明します。

今回は、おもに発声練習について説明します。次回、台本について。

1. 発声練習

腹話術といっても、腹芸ではない。人形の声の発声は腹から出すのではない。むしろ頭の後ろから出す感じ。術者の声と人形の声はまったく違った声にする。

◎術者の声を胸音または腹音という。普通の声を出す。

◎人形の声を頭音といい、頭の後ろからでるような高い声を出す。

のどだけを使うとすぐに声でなくなるので、なるべく複式で話すように工夫する。

(1) 頭音の発声練習

まず、頭音を出す練習をする。この場合まだ口は動いて良い。高い声を出す練習である。（周囲の人に気が狂ったと思われないように注意）

◎五十音で発声練習をする。

(2) 基本発声

頭音が出せるようになったら、次に、術者（胸

音）と人形（頭音）の高低の違う声を交互に出す練習をする。この場合も頭音はまだ口が動いて良い。

例：○は術者、◇は人形（以下同じ）

○あいうえお（胸音） ○かきくけこ（胸音）

◇アイウエオ（頭音） ◇カキクケコ（頭音）

○さしすせそ（胸音） ○たちつてと（胸音）

◇サシスセソ（頭音） ◇タチツテト（頭音）

以下略……

◎違う二つの声のでるようになりませんか。

二つの違った声をだせるようにならないと、とにもかくにも腹話術はできませんから、頑張って高い音を出してみよう。

◎頭音が十分高い声が出ているかどうかを確認するため、テープレコーダーを用いて練習すると良い。

次に頭音発声のときに、唇が動かないように練習する。この場合も、胸音と頭音を交互に発声して、練習する。手鏡で唇を見ながら練習し、唇を動かさないコツをつかむこと。これがチョットむずかしい。

コツは、上下の歯が軽くあたるようにして、発声すると良い（糸切り歯をつける）。上下の歯が離れていると、どうしても唇が動きやすくなってしまふ。

(3) 特殊発声

実は、破裂音は唇を動かさないと発音できない。いっこく堂は破裂音を唇を動かさずにできるのです。ま行、ば行、ぱ行の15音です。ために声を出してみれば、すぐにわかる。そこで基本的には、この発音を人形が使わないように

する(このことは、台本作成時の工夫を要する)。しかし、人形が破裂音を全く使わないわけにはいかないで、次のように特殊発声をする。

たとえば、人形は「マリア」と言えません。破裂音「マ」があるからです。そこで、「マ」を「ナ」に置き換えて発音するのです。「ナリア」と言う具合に。破裂音は、下段のようにそれぞれま行、が行、た行に置き換えるのです。

- まみむめも (胸音) ○ばびぶべぼ (胸音)
- ◇ナニヌネノ (頭音) ◇ガギグゲゴ (頭音)
- ばびぶべぼ (胸音)
- ◇タチツテト (頭音)

◎特殊発声練習

ひらがなを胸音で、カタカナを頭音で練習してみましよう。

ま行 (カッコ内が頭音)

- | | |
|-------------|-------------|
| まりあ (ナリア) | まち (ナチ) |
| みなさん (ニナサン) | みず (ニズ) |
| おかし (ヌカシ) | おら (ヌラ) |
| めし (ネシ) | めいれい (ネイレイ) |
| もーせ (ノーセ) | もん (ノン) |

ば行

- | | |
|-----------|---------------|
| ばず (ガス) | ばらく (ガラク) |
| びん (ギン) | びょういん (ギョウイン) |
| ぶどう (グドウ) | やこぶ (ヤコグ) |
| べる (ゲル) | べんとう (ゲントウ) |
| ぼく (ゴク) | ぼくし (ゴクシ) |

ば行

- | | |
|-----------|-------------|
| ばん (タン) | ばうろ (タウロ) |
| びん (ちん) | ピアノ (チアノ) |
| ぶーる (ツール) | だんぶ (ダンツ) |
| べとろ (テトロ) | べるしゃ (テルシャ) |
| ぼてと (トテト) | ぼけっと (トケット) |

◎破裂音使用上の注意

イ、破裂音をどうしても使わねばならないときは、まず術者が使ってから人形が言うといい。

例 ○ゴリアテと戦うのは、ダビデです。

◇ダギデ ヤレー

(こうすると、聴衆には、ダビデ、と聞こえるものです)

(ここで人形がガンバレーと言ってしまうと、また破裂音が入ってします)

ロ、ひとつの単語に破裂音が二つ以上はいる言葉は、人形に使わない方がよい。

例 アブラハム (アグラハヌ)、かみさま (カニサナ)、つみびと (ツニギト)、バラバ (ガラガ)

◎特殊発声練習 (応用編)

破裂音の部分、言い換えて発声してみよう。まず、胸音で、次に頭音で (唇が動かないように注意して)

イ、今日は、クリスマス、みんなでイエス様のお誕生をお祝いしましょう。

ロ、ペトロは、その晩、イエス様を三回も知らない、と言っていました。

ハ、今晚は、まるい、まるい、まんまるい、おぼんのような月だ。

ニ、交番は、町の目抜き通りの立派なビルの右側二軒目です。

ホ、パウロとバルナバは、安息日に町中の人々に主のことばを語りました。

ためしに、特殊発声を使わずに、唇を動かさずに、頭音で発声してみてください。正しい発音ができません。

2. 人形操作打音練習 (人形を使って練習する)

人間がしゃべるとき、単語の数だけ、何回も口を開くわけではありません。つまり、「はい」と言うとき二回も口を開きません。一回だけです。「おはよう」なら二回、「さようなら」なら三回です。五回も口を開きません。「ザアカイ」なら二回です。ですから、人形の口を開くときも、この要領でいいのです。

(1) 打音：一回（口を開く回数）

ウン、ハイ、イヤ、ヨシ、
エー、ネー、ソー、アー、ハー

◎打音：一回で術者と人形の対話をしてみよう。

例：○は術者、◇は人形（以下同じ）

○クリちゃん
◇ハイ
○人がたくさんいますね。
◇ウン
○では、そろそろ始めようか
◇イヤ

(2) 打音：二回

ナアニ、ソーカ、ドーレ、ダーレ、ナンダ、
クダサイ、シラナイ、オハヨウ

◎打音：二回で対話をしてみよう。

(3) 打音：三回

サヨウナラ、ソーデスカ、アッソーカ、ウ
レシイナ、アイシテル、サビシイナ、ワルイ
ネー、シッテルヨ、シラナイヨ

◎打音：三回で対話の練習をしてみよう。

(4) 割り込み練習（術者のはなしの中に、人形の打音入れて、対話をする練習）

これはアドリブでやる時に必要になります。台本に基づいて演技できるようになってからでもいいと思います。

例：術者の言葉、「クリちゃん、尾張旭教会がどこにあるか知ってるかい。尾張旭駅の近くだよ。瀬戸の方に歩いて、二つ目の踏み切りのところだよ。その踏み切りのところでごらんと見回してごらん。すぐに見つかるよ。」

練習例

○クリちゃん
◇ハイ

○尾張旭教会がどこにあるか知ってるかい。

◇ドコニアルカ
○そう。知ってるかい
◇シラナイヨ
○尾張旭駅の近くだよ。

◇フーン
○瀬戸の方に歩いて行くんだ。
◇ソーデスカ
○二つ目の踏み切りのところだから
◇ソーナノ
○そこでぐるって見回してごらん。
◇クルッテ
○そうそう
◇アッタ

(5) 練習上の注意

イ、胸音は、ゆっくり、大きな口ではっきりと

ロ、頭音は、ニッコリチーズで

ハ、打音は、正しく

ニ、腹式呼吸ができる姿勢で

(6) 普段の練習

発声や、術者と人形との対話を普段から練習する。家や車の中で練習する。ただし電車内ではしない方がいい。周囲の人がどう思うか。たとえば、運転しながら次のように。

◇オジサン（信号が）アカダヨ
○じゃー 止めるか。
◇トマッタネ
○ブレーキ 壊れて いないもん
◇ヨカッタ
○あっ こんなところに ローソン があるよ。
◇ジュース ホシイナー（「飲みたいなー」なら ノニタイナーとなる）
○だめだめ うちに帰るまで 我慢しなさい。
◇ケチ
○背になったぞ

- ◇ゴー トナリノ クルナ(ま)ニ ナ(ま)
ケルナ
- よーし まかしとき
- ◇アーア オソイヨー

3. 人形(ぬいぐるみ) 操作上の注意

- (1) 人形は生きているように見せるのだから、人形の角度や動きに注意する。人形があま

り傾きすぎて不自然な姿勢にならないように。鏡の前で練習する。また、演技が終わった後で、他者にアドバイスしてもらう。

- (2) 術者と人形と聴衆との三者がひとつとなるように、術者や人形の動きに注意する。人形は術者も聴衆も見る。

東京恩寵教会日曜学校の紹介

東京恩寵教会日曜学校教師・前校長 渡辺 純一

東京恩寵教会は、渋谷区の恵比寿や代官山といったトレンドな若者たちが集まる、ちょっとお洒落な町の一角にあります。34年間教会して下さった榊原康夫先生の後任として昨年、三野孝一先生が着任されました。また、開拓伝道を担当した協力牧師の芦田高之先生は、この春、青少年伝道について学ぶため米国留学に旅立たれました。もう一人の協力牧師である塩田隆良先生が私たちの日曜学校の校長先生です。

現住陪餐会員約300名の、都心にある大きな教会ですが、片道1時間以上を掛けて通う会員がほとんどで、日曜学校の生徒の構成を見ても、近隣に住む子供はきわめてわずかで、出席している生徒のほとんどがいわゆる契約の子たちです。毎週の日曜学校の礼拝出席数は20数名程度と、名簿上はその倍以上いるのですが、規模の割には少ない状況が続いています。私たちの教会は湘南の茅ヶ崎で開拓伝道をしています。約1年前に献堂した教会でも10名前後の子供たちが集って日曜学校がもたれています。

日曜日の9時10分、教師たちが集まり、その日の説教箇所を朗読し、ともに祈って日曜学校の活動が始まります。礼拝は9時20分から、そして分級は9時50分からの30分間です。受付の奉仕は中等科の生徒が輪番でおこないます。教室の入り口に立って礼拝プログラムを手渡します。そこには今週の暗誦聖句が載っており、初歩教理問答と併せて毎週覚えさせます。また今月のテーマソングとして、その月の主題に関係する賛美歌を歌います。偶数月の最終日曜日には賛美歌唱指導があり、発声練習をして賛美の豊かさを楽しさを学びます。

教案はCS成長センター発行の『成長』をもとにしており、各週の主題や説教題、さんびか番号、奉仕者名などをまとめた「ホサナ」という題の機関誌を日曜学校生徒の父母向けに発行しています。裏面には、教師が輪番で担当する「聖書日課」が載っています。最終週には牧師の三野孝一先生が説教して下さいます。

私たちの日曜学校の分級は、幼稚科年少、幼稚科年長、小学下級、中級、上級、そして中等科という6クラスで構成されています。いま一番生徒数多くてにぎやかなのは中等科で、全員女子です。教師は、中等科を担当する塩田校長先生（協力牧師）をはじめ、全員で9名いますが、夫婦や親子で教師をしている人もいます。そのほか、会計の担当者、奏楽の奉仕者、歌唱指導者、また幼稚科の誕生会のためのケーキ

6/2	地の塩、世の光 マタイ 5:13-16 (聖) 新山み (祝) 角谷 (節) 上野原ら 主題 今リスト者として、この世にあってその使命を果した。
礼拝	主イエスは山上の説教で、キリスト者はこの世にあって、地塩を回す使命をもち、また地味な事を誇らず光として輝くように、御前夜に輝いて生きるよう勧められた。
分級	第1) 118 (節) 上級 (節) 3年次生 Q: 118P 「地の塩」「世の光」になった時、「世の光」「世の下に輝くともし大」の聖句を学ば。

6/9	主にある兄弟との平和 マタイ 5:21-26 (聖) 藤高は (祝) 藤高は (節) 藤高は 主題 主にある兄弟と平和を築く。
礼拝	主イエスは山上の説教で、主にある兄弟とは神に平和を築くように勧められた。兄弟を「悪か者」と言うことは人前ではどないこと、兄弟には兄弟と神様を通して和解するように勧められた。
分級	第1) 118 (節) 中級 (節) 3年次生 Q: 118P 主と兄弟関係が主と神様を通して行われなければならない時、神様と私たちの関係が主とある。

6/16	主の祈り1 マタイ 6:5-10 (聖) 佐野し (祝) 藤田 (節) 藤田み 主題 主の祈りの祈りは、神様を賛美する祈り。
礼拝	主イエスは「この祈りなさい」といって、弟子たちに「主の祈り」を教えた。その祈りは難しく「父よ」と呼びかけて、祈りの順序で神様を賛美する祈りが三つある。
分級	第1) 118 (節) 中級 (節) 藤田 Q: 118P 神様を賛美する祈りの内容を深く学び、神様に近づく時、神様の恵みを受け。

6/23	主の祈り2 マタイ 6:11-13 (聖) 宮本直 (祝) 中島ひ (節) 佐藤上 主題 主の祈りの祈りは、私たちに贈る祈り。
礼拝	主イエスが教えた「主の祈り」の祈りは、私たちに贈る三つの祈りである。祈りが贈られることを感謝して祈りの祈りであり「アーメン(そと祈りです)」と祈ります。
分級	第1) 118 (節) 下級 (節) 藤田 Q: 118P 「主の祈り」の祈りの祈りの内容を詳しく学ぶ。「主の祈り」を、はっきりと心から祈れるようになる。

6/30	神の上に建てた家 マタイ 7:24-29 (聖) 藤高上 (祝) 三野孝一 (節) 角谷 主題 主イエスの教えをよく聞いて、それを行う人になる。
礼拝	主イエスは山上の説教で、御前夜を聞いて行う人を堅固な家の上に家を建てた人、また御前夜を聞くだけの人を砂の上に家を建てた人にならされた。
分級	第1) 6 (節) 中級 (節) 藤高上 Q: 118P 歌謡指導 (高橋孝一先生、伴野一志先生)

<今月のさんび>

教会学校せいか 66

「だれでもキリストにあるならば」



ホサナ2002年6月

日	月	火	水	木	金	土	
30	新 422ページ 新書船を舟に (マタイ1:22)					1 新 0ページ 預めぬい入る (マタイ6:7)	
2	新 0ページ あなたがたは世の光 (マタイ5:14)	3 新 0ページ あなたがたは世の塩 (マタイ5:13)	4 新 181ページ わたしは世の光 (ヨハネ8:12)	5 新 103ページ 光の手となるために (ヨハネ12:38)	6 新 357ページ 光の手として歩みなさい (エフェソ5:8)	7 新 354ページ 世の光のために選られた (エフェソ2:10)	8 新 7ページ 人々の目に輝かしなさい (マタイ5:16)
9	新 0ページ 可哀な罪を犯す人々 (マタイ5:9)	10 新 7ページ 兄弟に目を立てる者は (マタイ5:22)	11 新 7ページ まず行って罪を清めし (マタイ5:23-24)	12 新 7ページ 罪を清めしなさい (マタイ5:25)	13 新 279ページ わたしたちがまだ盲人で あったとき (ローマ5:8)	14 新 357ページ 新しい道に上 (エフェソ4:32)	15 新 371ページ 世しなさい (コロサイ3:13)
16	新 0ページ 笑におられる わたしたちの哀よ (マタイ6:9)	17 新 127ページ 涙を拭いてください (ルカ11:1)	18 新 0ページ 涙るときは (マタイ6:6)	19 新 02ページ 涙を拭くまはぬいうちに (マルコ1:35)	20 新 0ページ 涙るときは (マタイ6:7)	21 新 0ページ 涙を拭くまはぬいうちに (マタイ6:10)	22 新 0ページ 涙を拭くまはぬいうちに (マタイ6:10)
23	新 0ページ わたしたちの真い目を 拭いてください (マタイ6:12)	24 新 0ページ 涙を拭くまはぬいうちに (マタイ6:11)	25 新 0ページ 涙を拭くまはぬいうちに (マタイ6:13)	26 新 0ページ 涙を拭くまはぬいうちに (マタイ6:8)	27 新 11ページ 涙を拭くまはぬいうちに (マタイ7:11)	28 新 10ページ 涙を拭くまはぬいうちに (マタイ6:20)	29 新 11ページ 涙を拭くまはぬいうちに (マタイ6:33)

くりの奉仕者など、生徒数の割には多くの兄弟姉妹が日曜学校に係わり、支えてくださっています。

これら奉仕者のなかには、日曜学校の卒業生が多くおり、かつて教わった先生の子供を担任するという事は珍しくありません。私はもう20年以上も恩寵教会で日曜学校教師をしているのですが、かつての教え子たちと一緒に教師をつとめ、今、息子たちは彼らに教わっています。また、幸いなことに、毎年、信仰告白する契約の子が与えられており、そのお祝いに日曜学校から英和对訳の聖書や聖書小辞典をプレゼントします。こうしたサイクルで信仰が継承され、日曜学校が営まれていることを主に感謝するものです。

日曜学校の活動ではありませんが、午後にもたれる教会学校のうち、男子会と婦人会がある時間帯には、「契約の子科」というクラスが開かれます。これはもともとは契約の子らの信仰教育とまじわりの場ということでスタートしました

が、今では、もっぱら共に遊び、おやつを食べながら仲間同士が触れ合うことが中心です。早期から長い時間をかけて教会に通う子供たちが、近くの公園で一緒に遊んでリフレッシュするのみならず、主にある友達関係を築くうえでも必要なひと時です。また男子会や婦人会の裏番組として子供たちを預かり、それらの会に出やすくするというねらいもあります。

「父母会」という会が年2回開かれています。聖日の午後の約2時間、日曜学校の父母や、祖父母、また子育てを終えた方たちも時々加わって会がもたれます。家庭礼拝のこと、部活や塾に通うこどもの主日のすごしかた、クリスチャンスクールの必要性、賛美を豊かにするには、というようなテーマで、発題者を立てて自由に語り合う楽しい会です。大きな教会ですので、学校の教師やプロの音楽家などさまざまな職業についているひとが大勢いるため、幸い講師の確保には事欠きません。

さて最後に、年間行事をご紹介します。4月の最初の聖日は進級式です。クラスごとの生徒と担任教師の紹介して記念写真を撮り、年間行事をおさらいします。年によってその前後にイースター記念礼拝と祝会を開きます。ゲームをしたり、スライドを見て、イースターエッグがプレゼントされます。5月と9月には上記の父母会があります。

なんといっても皆が一番楽しみにしているのが7月末頃に二泊三日でもたれる「夏期学校」です。これは湘南伝道所と合同で開かれ、ここ数年は御殿場のYMCA 東山荘が会場です。以前は週日にもたれていたのですが、数年前から日曜の午後から開催されるようになりました。礼拝がおわるとすぐに玄関に集合し、皆で一緒にお祈りをささげます。そして会員の人たちに見送られて出発です。電車に乗って二時間半ほどかけて会場につくのですが、車内で弁当を食べたり、おしゃべりしたり、楽しい移動時間です。

10月にはピクニックがあります。これは日曜

学校が主催し、教会員も参加して近くの公園に出かけて野外スポーツをしたり歓談してつるぐ、ゆったりとした交わり会です。そして一年の締めくくりはクリスマス礼拝と祝会です。数年前から23日の祝日に「こどもクリスマス会」をもっています。看板を掲げて近隣の子供たちにも案内し、また普段誘いたくても家が遠いので誘いにくかった友達にも声を掛けやすいように、午後の時間帯に開いています。礼拝の後、生徒全員参加の降誕劇を演じます。持ち寄ったプレゼントを交換するお楽しみタイムはおおいに盛り上がります。

以上、東京恩寵教会の日曜学校の様子をご紹介します。出席率の向上、近隣の子供たちへの伝道、教師の若返り？など、課題はいろいろありますが、日曜学校は次代の教会を担う働き人を育てるための教会全体の活動であるとの理解がある限り、祝福されることを信じて教師としての務めに励みたいと思います。



夏期学校焼そばパーティー



子供クリスマス会でのプレゼント交換会

中学生・高校生のための教会史

杉山 明 (瑞浪伝道所宣教師)

第26課 中世後期の修道院とその影響

托鉢修道会の発生

中世前半の修道院が教皇権確立のために貢献したことについて第22課で学んだ。中世後期の修道院も教会に大きな役割を果たすが、修道院そのものの形態が異なって来た。12世紀半ばまでの修道院は、「共生修道院」と呼ばれ、農業社会に支えられた封建社会に貢献し、その中で厳しい規則を守る自己修練を通して罪に立ち向かう集団として存在してきた。12世紀になると社会はルネサンスや都市生活の勃興、商業社会の成立、一般大学の発生、ローマ法の再興が図られ、商業や工業を中心にした貨幣経済社会へと移行してきた。このため、市民階級の間に伝統的ローマ教会と異なる考えや意見を持つ者が現われた。教会は新しい対応を迫られたが、これに十分な理解と対応を示すことができず、従来 of 修道院を強化し、市民の宗教生活の要求をそこに吸収しようとした。

しかし、都市部の市民は共同体の中に自己を埋没して個人を発揮できない修道院の改革では満足せず、福音書の教えを遵守し、それにふさわしい宗教生活を熱望した。都市部では、従来 of 共生修道院生活ではなく、自分の意志と願望によって神との霊的合一を求める個人的修道生活の実現が福音書に示されている清貧運動として発生し、カタリ派という異端集団や福音的信徒集団であるワルド一派などの群れが現われた。

これに衝撃を受けた教会は、彼らに匹敵する敬虔、熱意、禁欲の心を持ち、彼らよりも高い学識を持った説教者を必要とし、新たな集団を説得し教会の中にとどめようとした。インノ

ケンティウス三世やシトー会のベルナルドゥスやクリューニー修道会のペトルス院長などが都市部に出かけ、その働きに従事した。また、この目的のために二つの托鉢修道会が13世紀に誕生し、教会の活生化のために活動を開始した。托鉢修道会と呼ばれた理由は、彼らが修道院の財産によってではなく、托鉢によって日常生活を支えて伝道活動に従事したからである。

ドミニコ会

スペインのオスマの司教であったドミニクスは、イスラム教徒や異教徒への伝道に熱心であったが、宮廷の任務を携えてローマを訪れ、その帰途に南フランスのアルビー地方を通過し、カタリ派(別名アルビー派)が聖職者の墜落を非難していることを知り、同情を持つと共に、彼らへの伝道の熱意を与えられた。帰国したドミニクスは、1204年、ディエゴ司教の指導のもとで伝道者を集め、使徒的清貧をもって献身する必要を訴え賛同者を得た。司教の死後、ドミニクスが後継者となり、アルビー地方に赴き説教者として活躍した。1207年、フランスのブルイユに宣教師を派遣すること、改宗婦人たちを收容すること、その子供たちを教育するという三つの目的を持った伝道本部を設立した。数年後の1215年、トゥールーズに拠点を得たので修道会の認可を教皇庁に申し出、翌年になって教皇ホノリウス三世によって創設許可を得た。清貧、財産の放棄、救霊に加えて、研学と説教に努めることがこの会の特徴であった。したがって、この会からトマス・アクィナスやサヴォナ

ローラなど偉大な中世の神学者が輩出された。

フランシスコ会

ドミニクスが献身を決意したのと同じ頃、中部イタリアのアッシジの出身者で、本名ジョヴァンニ・ベルナルドネ（あだ名はフランチェスコ）が病気を経て献身を決意した（1206年）。托鉢によって生活を維持し、町々を巡って不幸な人々を助け、会堂の修理に力を注いだ。1028年、マタイ福音書10章7～14節の御言葉によって一枚の衣と縄を帯とし、福音の喜びを伝える者となり、20年間説教者として過ごした。その説教に心を動かされた人々の中から、「小さい兄

弟たち」と呼ばれるフランシスコ会が誕生した。1209年、イノケンティウス三世に会の承認を求めたが受け入れられず、翌年になって承認を得ることができた。続いて、女子修道会や第三会と呼ばれた平信徒の会も発足した。この会は、まったく建物を持たない貧しい修道会であったが、伝道には熱心でドミニコ会と同様に17世紀初頭には日本にも宣教師を派遣した。

以上のように、福音の伝道を目的とした托鉢修道会が出現し、教会の墮落を一時的に防ぐ役割を果たしたが、ローマ教会の本質を変えるまでには至らなかった。

第27課 中世の学問と教理

中世の神学の概略

古代教会は、キリスト教信仰の神論、キリスト論の確立、カトリック的教会論と福音的理解にたった救済論を明らかにした。古代の二倍にも及ぶ長い期間である中世に、教会の神学はどのようになされたのだろうか。

これまでの中世教会の学びを振り返ると、教皇権と王権を巡っての戦いやそれに付随する出来事と、教会の伝播について述べ、神学的課題について触れてこなかった。それは、中世に神学の営みが全くなかったからではない。中世教会は古代教会がほぼ確立した神学を受け継ぎ、保存することに終始し、神学的発展が余り無かったからである。しかし、中世後半の11世紀から14世紀末まで、イスラム世界との接触によりギリシア哲学が輸入された結果、スコラ学と呼ばれる神学が盛んになり、その結果、近代のカトリック教会神学の基礎を提供した。スコラ学は、最も本質的なものは理念か事物か、真の存在とは何かという討議から始まった。このような論理学が神学の問題に適用されるようになり、神学の発展を見るようになった。

11世紀と12世紀のスコラ学

第一期スコラ学と言われるこの期間には、救いの確かさを知ろうとする欲求を知識による合理的理解によって満たそうという目標のもとに営まれた。アリストテレス（BC4世紀のギリシアの哲学者）の弁証法的方法論を用いて、キリスト教の教理を人々に理解させようとした。たとえば、「神は最大のものである」という証明されていないが普遍的な真理を土台とし、「最大のものはすべてを含む」という特殊な事実結び付け、その二つの関係から「ゆえに、神は存在する」という結論を引き出すという演繹的三段論法を用いて、神の存在を証明した。

この期間の有名なスコラ神学者は、イギリスのカンタベリーの大司教アンセルムス（1033～1109年）である。普遍的理念が個々の事物より本質的な実在であると考えた実在論にたつて神存在の証明をする『プロスロギウム』という書や、神の受肉が絶対に必要であることを理性によって解き明かした『クール・デウス・ホモ』（いかにして神は人となられたか）という書をあらわした。この書によって、キリストの身代金

は悪魔に払われたのではなく、神の義を満たすために神に払われた（満足説）という贖罪論を明らかにした。アンセルムスと対立した学者アペラルドゥスは、「信じるために知る」と主張し、宗教的権威に対する批判心を表明した。

13世紀のスコラ学

アリストテレスの学問の影響を最も強く受けたのがこの期間のスコラ学である。アリストテレスは弁証学だけでなく、自然学、倫理学や形而上学をも極めたので、その学問全体が教会の神学に影響し、哲学と神学が一致するという思想が広がった。理性と啓示は二つの異なった知識の源泉であり、共に神からでているので矛盾しないと信じて宗教と哲学の調和をはかった。

この時代の代表者は、『神学大全』を書いたトマス・アクィナス（1225～1274年）である。また、アクィナスと同様に神学と哲学の調和を主張したが、霊的照明に最高の位置を与えて神秘主義的傾向をもったボナヴェントゥラ（1221～1274年）もこの時代に活躍した。アクィナスの最大批判者としてはドン・スコートゥス・ヨ

アネス（1264～1308年）が登場した。宗教と哲学の調和を否定し、啓示から離れては真の知識を得ることはできないと主張し、スコラ主義崩壊の芽となった。

14世紀と15世紀のスコラ学

この期間は、トマス主義とスコートゥス主義の対立に加えて、普遍的なものは個々の事物を考察する結果でてきた概念に過ぎず、真に実在するのは個々の事物であると考えた唯名論が盛んになった。オッカムのウィリアム（1300～1349年）はその代表者であり、信仰と理性は働く場所が異なり、神学は哲学的に論証できないと主張した。神学は権威によって受け入れられるだけであり、その権威とは教会の権威でなく聖書の権威であり、聖書のみが信頼できる無謬の権威であると説いた。長期間、教会が普遍的真理として受け入れてきた教皇の権威への信頼が揺らぎ、中世の教皇主義の崩壊を推し進める原因となった。彼の主張は公会議派のジェルソンに受け継がれた。

第28課 中世信者の生活

スコラ学者たちの影響

知的理論的研究に励んだスコラ神学者たちはキリスト教徒たちの中では例外的存在であり、一般の信徒たちは彼らとは異なる具体的な信仰表現によって自分たちの信仰を維持していた。教会の指導に従って、教会のミサに参加することを中心に信仰生活を送っていたが、そのほかに一般信徒に人気のあった信仰成長のための具体的表現は、聖人崇拜（特にマリア崇拜）、聖遺物の重要視、巡礼、聖地回復への献身（十字軍への参加）などであった。スコラ学者たちがそれらの信仰成長への手段について、理論的裏付けをし、民衆の信仰表現を助けた。

マリア崇拜と聖人崇拜

多くの異教徒が回心し、大衆に信仰が広がるにしたがいマリア崇拜が盛んになった。12世紀になると、マリアは普遍的な母として受け止められ、キリストと共に偉大な執りなし手と考えられるようになった。マリアの地上の生活が終わると、体も魂も天にあげられたという信仰が生まれ、また、処女マリアへの祈りのために東方からロザリオ（祈りを数える珠をつなげた道具）が導入されて一層盛んになった。その頃から、キリストの人間性が強調され、母マリアにも関心が高まり、イエスの母は自分たちの母でもあると考え、マリアは万人の保護者として尊

ばれるようになった。自分の罪がどんなに重くてもマリアが御子と共に与える憐れみに満ちた執りなしに期待し、農民も騎士たちも、また支配者たちもマリアの助けを求めた。「マリアの無罪性」の教理を説いて、マリア崇拜に神学的裏づけを与え、助長したのがスコラ神学者たちである。彼らは人間一般の罪については認めたが、マリアを例外視したのである。マリアの無罪性を主張する神学者たちは、1140年のリヨン会議においてこれを導入しようと図ったが、失敗した。とはいえ、フランスコ修道会の支持を受け、次第に好意をもって教会に受け入れられるようになった。マリア以外の聖人たちも同様に、自分たちで償えない罪を助けてくれる保護者としてイエス・キリストより身近に受け入れられるようになった。聖人崇拜は6世紀にローマ教会の礼拝の中に導入されたが、マリア崇拜と同様に、定着したのは、中世のスコラ学者たちの「諸聖人たちの功德」という思想によってである。

聖遺物の重要視

マリア礼拝や聖人崇拜という民間の信心が盛んになるにつれて、聖遺物の売買が行なわれるようになった。新しく建設される聖堂に聖遺物を安置することが流行し、それによって聖堂の価値を高めようとさえした。ローマ教会は莫大な聖遺物を貯え、これを諸教会に売った。信者たちも聖遺物の力を信じてお守りとするために、その断片を買い求めるようになった。

巡礼

聖人崇拜が盛んになり、聖遺物が重要視されるようになると、遺物や聖人たちの遺骨を安置している有名な教会を訪問し、彼らの執り成しを受けようという巡礼が盛んになった。霊廟への巡礼は、肉体的にも霊的にも癒しをもたらすという信仰によって、ますます拍車がかけられるようになった。聖地への巡礼は理想であったが、困難と危険が多いため、特別に信心深い人や苦行を科せられた者だけが行なった。一般信徒が訪れた主な巡礼地は、教会の総本山ローマ教会、イギリスの中心教会であり、殉教者トマス・ベケットの教会であったカンタベリー教会、スペインにあるコンポステラの聖堂であった。コンポステラは伝承によると使徒ヤコブの殉教の地に建てられた教会である。そのほかにも殉教者と関係の深い教会が巡礼地として選ばれた。聖地への巡礼は最高の価値を持ち、イスラムによって阻止されていた聖地回復のための十字軍に、民衆も喝采を送った。

民衆は、神の御言葉への熱心はなく、以上のような外的信仰生活への熱心によって信仰成長を図ろうとした。これを容認し、推奨した背後には教会の「改悛の教理」があった。洗礼は原罪を消し、主の晩餐は微罪を消滅するが、道徳的罪の消滅には、「改悛」が必要であると説いた。改悛は罪の告白と償いを必要とし、償いのための行為として、断食や施し、苦業をとこなう巡礼などが推奨された。

第29課 宗教改革の先駆者たち

15世紀半ば、公会議派によるローマ教会内改革運動が最終的には挫折したのであるが、それで墮落した教会の改革運動の芽がすべて刈り取られたのではなかった。16世紀に起きる宗教改革運動が成功するために、道備えをする人々を神は備えておられた。

神秘主義者

教会の混乱は、ある人々を信仰の内面に向わせた。ドミニコ会や女子修道院の中で敬虔を重んじるようになり、ドイツやオランダで神秘主義が育まれた。魂を神に向け、神の働きかけである魂の火花で神を認め、神と出会い、一体と

なることを説いたマイステル・エックハルト(1260～1327年)に始まり、罪の観念と神の恩寵を説いた神の友グループのヨハン・タウラー(1282～1361年)、敬虔な内的生活を教えたオランダの修道士トマス・ア・ケンピスなどの思想が、後の宗教改革者たちに影響を与えたのである。

異端カタリ派の出現

教会の墮落に改革の狼煙をあげた人々の中に、11世紀、南フランスのアルビ地方にボゴミールという人物の影響を受けた人々が出た。新約聖書を重んじ、結婚を禁じ、道徳的禁欲主義を説いて民衆をひきつけた。自分たちこそキリストの真の弟子であると主張し、ローマ教会からの離脱を図った。彼らの思想は二元論であり、善神と悪神を信じ、肉体は悪神に由来するのでキリストの受肉を否定した異端である。ローマ教会が弾圧迫害したが、13世紀半ばまで抵抗を続けた後、ローマ教会に懐柔吸収されて消滅した。しかし、ローマ教会の教会組織を揺さぶり、次のワルド一派の出現に影響を与えた。

ワルド一派

カタリ派の教会改革運動に触発されるように、12世紀の半ばに、同じアルビ地方からワルドーというリヨン出身の商人が立ち上がった。私財を投じて献身し、信徒による巡回伝道を開始した。聖職者たちの不品行を取り上げ非難したため、リヨンの大司教から説教を禁じられ、教会会議の議題となった。ローマ教会は教会規則に従わない異端として1187年にワルド一派の追放を決定し、更に1215年の第四回ラテラノ公会議で、再度異端と宣告した。ワルド一派の教義は、新約聖書を重んじ、福音を説き、ローマ教会が支持していた煉獄、死者のための布施、贖宥、誓いなどを否定し、使徒的清貧の生活を勧めた。民衆の改革運動として広がったが、弾圧によってフランスでは消滅、イタリアでは残存し、イタリアのプロテスタント教会の祖となった。そ

の福音的性質のゆえに、宗教改革者の先駆者とみなされている。

ジョン・ウィクリフ(1320～1384年)

14世紀になると、イギリスの哲学者であり、神学者であるウィクリフが、教皇庁の墮落を知り、「正義のないところには権威はない」と唱えてローマ教皇の首位性を攻撃した。教会のかしらはキリストであり、万人祭司説を唱え、個人の信仰を重んじ、聖餐式では化体説を否定し、キリストの霊的臨在を主張した。また、自国語で聖書を読むことを推奨し、弟子と共にラテン語聖書の英訳を完成した。こうしてイギリスの教会改革を遂行した。ローマ教皇からは異端として弾劾され、死後、1415年に断罪され、墓を暴かれて遺体は火刑に処せられた。しかし、教会改革の精神と聖書に立つ教理が次の世代の人々に受け継がれた。

ヤン・フス(1369～1415年)

ウィクリフの思想に感銘を受けたボヘミヤ(チェコ)からの留学生がいた。彼らは祖国に帰ると、ウィクリフの思想を紹介し、大学において改革思想を広めた。その講義を受け、触発されてボヘミヤの改革を实行しようとした人物が現れた。ヤン・フスである。プラハ大学総長となり、国王の支持をえてローマに支配されないボヘミヤ教会設立を目指して教会改革に乗り出した。フスは、聖書の権威を力説、礼拝における説教を重要視し、個人的敬虔と生活の純潔を重んじ、化体説を否定した。そのため、ローマ教会より説教を禁じられ、1411年と12年に破門を宣告され、1415年に火刑に処せられたが、人々への影響は大いなるものがあつた。

ジロラモ・サヴォナローラ(1452～1498年)

フィレンツェの教会改革を行い、教皇と教会の世俗化を非難し、教皇無謬説を否認し、火刑に処せられた修道院長の名も忘れてはならない。

第30課 宗教改革時代の世界の状況

宗教改革運動結実のための摂理的配慮

14世紀以来、教会の墮落を嘆いて教会の改革を叫んだ先駆者たちが改革運動に立ち上がったが、志は果たされず、多くは教会の秩序を乱す者として破門され、処刑され、実を結ばなかった。改革運動は苦難の時を経なければならなかったが、けっして消滅したのではなかった。初代教会の驚異的進展のために、神が古代世界を摂理的に整えられたたように、宗教改革運動成功のためにも、社会的状況を摂理的に整えておられた。15世紀はローマ教皇を頂点としたピラミット型の中世社会の崩壊をもたらした世紀であった。民族国家建設の意識の高まり、ルネサンスに代表される人間の知的変化、ローマ教会自身の道徳的退廃などが教権主義的な中世社会を揺さぶり、新しい社会のあり方や新しい教会のあり方を生み出す要因となったことを第24課と第25課で学んだ。この課では、宗教改革運動を成功させる原因として社会的変化とそれともなう経済上の変化があったことに注目しよう。

社会上の変化

民族的國家建設の意識や知的変化をもたらした原因は、遠くは十字軍の遠征にあった。閉ざされた中世ヨーロッパがイスラム世界に直接触れ、捨て去っていたギリシア哲学を発見し、知的刺激を受けた。また十字軍を運搬するために海運業が発達し、貿易が盛んになり、人々の目を世界に向けるきっかけともなった。十字軍に参加するために諸国の君主や諸侯たちは、土地を売り、莫大な費用にあてなければならなかった。そのために封建的大土地所有が崩れ、金融業や商業に携わる中産階級を生み出した。ローマ帝国の時代から、世界の経済は貴族による大農業によって支えられてきた。ローマ貴族からゲルマン民族の諸侯に土地所有者が変化したと

はいえ、中世も農業によって経済が支えられてきた。ところが13世紀頃から徐々に中産階級が力をつけ、社会を担う人々の層が多様化し、経済の担い手にも大きな変化が生じた。

フィレンツェのメディチ家の台頭

その代表者が北イタリアの町フィレンツェのメディチ家である。ルネサンス文化の中心都市となったこの町に、商人から大富豪となったメディチ家があった。メディチ家の中でもロレンツォ（1449～1492年）の時代には、ミケランジェロやレオナルド・ダ・ビンチなど多くの芸術家が彼のもとに出入りし、その保護を受けた。彼は結婚関係によってローマ教皇の親戚となり、息子の一人をローマ教皇の位につけることに成功した（レオ十世）。

フッガー財閥の登場とハクスブルク家

ロレンツォの死後、メディチ家の衰退が始まるが、それに代わってアルプスの北側のドイツに強力な財閥フッガー家が台頭した。毛織物商から出発したこの家系に、ヤコブ二世（15世紀後半）が登場する。彼はヴェネツィアとの戦いに敗れて賠償金が必要になったハクスブルク家の一員であるオーストリアの支配者ティロル公ジクムンドに、銀山を譲り受けることと交換に金を融通し、神聖ローマ帝国皇帝位を保有するハクスブルク家に取り入った。やがてフッガー家は、産出する銀によって大資本家となった。他方、ハクスブルク家は、1477年、ブルゴーニュ公シャルルが死去したとき、公女との結婚関係を結んでブルゴーニュ領を手に入れ、フランスに対抗する一大王国を築いた。フッガー財閥は、このハクスブルク家と結びついたのである。そのみならず、教皇、ドイツの諸侯とも取引をし、宗教界や政治界に影響を及ぼすカ

を持つようになった。

神聖ローマ帝国皇帝カール五世の登場

ブルゴーニュ公女と結婚をしたのは、マクシミリアン一世であり、1493年には皇帝となった。政略結婚によりスペインの王女ジョアナを息子フィリップスの妃に迎えた。幸運にも息子夫婦に生まれたカルロスがスペインの王とな

り、スペインをも支配下においた。1519年、マクシミリアン一世が死去し、次期皇帝の選出は、フランス王フランソワ一世とスペインの王カルロス一世との間で争われ、カルロス一世が皇帝に選ばれ、カール五世と名乗った。フッガー財閥はカール五世誕生に一役買い、フランソワを支持した教皇庁の力を凌ぐほどであった。

第31課 ルターとドイツ宗教改革（一）

16世紀に入ると、先駆者たちの精神を吸収し、教会の基本的教理と制度の両面にわたってローマ教会と対決する宗教改革者を神は起こされた。その先陣を切ったのが、ドイツの改革者マルティン・ルター（1483～1546）である。

ルターと宗教改革の精神

ザクセンの鉱夫の息子として生まれたルターは、エルフルト大学で法学を学ぶうちに、この世の栄達を捨て、修道院に入り、神学の研鑽に励むようになった。1507年には司祭となり、同時にヴィッテンベルク大学の講師となり、哲学や道徳哲学を講義するようになった。1511年にはアウグスティーン修道院副院長となり、大学教授の地位も得た。その間、神に近付くために、修道院や教会が定めた善行に熱心に励んだのであるが、励めば励むほど、魂の内に潜む罪の存在と罪を罰する神の義におののき、平安を得ることが出来ないういた。その悩みが解決される日が訪れた。1513年頃、ローマの信徒への手紙1章17節の「福音には、神の義が啓示されていますが、それは、初めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。『正しい者は信仰によって生きる』と書いてあるとおりです」という聖書の言葉に接したときであった。この御言葉を通して福音がキリストの教えの中心点であるとの確信を抱き、さらに聖書の研究を深めて宗教

改革者ルターが誕生した。人間のいかなる業も、律法の逆行も、厳しい苦行も、また教会が定めた儀式すらも人間の救いをもたらさず、ただ十字架の死によって罪人をあがなってくださったキリストの義を信じることによって救いが与えられることをルターは確信した。

ルターの改革運動の発端

このような時、メディチ家から出た教皇レオ十世がローマの聖ペトロ大聖堂の大修理の計画を立て、そのための資金を得るために1506年以来贖宥符（免罪符）を発行していた。一方、ドイツのマインツの大司教アルブレヒトはマグデブルクの大司教の地位を獲得するのに教皇庁への多額の初収入税を納めた。そのお金はフッガー一家からの借り入れであった。借財を返済するために、アルブレヒトは、贖宥符の販売を引き受け、自分の管轄領域の売り上げの半分を教皇庁に、半分は自分の収入として確保しようとした。贖宥符の販売を実際に担当したのはドミニコ会修士ヨーハン・テツェルであった。テツェルは、「死んだ親しい者の救いのことを思わないのか。……悔悛し寄進料さえ払いさえすれば、誰でも罪障の赦しが与えられる。……お金が箱の中でチャリンと音を立てさえすれば、魂は煉獄の焰の中から飛び出し天国に舞上がるのだ」と唱えながら贖宥符を売り歩いた。

ルターが住んでいたザクセンでは、領主であるザクセン選帝侯フリードリヒ三世がこの贖宥符の販売使節の立ち入りを禁止していたので、贖宥符が売られるのを見たわけではなかったが、販売使節がザクセン領土に近付くと、これを求めて領民たちが隣接するマルデブルク領に買いに走るといった事態に遭遇し、販売のあくどさを耳にした。そこでルターは贖宥符販売に表されている免償の教理の弊害を説教で教えると共に、宗教改革の狼煙となる「九十五個条の提題」を、1517年10月31日、大学の掲示板でもあったヴィッテンベルク城塞教会の扉に掲示した。最初からルターは、ローマ教会との対決を考えたのではない。ルターの願いは大学の指導者や教授たちの間で論議され、ローマ教会が贖宥符販売の乱用の過ちに気づいてくれると期待してこ

れを書いたのであった。

九十五個条への反応

ルターの思いを超えて、九十五個条の提題は反響を呼んだ。九十五個条はドイツ語に翻訳され、ドイツ全土に行き渡り、同意者を得ると共に、反論者にも遭遇した。同調者は、1518年夏、ギリシア語教授としてやってきたメランヒトンである。最初の反論者はテッツェルである。強力な反論者はイゴールシュタット大学教授ヨハン・マイヤー・エックで、後に論争に加わった。1518年、マインツの大司教アルブレヒトとドミニコ会によって、ルターの主張が異端であるとローマ教皇に訴えられ、ルターの意志を超えて、ローマ教会との対決への道を進むことになった。

第32課 ルターとドイツの宗教改革（二）

ローマ教皇庁との対決へ

ザクセンに住む一人の修道士が贖宥符販売に関して批判した文章が、ドイツを超えて問題化した。九十五個条の提題が出された翌年の1518年には、ローマ教皇庁とルターの対決という様相を呈してきた。告発を受けた教皇レオ十世は、ローマへの召喚状と文書検閲官のプリエリオの検閲結果をルターに送り、異端であることを通告した。ローマ召喚に応じたら、異端の宣告を受けて宗教改革は実現しなかったのであるが、神聖ローマ帝国皇帝を選ぶ有力な選帝侯であるザクセンの領主フリードリヒ三世がルターの国外退去を禁じ、保護した。フリードリヒはまた、ローマでの裁判を神聖ローマ帝国の議会での教皇特使による審問に変更させ、1518年、アウグスブルク帝国議会を開かせた。教皇使節カエタヌスに審問されたが、ルターは「人を義とするのは、教会の秘蹟ではなく、信仰である」との立場を譲らず、議会は決裂した。フリードリヒ

のはからいによって、ルターはヴィッテンベルクに逃れた。

ルターの三大文書

1519年には、エックとの論争がライプチヒで行われ、ルターは教会の権威に対する聖書の権威の優位性と公会議よりも聖書の権威の優位性を主張せざるを得なくなった。公会議の権威否定の故に、1520年6月15日、教皇による断罪勅書が発せられた。ルターは自分の信仰的立場をより明確にする必要に迫られ、宗教改革推進のための三大文書を1520年に表した。8月には『キリスト教的階級の改善についてドイツのキリスト者貴族に与える書』を、10月には『教会のバビロン幽閉』を、12月には『キリスト者の自由』を書いた。第一の書は教皇権の独裁の不当性に諸侯が目覚めることを、第二の書ではローマ教会の道徳的、教理的誤りを論じ、第三の書ではキリストへの信仰によってのみ義とされる

との福音の本質を力説している。

カール五世の誕生とウォルムスの会議

ルター問題で揺れる1519年にハプスブル家のカール五世が皇帝として登場した。選挙ではフランスやローマ教皇と対立したが、皇帝となった後には、帝国内の安定のためにローマ教皇の支持も必要であり、1521年4月、帝国議会をウォルムスで開催し、ルターを召喚し、彼の意志を撤回させようとした。16日に開会された議会で、ルターは議場の机に積まれた書物の確認とその内容を撤回する意志があるか否かを審問された。自分の書であることを認めたが、内容の撤回への回答は一日の猶予を求め、翌17日、内容の撤回はできず、またその意志の無いことを明言した。カール五世は、ルターを帝国追放にすること決定し、5月26日にそのための勅令を出した。しかし、ルターは会議からの帰途、フリードリヒの命を受けた騎士たちによってヴァルトブルクに匿われた後、ドイツ領内に留まり、ヴィッテンベルクとヴァルトブルクを往き来しつつ、新約聖書のドイツ語翻訳を完成した。

改革の拡大

ルターの聖書の権威と信仰義認の主張に賛同する人々はさらに改革を推進したが、急進的な

人々は社会運動への発展を目指した。1522年、ライン地方の下層騎士たちが社会的不満から騎士戦争を起こした。早々に鎮圧されたが、1524年から42年にわたって発生した農民戦争は、ドイツ全域に広がった。ルターは、諸侯には農民の要求を聞き入れることを勧め、農民には武力を放棄するように説いた。しかし、トーマス・ミュンツァーに指導された農民たちが無政府状態になったのを見て、農民を非難し、弾圧を容認した。そのためルターは低所得層の支持を失った。

ローマ教会とルター派教会の争い

ドイツ国内において、ローマ教会は南部で力を持ち、北部はルター派教会が力を持つようになった。1526年、皇帝カール五世は、シュバイエルに帝国議会を召集し、ルター主義を抑えようとしたが、ルター派に妥協する結果となった。それに不満なローマ側の諸侯が働きかけ、1529年に第二回シュバイエル帝国会議を開き、前回の議決を無効とし、ルター派を弾圧した。カール五世は両派の対立を和らげるため1530年に帝国議会を開催し、会議は妥協的な「アウグスブルク信仰告白」を採択した。にもかかわらず対立は解消せず、シュマルカルデン戦争が勃発し、1555年になって和平が結ばれた。

第33課 カルヴァン以前のスイス宗教改革

北部スイスの改革

スイスはドイツと同様に神聖ローマ帝国の領土であったが、実質的には自由で、13の州から成る連邦を形成した地方であった。スイスの傭兵は有名で、教皇の守護のために雇われ、あるいは全ヨーロッパからの要求にも応えた。傭兵を雇い入れる見返りに、教皇庁も厳しい干渉をせず、スイスでは州それぞれが宗教形式を採用

する自由を認めていた。従って改革運動を容易に受入れる余地があった。隣国ドイツの宗教改革がルターによって遂行されたところ、スイス北部にも一人の宗教改革者が現れ、改革を遂行した。

フルドリヒ・ツヴィングリ (1484～1531年)

裕福な家庭に育ったツヴィングリがその人で

ある。バーゼル大学やウィーン大学で神学や古典語学を学び、エラスムスに傾倒し、ヒューマニストの精神をもって聖職者となった。1506年から11年間は、祭司として、牧師として、熱心な愛国者として教皇に仕えた。1518年、チューリヒ大聖堂の説教者となったが、その頃、ルターの書物に接して宗教改革の必要に目覚めた。

改革主義に目覚めたツヴィングリは、1522年以来、本格的な改革運動を開始した。聖書の教えによると、献金は神の権威による強制ではなく自発性にあると主張して改革の火蓋を切った。市民がレントの期間の断食を拒絶したことに始まるカトリック査察官を加えての公開討論を三度にわたって開き、勝利をおさめた。1523年、チューリヒの市議会に、キリスト者を規制するのは聖書のみであるとの基本方針に立った「六十七箇条論題」を提出し、市民の賛同を得て、カトリックの礼拝形式を廃止し、説教中心の礼拝を採用し、贖宥符の販売を禁止した。他方、信仰による救い、聖書の権威、キリストの頭性、聖職者の結婚の権威を主張した。1524年の第三回公開討論会を通して非聖書的な要素の廃止を訴え、聖像、聖遺物、オルガンの使用、修道院の財産の没収など提案した。市議会はこの主張をも認め、1525年にはミサの廃止を決定し、実行に移してチューリヒの宗教改革が完了した。ツヴィングリは、ルターよりも聖書の権威に立脚してより徹底的な改革をチューリヒで行ったのである。チューリヒでの改革が公開討論会を経て行われたのは、民主的都市であったからであり、改革遂行のためには、市民の多数決によらなければならなかったからである。教会の運営は、牧師と長老に加えて、政府の代表者が加わって行われたので、国家教會的性格を持っていた。

スイス諸都市との連合と改革

(1) バーゼルの改革

ツヴィングリはチューリヒだけではなく、近

隣の都市の改革に出来る限り支援を送った。スイスのバーゼルはツヴィングリの影響があったが、1522年以来、バーゼル大学教授であり、聖マルティーン教会の説教者であったヨハネス・エコランバーディウス（1482～1531年）の活躍により、福音主義が次第に勝利した。彼はツヴィングリと交友を結び、協力してスイスの宗教改革を推進した。バーゼルの市民たちは、1529年には聖像やミサを廃止し改革を完成した。ツヴィングリと多くの点で一致した見解を持っていたエコランバーディウスであったが、国家と教会の関係については見解を異にし、国家と教会を分離し、教会の自律的教会訓練の必要を説いた。

(2) ベルンの改革

スイス最大の都市ベルンは、チューリヒでの改革と同様に、討論会を経て、民意に聞き、宗教改革の側につくことに決めた。ツヴィングリはこの討論に参加し、改革運動を助けた。その他の北部の都市も福音主義を受け入れることになった。

(3) ドイツのシュトラスブルクの改革

北部スイスから南ドイツへと改革の手は広がり、大都市であるシュトラスブルクがルター主義よりもツヴィングリ主義の改革を採用した。1521年、マテーウス・ツェルが福音主義運動を開始し、それ以来、ヴォルフガング・カビトールやマルティン・ブーツァーによって継続され、1529年に改革を完成した。

ルターとツヴィングリとの教理的相違

福音理解においては同じであったが、聖餐論においては互いに激しく対立した。ルターは聖餐にキリストの身体的臨在を主張したが、ツヴィングリはキリストの身体的臨在を否定し、カトリックの迷信の残存であるとルターを非難した。この聖餐論争によるプロテスタント教会の分裂は、カトリック側を喜ばした。

第34課 再洗礼派の出現

チューリヒ改革への不満

ツヴィングリの合理的精神を支持し、チューリヒの改革を支持していた人々の中に、ツヴィングリの改革が保守的過ぎるとの批判をする市民が現れた。コンラート・クレーベルとフェリックス・マンツである。彼らは幼児洗礼の廃止を主張した。スイスの北端に近いドイツのヴァルツフートの説教者であったバルタザール・フープマイヤーは、幼児洗礼の聖書的根拠がないと考え、ツヴィングリと話し合い、同じ疑義を持っていることを知っていた。ところがツヴィングリは幼児洗礼廃止を強力に推し進めなかった。1525年になって、クレーベルとマンツはそれを批判した。これに答えるために、ツヴィングリとの公開討論会が開催され、ツヴィングリはかつての主張を撤回し、幼児洗礼を支持した。市当局は、その討論の結果、クレーベルたちの意見を退け、幼児洗礼を命令し、彼らの議論を禁止した。また、幼児洗礼に反対する司祭ヴィルヘルム・ロイプリンと同調者を追放した。神の言葉への俗権の反逆とみなされたのであろう。

再洗礼の実施と再洗礼派の誕生

市当局から退けられたクレーベルたちは、同年1月21日、マンツの家に集い、司祭ゲオルク・ブラウロクがクレーベルから洗礼を受けることを申し出、その後、ブラウロクが全員に灌礼による洗礼を施したのである。後には浸礼をおこなうようになった。幼児洗礼を受けた者が再び洗礼を受けたので、このグループが再洗礼派(アナバプティスト)と呼ばれるようになった。1526年には、市当局は再洗礼派の指導者たちを溺死刑に処することを決め、翌年にはマンツにその刑を執行した。このため、再洗礼派の人々は国外に逃れて信仰を守った。

ドイツの再洗礼派

ツヴィングリのとの交わりを持っていたフープマイヤーは、クレーベルたちの主張に共感し、ヴァルツフートにおいて300名の信徒と共に洗礼を受け、再洗礼派の共同体を指導し、成功をおさめた。しかし、ヴァルツフートがカトリックの支配下に置かれたためチューリヒに逃れ、更にモラヴィアに追放され、そこに逃れてきた人々の指導を引き受け、再洗礼派の拠点とした。1528年、オーストリアの官憲に捕らえられ、皇帝の命令によって殉教した。

ドイツでの再洗礼派の最初の拠点はアウグスブルクであり、フープマイヤーから洗礼を受けたハンス・デンクに、デンクから授洗したハンス・フートにと指導が引き継がれた。彼らによって大規模な組織が作られ、各地に宣教師を送ったが、ほとんどが殉教死を遂げた。1527年にフートは火傷がもとで、またデンクも疫病にかかり、この世を去った。指導者を失ったため、1528年から再洗礼派の活動拠点はシュトラスブルクに移った。

シュトラスブルクにいた再洗礼派の人々は、修道士ミヒャエル・ザトラーによって指導されていた。1526年に来訪したデンクが多くの追従者を得たのを見た聖アウレリア教会の説教者マルティン・ブーツァーは公開討論会を開催してデンクに挑戦し、市はデンクを追放した。ザトラーも市を自発的に去ったが、1533年までは、シュトラスブルクには再洗礼派の亡命者が逃れてきて盛況であった。1533年以後は、市当局は再洗礼派を分派とみなし、投獄する対策に出たため活動を妨げられた。

ミュンスターでは、熱狂的な千年王国論を説く指導者メルヒオ・ホフマンの影響を受けたヤン・マティスが現れ、市を支配し、旧市参事会の勢力と戦い、戦死した。やがて戦いに敗れ、

再洗礼派の指導者たちは処刑された。

オランダの再洗礼派

オランダのカトリックの司祭であったメノー・シモンズは、1534年に発生したミュンスターの乱を契機に、ホフマンの思想に影響され再洗礼派の考えに立ち、2年後には司祭職を辞し、「兄弟会」を結成し、その指導にあたった。この「兄弟会」をメノー派と呼んだ。絶対平和主義を唱

え、ミュンスターの再洗礼派の失敗を避け、1676年には信仰の自由を獲得し、教派の地位を得た。

メノー派を含めた再洗礼派の教理は一様ではないが、聖書が信仰と実践の究極的で無謬の權威であること、聖書を解釈する権利が信者にあること、国家教会を否定し、純粋な教会は新生者の集いであること、幼児洗礼の否定と浸礼の主張が共通する教理である。

第35課 カルヴァンの宗教改革

宗教改革者カルヴァンの出生

ツヴィングリによって始められたスイスの宗教改革は、ジャン・カルヴァン（1507～1564）によって完成される。カルヴァンは北フランスのノワイヨンに法律家の息子として生まれたフランス人であった。優秀な頭脳の持ち主であったので14歳でパリに留学し、1528年にはオルレアン大学に、翌年にはブルジュ大学に移り、法学を学んだ。この間、ルター主義の信奉者であるメルキオール・ヴォルマル教授の影響を受け、改革主義の思想を学んだ。1531年、父が死ぬと法律の学びから古典研究に身を転じ、国立のコレージュ・ド・フランスでギリシア語とヘブライ語を学んだ。1533年、『セネカの寛容論注解』という論文を出版した。この年に、カトリックの信仰から福音的改革信仰へと回心した。同年、友人のニコラス・コップがパリ大学の総長となって、開講日に「キリスト教的哲学」という講演を行った。その内容が宗教改革的であったので、コップは逮捕された。カルヴァンは原稿の起草者として嫌疑をかけられて、パリを去り、亡命者として国内を転々とした。フランス王フランソワ一世が、聖餐の化体説を否定する改革者の取締りを強化したからである。やがてカルヴァンは国境を越え、ドイツのシュトラスブルクやスイスのバーゼルに逃れた。バー

ゼル滞在中にキリスト教真理の擁護のために『キリスト教綱要』（初版）の執筆に取り掛かり、1536年に出版した。

第一次ジュネーブ教会の改革

1536年、カルヴァンは北イタリアを訪れたが、身に危険を感じるようになり、再びシュトラスブルクに逃れる道すがら、スイスのジュネーブに宿をとった。ジュネーブはすでにフランス人のギョーム・ファレルによって宗教改革運動が推し進められていた。ファレルはカルヴァンが立ち寄ったことを知ると宿を訪れ、辞退するカルヴァンを強引にジュネーブの改革に参加するように要請、説得した。最終的にはカルヴァンはこの要請を神の召命と信じてジュネーブの改革に献身した。

1536年に始まる第一次ジュネーブ滞在期間は、1538年5月までの短期間に終わった。その理由は、宗教改革が途上にあるジュネーブの社会的状況が激しく混乱し、市民の霊的状況が劣悪であったからである。カルヴァンは着任すると、隣接する州のサドレ枢機卿がカトリックへの復帰を働きかけることに対して『サドレへの返書』を書いてこれを論破、拒絶すると共に、「ジュネーブ教会の機構と礼拝についての条項」案を市に提出し、教会規則と訓練の規準を示し

た。また、『ジュネーブ教会信仰問答』を作成した。教会改革を自由放任になることと受け止めていた市民は、これらカルヴァンの改革を自由の拘束と受け止め、激しく反発した。市当局も同調したので、カルヴァンもファレルも追放された。カルヴァンはシュトラスブルクに逃れ、そこでフランス人亡命者のために奉仕した。

第二次ジュネーブ教会改革 (1541～1564年)

改革者たちが去ったジュネーブは宗教的争いと不道徳によって混乱を深めた。市当局は、カルヴァンの帰還を懇願し、1541年9月にカルヴァンの帰還が実現した。カルヴァンは「神の言葉によって完全にキリスト教界の実生活を支配し、これによって神をあがめること」を根本方針として改革を遂行した。まず、「教会規定」を作成し、承認を求めた。教職者や長老の職務に始まって、礼拝、結婚、葬儀などの規則に加えて、社交や日常生活についての厳しい規則が

記されている。市民たちによる反対運動や様々な抵抗があったが、市民に高度の道徳を求め続けることをやめず、長い苦闘の後、改革に勝利をおさめた。カルヴァンは1564年2月6日の説教を最後に床につき、同労者に改革事業の継続を託し、5月7日にこの世を去った。

改革の手段

カルヴァンが改革のために用いた主な手段は次のとおりである。教理の確立のためには『キリスト教綱要』を補足充実にさせ、礼拝での聖餐と信仰訓練との関係を重視、国防のためには高い教育が必要と考えて大学を設立、家庭においては結婚の重視と改革派信仰の強化、その他教育全般への貢献などである。また、教会の政治については、長老主義を採用し、後世のプロテスタント国家への遺産として民主的代議員制を残した。

第36課 改革派信仰の広がり

ジュネーブにおける宗教改革の成功は、近隣の諸国に大きな影響を与えた。16世紀のうちに、フランス、ドイツのライン河沿いの地、ハンガリー、オランダ、スコットランド、アイルランドなどに改革派信仰の支持者たちが現れた。スコットランドの改革派運動については、次の課にゆずり、その他の改革派信仰に基づく改革運動を簡潔に述べよう。

フランスにおける改革派信仰

フランスの王フランソワ一世とスペインの王カルロスとが皇帝の座を巡って対立したことは第30課で述べたが、フランソワ一世がイタリア問題に干渉したとき、ジャック・ルフェーヴル(1455～1537)に代表される聖書的人文主義がフランスに現れた。ルフェーヴルに感化された

仲間に、後にカルヴァンをジュネーブにとどめたファレルがいた。彼らはモーで改革運動を押し進めた。

ルターの影響を受けた中産階級の人々や労働者たちが抱いていた政治的独占支配階級への不満と聖職者への不平が、教会改革への動力となった。フランソワ一世は、この運動を異端とし、1525年にモーのグループに解散を命じた。

フランスの改革運動はなんと言ってもカルヴァンの登場によって進展する。フランソワ一世への序文の付いた『キリスト教綱要』の出版、ジュネーブから届く文書、ジュネーブで訓練された150名にのぼる牧師の派遣などにより、激しい迫害にもかかわらず、1559年までに組織作りが行われ、改革派教会の進展をみた。1559年、

フランス信条が国民会議で採用され、1560年以後、彼らはユグノーと呼ばれるようになった。カトリック側の後押しを受け、政府は、1562～98年まで八回にわたって、虐殺を伴う激しい弾圧し繰り返した。ユグノーの頭首であったアンリがカトリックに改宗して国王となり、1598年ナントの勅令を出し、改革派信仰に信仰の自由が保証された。

ドイツにおける改革派信仰

ルターによって改革されたドイツであったが、農民戦争へのルターの反対に失望した農民たちは再洗礼派になった。カルヴァンの改革信仰が伝わると裕福な農民たちはこれを受け入れた。ライン河に面する三都市とシュトラスブルクに加えて、1560年にはプファルツ選帝侯フリードリヒ三世が改革派信仰に転じ、南部ドイツに改革派信仰が広がった。彼は信仰告白の作成を命じ、ウルジヌスとオレヴィアヌスが起草し、1562年に公認した。それが『ハイデルベルク信仰問答』である。

ハンガリーにおける改革派信仰

ハンガリーへの改革派信仰の伝播は1550年以後で、ジュネーブやシュトラスブルクで改革派信仰を習得した人々が帰国してこれを伝えたことに始まる。聖書がマジャール語（ハンガリー語）に翻訳されてから改革派信仰が受け入れられるようになった。1558年には「ハンガリー信仰告白」が準備され、普及し、改革派信仰が次第に浸透していった。カトリックの迫害の中で、改革派信仰は消えることなく、根を下ろし、長

い歳月を経た1848年になって信仰の自由を獲得した。

アイルランドにおける改革派

アイルランドの改革派信仰は、イングランドの政策による。宗教改革時代にイングランドはスコットランドとアイルランドを自国と合併し、植民地化しようとした。アイルランドが1557年にそむいたとき、イングランド議会は反逆者の土地を没収し、イングランド人の移住者に与えた。1603年に即位したジェームス一世は、北アイルランドにスコットランド長老派の人々を移民させたので改革派信仰が定着した。

オランダにおける改革派信仰

オランダでは、スペインの支配と教皇の統治に反対する政治的・宗教的理由とオランダ語の聖書翻訳に刺激され、改革への思いが生じた。専制君主からの自由を主張する改革派の信仰に引かれ、これを受入れた。すでに対抗宗教改革運動が起こる中で、1566年、プロテスタント側が蜂起し、スペイン軍と激しい戦いを交えた。大虐殺にも屈せず耐え、1588年、イングランドの援助とスペインの無敵艦隊をイングランドが破ったためにスペインの再度の攻撃から免れることになり、1648年、オランダ共和国の独立を勝ち得た。この戦争の間に、教会は長老主義の組織を作り、信仰告白としては「ベルギー信仰告白」を作成し、神学的基礎を築いて大いに進展した。しかし、その中からアルミニウス主義と呼ばれる異説を唱える神学者が現れたことも覚えておきたい。

第37課 スコットランドの改革

スコットランドの宗教改革は政治的状況と密接に結びついていた。スコットランドはイングランドと境を接しており、自分の支配下に置く

うとするイングランドの脅威を受け続けてきた。スコットランドはその危険を防ぐために、ドーヴァー海峡をはさむ大陸のフランスと同盟を結

んで、イングランドに対抗してきた。スコットランドとイングランドが友好関係となるのは、両国の宗教改革によって、プロテスタントになってからである。

スコットランド宗教改革の先駆者

スコットランドに宗教改革を持ち込んだ最初の聖職者は、パトリク・ハミルトン（1504頃～1528）であった。彼はドイツに留学し、ルター主義を受け入れ、信仰による義認を説き、教皇の権威を否定し、反キリスト呼ばわりしたため、1528年に火刑に処せられた。また、ジョージ・ウィシャート（1513～1546年）があらわれ、宗教改革の教えを広めたが、ビートン枢機卿の迫害にあい、ギリシア語で聖書を教えた理由をもって異端の疑いで逮捕され、1546年に火刑に処せられた。ウィシャート殺害に対する死の報復がウィシャートの支持者たちによってビートン枢機卿に加えられた。殺害者たちは、セント・アンドルーズ城を占領し、同調者たちを集めた。そこにウィシャートによって改宗した一人の説教者が逃れてきた。それがスコットランドの宗教改革の立役者となるジョン・ノックス（1505～1572年）であった。

ジョン・ノックスによる改革

ノックスはアンドルーズ城で軍人たちに説教をしていたが、籠城していた者たちと共にフランス軍によって捕らえられ、フランスに連れて行かれ、ガレー船の奴隷として、19ヶ月間苦役に従事させられた。囚人交換で解放され、プロテスタントの政治が行われていたイングランドにわたり、宮廷の従軍牧師となった。しかし、イングランドの政変でカトリック教徒の女王メアリー一世が即位したので、1554年、ヨーロッパのフランクフルトに逃れ、イングランド人亡命者たちに仕えた。1559年まで、主としてジュネーブで過ごし、カルヴァンと交わり、大きな影響を受けた。ノックスがまだ大陸にいた1557

年12月、イングランドの支配の下に置かれるのと同様にフランスの支配下に置かれることを嫌う人々がエジンバラに集い、神の言葉を確立するために生涯と財産を使う契約を結んでフランスに抵抗した。

スコットランド王メアリー・スチュアートは、1558年フランスの王位継承者と結婚をし、スコットランドはフランスの領土ようになった。イングランドではヘンリー八世の死によって娘のエリザベスが王となったが、メアリーは自分がイングランドの王であり、エリザベスは非合法の王に過ぎないと、対立の姿勢をとった。このような状況下の1559年、ノックスは改革の時が来たと判断して帰国した。フランスはエリザベスの反抗に対して軍隊を送り、鎮圧を図った。スコットランドはイングランドに軍事的支援を要請してこれに対処しようとしたが、直ぐには応じてもらえず、1560年になって、資金と艦隊の支援を得た。それによってフランスとの戦いに勝利し、イングランドとフランスとが条約を結び、フランス軍は撤退し、スコットランドはフランスの支配から解放された。

1560年、スコットランド議会が開催され、宗教改革事業の推進を決め、改革派信仰を告白する「スコットランド信条」を採択した。最初の大会が同じ年に開催され、長老政治を規定する『規律第一書』が提案され、教会財産に関する部分を除いて議会でも承認された。また、『礼拝規定書』も1564年の大会で承認された。ノックスは聖書に基づかない慣行や行事をすべて排除し、ミサも廃止した。こうして改革派教会の確立に貢献した。

メアリの巻き返し

カトリックに立つメアリーはこれに反対したことは言うまでもない。スコットランドの王メアリーは、夫が死んだので、1561年、戦乱のさなかにフランスに帰国し、信仰問題に関してノックスとの間に激しいやり取りやあるいは懐柔作戦

をもってカトリックへの変更を画策したが、ノックスの確信を変えることは出来なかった。かえって結婚問題で信用を失い、イングランドに亡命、エリザベス女王に保護されたが、イングランドの王位を狙った罪で処刑され、巻き返しはなら

なかった。

ノックスの改革事業は、アンドルー・メルヴィル(1545～1623年)が引き継ぎ、改革を完成させた。

第38課 ローマ教会の復興

パウルス三世と異端審問機関

ルターに始まる宗教改革運動とプロテスタント教会に対してローマ・カトリック教会はどのように対応したのであろうか。スペインにはヒメネスなど古典の研究を通して教会の改革を唱える聖職者たちがいて、教会の改革を志向していた。それは、中世の教義に基づく教会再建のための改革に過ぎなかった。しかし、宗教改革が起こった後には、イタリアにおいても内部からの教会改革を目指して「神愛オラトレオ会」が1517年に結成された。指導者の一人は後に教皇パウルス四世となるジョバンニ・ピエトロ・カラファであった。プロテスタント教会の出現を深刻に受け止めた教皇パウルス三世(1534～1549年)は、カラファやフランスのカルバンドラの司教サドレート、また、ルターの信仰義認の教理に理解を持つガスパロ・コンタリニなど有力者を枢機卿に任命し、宗教改革にいかに対応するかを政策を検討した。教皇は、コンタリニの懐柔政策を採らず、カラファなどの主張であった教義上の離反者には厳しい弾圧を加える強行策を採用した。そしてスペインにあった異端審問所をモデルとして、世界的な異端審問機関を設立し教会の再組織化をはかった。

イグナティウス・ロヨラとイエズス会

ローマ教会の復興は、異端審問機関の設置に増して、スペインに発生した伝道への熱情に負っている。新たなる伝道への熱意を沸き立たせたのは、ロヨラ城の貴族として生まれたのでイグ

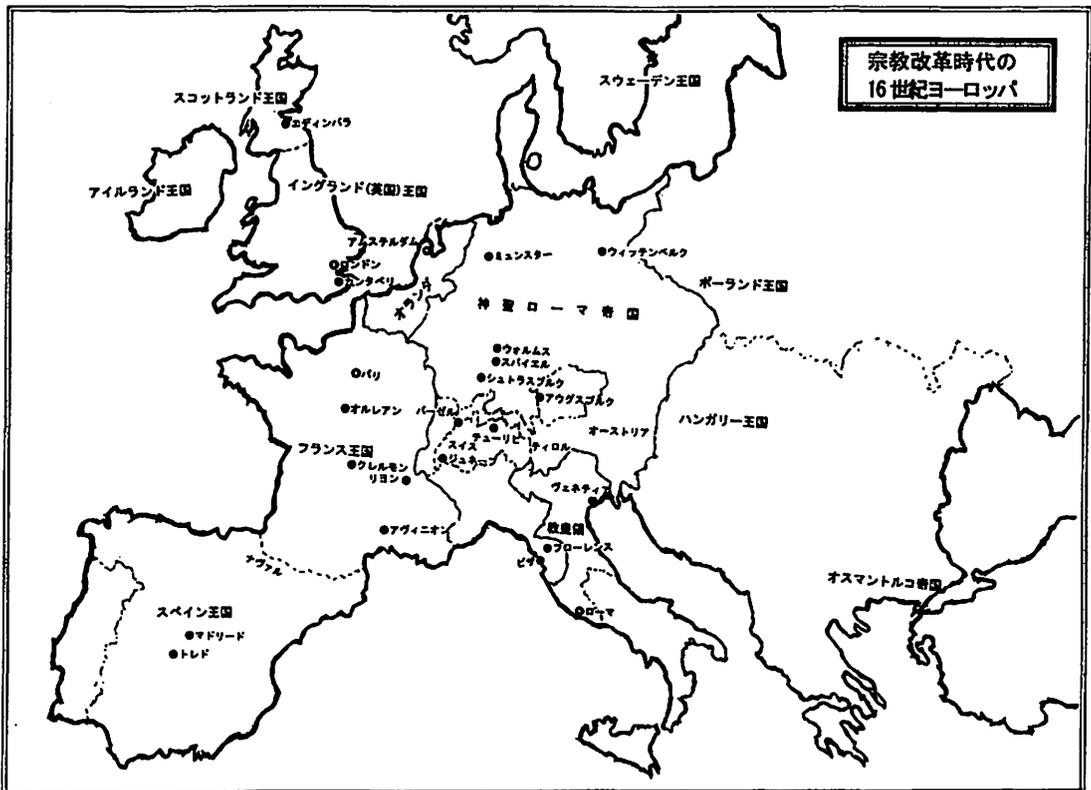
ナティウス・ロヨラ(1491頃～1556年)と呼ばれたイニゴ・ロベス・デ・レカルデであった。アラゴンの王フェルディナンドの宮廷に仕えた後、軍人となった。フランスとの戦いで傷つき、軍務に復帰することが出来なくなり、静養期間にキリストや聖ドミニコや聖フランチェスコについての書物を読み、学び、キリストの騎士であろうと志した。ドミニコ会士となり、修道院で修行する間に、後に『心霊修行』という書となる将来のヴィジョンを書き始めた。魂の救いと神の栄光のためにキリストを選び、罪を捨て、世界に無関心となり献身することを記している。

1528年にエルサレム巡礼を行い、帰国後、教育の必要を覚え、カルヴァンと入れ替わりに、パリ大学に入学した。在学中にロヨラの周りにピエール・ルフェーヴルやフランシスコ・ハビウル(ザビエル)など数名の同志や弟子たちが集まり、1534年にはイエズス会のモットーとなる「より大いなる神の栄光のために」、また万人の救いのために働くことを誓い合った。1537年に数人の同志と共に司祭と任じられ、イエスの軍隊であるイエズス会が発足した。彼らは教皇への完全な服従を旨とし、総会長にロヨラを選出した。イエズス会はスペイン、ポルトガル、イタリアにおいて急速に広まり、説教と誠告聴聞、身分の高い人々のための学校、外国伝道に力を注いだ。やがてフランスやドイツにも波及し、対抗宗教改革の前衛の役割を果たした。

トリエント公会議

宗教改革に対抗する二つの手段が整い、パウルス三世はトリエント公会議を開いて教会教義の確定をし、信仰問題解決を計ろうとした。1545年12月に開会したが、途中、いく度となく中断されて、1563年12月に閉会するという長期会議となった。この会議で反プロテスタントの精神が支持された。聖書と伝承が同等の真理の源泉であり、教会のみが聖書の解釈権を所有し、義とされるために業の功績が必要とされ、礼典の数を七つと定め、中世の教義を堅持することを決めた。また、もう一方の結果として、聖職者の定住と説教の義務化、兼牧の抑制、神学校の

整備、内密の結婚の禁止などの改革が進んだ。また、教皇職にある者が世俗のことではなく、教会への関心を第一にすべきことも定め、教皇庁の腐敗が取り除かれるようになった。伝道に関しては、ドミニコ会とフランシスコ会が中世末期から熱心であったが、これにイエズス会が加わり、熱心にこの働きに従事した。南米、中米、北米に、またインド、フィリピン、中国、そして日本にまで宣教師を送ってきた。このようにしてプロテスタントによって失われた地を回復し、また新しい伝道地を獲得してカトリック教会の回復をはかった。



『日曜学校教案誌』発行のための 自由募金のお願い

教会のかしらなる主イエス・キリストの御名をあげます。

中部中会教育委員会は、諸教会の日曜学校教育に資することを目的として『日曜学校教案誌』を発行しています。『子どもカテキズム』を1000部発行し、また『教案誌』も第七号を発行するまでに至っています。中部中会においては、すでに三分の二を超える教会がこの『教案誌』を採用してくださり、他中会、他教会においても採用して下さる教会が与えられています。皆様のご支援に心から感謝を申し上げます。

この『教案誌』の発行のために、中部中会から援助を受けておりますが、あわせて皆様からの自由基金によってご支援いただきたいと願って、中部中会2002年度第一回定期会において自由基金の願いを提案し、承認していただきました。この献金は、『教案誌』の編集・出版のための費用として用いられます。子どもたちの信仰教育のための『教案誌』の発行のために、ぜひ皆様からのお祈りと献金のご支援をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。『教案誌』を購入くださることも、発行のための支援となります。信仰の養いの益ともなりますので、ぜひ『教案誌』のご購入もよろしくお願いたします。皆様のお祈りと献金のご支援をよろしくお願い申し上げます。

目標金額	10万円
期 間	2002年4月～2003年3月末
送 金 先	郵便振替 長谷川正一 00840-3-3192

※『教案誌』自由基金である旨、振込用紙にご記入ください

日曜学校 2002年度カリキュラム (2002年10～12月分)

2年サイクル第2年 (子どもカテキズム問34～85)

月日 教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖 書 箇 所	暗 唱 聖 句
単 元 の 目 標			
10月6日	教会に生きる (一)	問65	ウ小85、ウ告白25:2,3、ハイ54
		使徒言行録2:37-47	使徒言行録2:47
聖霊によって結ばれた教会共同体に生きることが喜びの道である			
13日	教会に生きる (二)	問66	ウ小85,86、ハイテ65
		使徒言行録9:1-19a	使徒言行録20:21
聖霊の働きによって、ただ恵みとして信仰と悔い改めに導かれる			
20日	信仰と悔い改め	問67	ウ小86,87、ウ告白14-15章
		使徒言行録9:19b-22	エフェソ4:15
信仰と悔い改めに生き、神に向かって歩む			
27日	恵みの手段	問68	ウ小88、ハイテ65
		使徒言行録2:37-47	使徒言行録2:42
御言葉と礼典と祈りが教会生活の土台である			
11月3日	生ける神の御言葉	問69	ウ小89,90、ハイテ67
		使徒言行録8:26-40	使徒言行録8:35
生ける神の御言葉イエス・キリストが聖書を与え、説教で語っておられる			
10日	御言葉への聴従	問70	ウ小89,90、ハイテ84
		ルカ10:38-42	ルカ10:42
御言葉をよく聴くことこそ、神への愛と奉仕である			
17日	礼典	問71	ウ小92,93、ハイテ66-68
		ルカ24:28-35	ルカ24:30
礼典を通して祝福が注がれる。すべての人がこの祝福へと招かれている			
24日	洗礼	問72,73	ウ小94,95、ハイテ69-74
		使徒言行録16:16-34	使徒言行録10:48a
洗礼の恵みを知り、信仰告白と洗礼・入会へと招く			
12月1日 アドベント	到来への備え	待降節	—
		イザヤ40:1-11	イザヤ40:3
クリスマスを前に、神の御子イエス・キリストの到来に備える			
8日 アドベント	ザカリアとエリサベト	待降節	—
		ルカ1:5-25	ルカ1:13
ザカリアとエリサベトの姿を通して、神の御言葉の確かさを確信することへ招く			
15日 アドベント	マリア	待降節	—
		ルカ1:26-38	ルカ1:38
マリアの姿を通して、神の御言葉を信頼し、待ち望むことへと招く。			
22日 クリスマス	主イエスの誕生	降誕祭	—
		ルカ2:1-20	ルカ2:12
罪人の救い主イエス・キリストが与えられた喜びを祝い、分かち合う。			
29日	一年の感謝	—	—
		申命記8:1-10	申命記8:10
一年の歩みを振り返って、主なる神に感謝をささげ、御名をほめたたえよう			

聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例

テキスト

使徒言行録2章37～47節

この聖書の箇所は10月27日にも扱います。

6日はこの箇所から信仰共同体である教会についてを重点とし、27日は42節から御言葉、礼典、祈りといった信仰生活の土台を重点として考えてください。

聖霊降臨から始まる一連の出来事を描いている箇所です。2章1節で「一同が一つになって集まっています」聖霊の降臨が起きました。それは14節「ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始め」る説教へと駆り立てました。そして、その結果として、37節「人々はこれを聞いて大いに心を打たれ」、47節「こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」もちろんこれは1章で昇天されるイエスが言われた約束の成就です。一つとなっている使徒団に聖霊による力と確信が与えられ、説教と証をなす証人とされる。それが新しい神の民を作ったのです。使徒言行録では「主が招いてくださる者」「主は救われる人々を仲間に加え」と解説して、使徒たちの働きというよりも主の業としてとらえています。

(1) ペトロの説教を聞いた人々

ペトロの説教を聞いた人々は「大いに心を打たれた」とあります。41節では「ペトロの言葉を受け入れた人々」と言われています。この「受け入れた」とは、話を承認したという程度の理解ではなく、その話が自分のこととして感謝をもって受け入れられることを意味しています。それが「心を打たれ」ということであり、ペトロもはっきりと「あなたがたが十字架につけて殺したイエスを」(36節)と言って、「あなたがた」と断言しています。つまり説教を聞いて洗礼を受けた人々

はペトロの言葉を自分のこととして受け取った人々なのです。

ペトロはこの人々に悔い改めと受洗を勧めます。そしてこうして加わった人々は一つの群れを形成しました。41節では「仲間に加わる」と言われるように仲間意識を持った集団であり、44節以下では「皆一つになる」「物を共有し、分け合う」「心一つにする」「集まって一緒に食事を」と描かれほど、一つになる性格をもった群れを形成するのです。それは最後に解説されるように「主は救われる人々を仲間に加え一つにされた」結果なのです。キリストの教会は「類は友を呼ぶ」と言われて作られる人間の集団ではなくて、主ご自身が一人一人を集め仲間に加えてつくられた群れなのだと言いたいのです。

そこでこの群れは必然的に「使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心」となります。これらはすべて主イエスご自身が教えられ、命じ、熱心でありました。またこれらを通して主は御自身を提示し、主の恵みを人々に注がれましたから、なおのこと主の群れはこれらに熱心になるのです。

(2) 「主が招いてくださる者」

受洗することを人々に勧めたペトロは、それによって罪の赦しと聖霊派遣を語り、この約束が遠近を問わずだれにでも与えられるものであることを教えています。とりわけここでは「信じる者ならだれにでも」と言わず「主が招いてくださる者ならだれにでも」と表現しています。もちろん私たちはそれを自分のこととして信じて約束にあずかるのですが、それは「主が招いてくださった」結果なのです。洗礼を受け、仲間に加わるのは、この主の招きに対する応答なのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問65
 ウェストミンスター小教理問答 問85
 ハイデルベルク信仰問答 問54

子どもカテキズム

問65 神さまの戒めを守ることができない罪人が、どうして十戒を喜んで生きることができるのですか。

答 聖霊なる神さまが、私たちを造り変えて主イエス・キリストと一つに結び合わせ、キリストの体なる教会として建て上げてくださいます。私たちには、教会において、罪から救い出され、十戒を喜んで生きる道が与えられています。

〈教会についての信仰〉

『子どもカテキズム』は、基本的にウェストミンスター小教理問答の骨格をそのまま受け継ごうとして編まれました。しかし、小教理ではその背後に隠れてしまっている「教会」に関する教えを、前面に出すことを目指しました。教会なしに、キリストとの交わり、つまり私たちの救いそのものも、救われた生活を生きることをもありえないからです(ウ信仰告白第25章2節、「見える教会は～そのそとには救いの通例の可能性はない」)。大人はもちろん、子どもにも、「教会論」つまり教会についての聖書の信仰を教えることを抜きにして、信仰の道を歩み、使命に生きることはできません。

さらに、「若い教会」である日本の教会の事情があります。一般的に教会論において真に未熟です。今こそ、日本の教会は、教会についての聖書の信仰を身に付ける自覚的な営みが大切です。日本キリスト改革派教会の創立の歴史的意義は、まさにその克服にこそあると信じます。

〈新しく創造されたキリスト者〉

問63で明らかにされた、聖霊の御業を思い起こしながら、問65を読みましょう。聖霊は、私たちに主イエス・キリストを信じる信仰を与えて、キリストに結びつけてくださいました。その人は「新しく創造された者」(コリント二5:17)です。その人の基本的な特質、今までにはまったくない、言葉の正しい意味での新しさとは、「神を愛する」ことです。神に愛されてはじめて、神への愛が呼

び起こされます。神を愛する人は、神の掟を守る意思が与えられます。(このあたりの事柄は、ぜひ、ヨハネの手紙一を通読してください。)神から与えられた神への愛が、神の掟を口ずさむ、喜ぶ根拠です。

〈教会・キリストと結び合わされた民〉

一人のキリストと結ばれた私たちは一人一人バラバラでは歩みません。(問34とその解説をご参照ください。)一人一人は、キリストの体なる教会として「組み合わせられて成長」させられます(エフェソ2:21)。神は私たちに、地上にあって組み合わせられる具体的なキリストの体なる教会を与えてくださいました。この教会には、キリストが臨在しておられます。聖霊のお住まい、聖霊の宮です。ですから、教会は私たちにあって信仰の母であり、私たちはそこで生まれ、育てられます。この教会に生きるときに、何度つまづいても倒れても、新たに立ち上がって、十戒を喜んで生きる可能性が与えられます。そこにおいて、キリスト御自身はもちろんキリストの兄弟姉妹たちの働きにも支えられることができますからです。

〈喜びにあふれて掟を生きる教会の形成〉

そのために、教会では「罪の赦しの福音」が鮮明に語られ聴かれ、信じられ実践されることが大切です。罪の赦しの「福音に生きる教会」であればこそ、掟を喜ぶことができます。礼拝式や分級、子どもたちとの交わりにおいて私たちの喜びの姿が、子どもらの素直な魂を捕らえることが出来ま

テキスト 使徒言行録2章37節～47節
 カテキズム 子どもカテキズム 問65

「十戒を喜んで生きる」

〔単元のねらい〕

カテキズムは第三部第三章「教会に生きる道」に入った。既に本カテキズム問3において、神の子として生きる道は教会に生きる道と一つであることを際立たせている。本カテキズムの特徴の一つは「教会」生活を前面に出していることである。もちろん、日曜学校はそのまま教会ではない。地域の子はもちろん、幼児洗礼受洗者も陪餐会員ではない。その意味で、「子どもの教会」という概念は成り立たない。しかし、日曜学校は教会の公的な集会である。陪餐会員と日曜学校教師によって担われる。聖餐の礼典の執行はないが、礼拝式として成り立っている。その意味では「子どもの教会」は成り立っている。子らには、子らなりの主にある交わりが必要である。子らの背文に合った教会の交わりが必要である。教会に同世代の仲間がいない子らが、合同の集会で同世代の信仰の仲間と出会う時の喜びは大きい。教会の交わりの素晴らしさ、支えをそこで豊かに味わうことができるからである。我々の子らが、たとえ小さな交わりであっても、豊かな教会の交わりのなかで育まれるように、導いてあげたい。日曜学校への「帰属意識」、それを喜び誇りにすら思う意識を深めてあげたい。

今朝も、愛する皆さんと一緒に礼拝を捧げることができていることを心から神さまに感謝しています。神さまはひとりひとりを愛しておられます。先生もここに集められた一人ひとりを愛しています。僕たち私たちもお友達お互いのことを大切に思っているでしょう。

今日皆で聴いた聖書の御言葉は、一番最初の教会がどのようにして始まったかが書かれている箇所でした。使徒ペトロさんたちは、集った大勢の人々の前に立って言いました。「あなたたちが十字架につけて殺してしまったイエスさまは復活されました。イエスさまが死んだままであるなど、ありえないからです。父なる神さまによって甦らされたのです。」するとどうでしょう。これを聴いていた人たちは言いました。「兄弟のペトロさんたち、こんな罪人の私たちが救われるためにどうすれば良いのですか。」ペトロさんは何と言ったのでしょうか。「ダメダメ、あなたたちは、イエスさまを殺したくらい悪い人間だから、神さまの裁きを受けるだけです。もしも、赦されるためには、これからは、十戒のすべてを完全に守りなさい。そうすればもしかすると罪が赦されるかもし

れない。」そう言ったのでしょうか。ペトロさんが言ったのはこうです。「悔い改めて、イエスさまを信じなさい。そうすれば、罪が赦されて、神さまの子にさせていただけます。大人も子どもも誰でも罪が赦されます。」このペトロさんの言葉を大喜びで受け入れた人は、洗礼を受けました。洗礼を受けて、イエスさまを信じている人々、ペトロさんたち、つまり教会の仲間に加わったのです。

こうして、最初の教会が発しました。最初の教会の人たちは、どんな生活をしていたのでしょうか。まず、使徒たちが教えるイエスさまのお話、説教を皆と一緒に聴くことが嬉しくて仕方がなくなってしまったのです。僕たち私たちが日曜日にしていることは、実は一番最初の教会の人たちがしていたこととほとんど同じなのです。僕たち私たちのキリストの教会は、大切なことを2000年間変わらずに守り続けてきたのです。

最初の教会の仲間がどれくらい仲が良かったのか、聖書に書いてあります。信者たちの心はみな一つになっていました。一つの方向を向いていたのです。神さまの方を向いていたのです。神さまを知り、神さまを喜び、神様の栄光をあらわすこ

とがこの人たちの生きる目的になりました。神さまを愛し、人々を愛して暮らし始めたのです。だから、困っている人がいたら直ぐに助けて上げられるように、自分の持ち物を「これはわたしのだから使っちゃダメ。減っちゃうから分けてあげない」などとは言いませんでした。「これは皆で分け合おう。」こう言って、皆で助け合って暮らし始めたのです。イエスさまを愛しはじめた人たちは、お互いのことを愛するようにならされて行きました。

それを見ていた周りの人たちは、こう言いました。「わぁー、羨ましいな。喧嘩して、争ってばかりいる僕たちだけど、仲間に入りたいな。イエスさまのことがお話されているし、心を込めてお祈りしているようだけど、イエスさまっていったいどんな人なのか。知りたいな。」最初の教会の人たちは、人々にこんな気持ちを湧かせるほどでした。こうして、イエスさまは、ますます教会にイエスさまを信じて救われて神さまの子になる仲間を加えてくださいました。

さて、あなたは、十戒を喜んで生きることができるようになっていますか。一つ一つの言葉を「ああ、やだやだ、こんなふうに住んで生きるのがいいか」、なんて思っていますか。皆の中で、「イエスさまの悲しまれることをどんどんしたい」、そんな風に思っているお友達はいませんか。いないでしょう。むしろ、イエスさまに喜ばれる子どもになりたいと思っているでしょう。どうしてそう

思っているのかわかりますか。その理由は、聖霊なる神さまがあなたにその気持ちを与えてくださったからです。聖霊なる神さまが心に宿ってくださるからなのです。そのお友達は、教会学校が好きではなくて、それは、イエスさまが真中におられるからです。それが、皆が聖霊のお働きを受けている証拠です。

でもそんな僕たち私たちでも、ときどき、お祈りを忘れたり、意地悪な心が湧いてきてしまうことがあります。それなら、そんな子は、もう神さまの子どもではなくなってしまうのでしょうか。違います。僕たち私たちには、イエスさまが共におられます。教会の礼拝式にいてくださるイエスさまは、十字架で僕たち私たちの受けなければならぬ罪の罰を受けて死んでくださり、お甦りくださいました。そして、聖霊なる神さまは僕たち私たちに、「ああ、このままじゃだめだな。もっと、イエスさまに喜ばれるように生きたいな」、そんな気持ちを与えてくださるでしょう。だから、僕たち私たちは、安心して、イエスさまを信じ続けることができます。そのためには、繰り返し、教会に来て、イエスさまからのお話を聴くことです。みんなと一緒に祈りすることです。

イエスさまに喜ばれるように、勉強でも遊びでも一生懸命して行きましょう。お友達を大切にしましょう。お父さんお母さんを大切に、感謝しましょう。

今週の暗唱聖句

こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。

使徒言行録2章47節後半

〈ねらい〉

神様は、お救いになる者たちを教会の交わりに招かれるということを学ぶ。

な子供たちを、御自分の教会に「おいで、おいで」って招いてくださるんだよ。

そして神さまは、教会に集まるみんなを、守ったり、助けたり、教えたり、叱ったりしてくださるんだよ。だから教会は、神さまの子供たちのお家みたいなものなんだね。

〈展開例〉

みんな、今日も元気に日曜学校に来られてよかったね。みんなが日曜学校に来て、一番喜んでいるのはだれだと思う？ 先生かな？ 牧師さんかな？ お母さんやお父さんかな？

〈いのり〉

天のお父さま。神様の子供として、私たちをこれからもずっと、教会に招いてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

実は、一番喜んでくださっているのは、天にいらっしゃる神さまなんだよ。神さまは自分の大切

〈工作〉

罪の中から救いだそう!!



1 新コッポに 皆の教会を書こう。

- 用意するもの
- 新コッポ
 - 新皿
 - スプーン
 - 紙をまるめたもの
 - マジックペン



2 新皿に 『つみ』と書いて

まるめた紙をのせよう。

(何でもOK!
スプーンですく、やすいものがいいよ。)

3

まるめた紙(つみ)をスプーンですくって

教会に入れてあげましょう。

〈目標〉

小さなぼくたち・わたしたちも、一人一人が教会の一枝であり、主イエス・キリストにあって一つであることを知る。

〈展開例〉

①導入

教会には、たくさんのいろいろな人が集められていますね。一人一人は、得意なことも、性格もそれぞれ違いますが、神さまが招いてくださいました。イエスさまが私の罪のために十字架で死んでくださったことを知り、「心打たれ」て、主イエスによって仲間に加えられたのです。ですから、主イエスにあって一つにされて共に歩むのです。

②考えてみよう

イエスさまを、信じていけば教会に行かなくても、家で時々聖書を読んだりお祈りすればいいのかな? ……最初の教会の人々は、一緒に使徒

の教えを聞き、相互の交わりをし、一つのパンを裂き、一緒にお祈りをしました(使徒2:41)。イエスさまは天に上られましたが、代わりに聖霊を注いで教会を与えてくださいました。それは、私たちが、地上の信仰の旅路をひとりぼっちで歩むのではなく、キリストの体なる教会と共に歩むためです。(カテキズム問34)

③適応

〇〇ちゃんはイエスさまの悲しまれることを、どんどんしたいと思いませんか? ……イエスさまに喜ばれる子どもになりたいと思っていますでしょう! △△ちゃんは、教会が好きですか? ……その思いは聖霊なる神さまが、その気持ちを与えてくださったからです! お祈りを忘れてしまったり、意地悪な心がわいてしまったり、失敗することもあるかもしれません。そんな時も自分がかかりしないで教会に来て、繰り返しイエスさまのお話を聴き、みんなで祈りしましょう。

④お祈り 皆と共に歩めますように。アーメン。

〈やってみよう〉

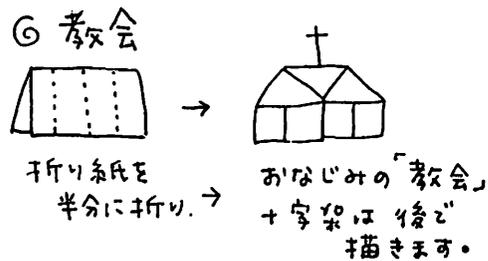
『ともだち・いっぱい・うれしいね!』

○用意するもの

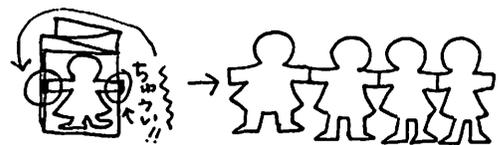
A4の色画用紙、折り紙、A4紙タテ半分、はさみ、のり、色鉛筆など

○作り方

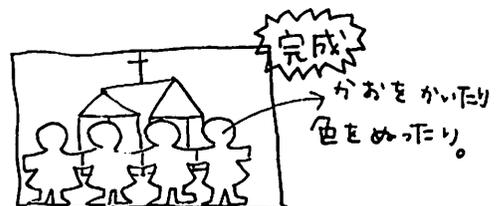
- ①折り紙で教会を作ります。
- ②A4紙(タテ半分)を波型に4等分で折ります。一枚に、人の姿を描き、折ったまま切り抜きます。
- ③色画用紙に教会・手をつないだ人、の順に貼ります。
- ④暗唱聖句を書き込みます。



② 手をつないだ人



A4の半分、切って同じ大きさバラ折り。手をつないでる!!



〈暗唱聖句〉 使徒言行録2章47節

こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。

〈学びのポイント〉

- (1) 神様とも人ともよい交わりをしたい
- (2) 神様が私たちが新たにつくり変えてくださる
- (3) 教会において本当の交わりがある

〈説教のおさらい〉

悔い改めてイエス様を信じる人は、罪を赦していただけます。聖霊なる神様が私たちを変えてくださいます。神様によって変えられた私たちは、喜んで神様の御言葉を学び、お互いに思いやりのある人、愛しあう人になることができます。これから生きている間、悪いことをしてしまうこともあるでしょうが、少しずつ清い心にしていただけます。

〈やってみよう〉

1. 聖書を開きましょう

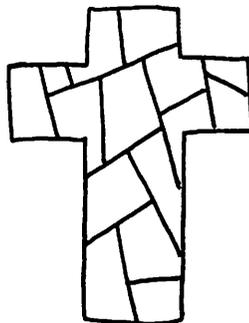
使徒言行録2章38節

・聖霊を受けるためにはどうすればいいでしょう

2. 悔い改めるってどんなこと？

自由に話し合ってください

3. バズル



あらかじめ厚紙で十字架を作り、バラバラに切っておく

子供たちには何ができるかヒ・ミ・ツ

〈目標〉 教会を正しく理解する。

〈指導上の心得〉 問65を理解するために、正しい教会観とキリストとの結合の意味を学ぶ。(問30のぶどうの木のたとえも復習するとよい)

〈展開例〉

1. 教会について、次のどちらが教会ですか？

(ア) 未信者のカップルが、十字架がある建物の中で結婚式をあげました。

(イ) イエスさまを信じている二人が、公園で礼拝をささげました。

(答：イ)

2. 「私たちはイエスさまの体」=教会

一人は頭、他はそれぞれ手・足・腹・目・鼻などになってください。

ケース① のどが渴いた

ケース② ころんで足をすりおいた

ケース③ お腹が痛い

〔ステップ1〕それぞれのケースにおいて頭は体の部分に対する命令事項を、体の部分たちは自分たちのすべきことを、他人には見せないように紙に書きましょう。

〔ステップ2〕お互いの紙を見せ合い、それぞれの体の部分は、頭の命令と一致しているかいないかを確認しましょう。

〔ステップ3〕頭の命令どおりに動くために必要なものを二つあげましょう。

(答：①頭の命令書、②命令書を伝える人)

〔ステップ4〕Q1. イエスさまはどのようにして私たちにご命令を伝えてくださるのですか。(答：御言葉と説教を通して) Q2. 御言葉と説教がよくわかるようにしてくださるお方は誰ですか。(答：聖霊) Q3. 十戒を守る力を与えてくださるお方は誰ですか。(答：聖霊)



聖書の読みとり (使徒2:37~47)

37節、どれを聞いたの？(14~36節、聖霊に満たされたペトロの説教。十字架に付けて殺してしまったイエスが救い主であること) 聞いてどうしたの？(大いに心を打たれた。「どうしたらよいのですか」と尋ねた) どうしてそうしたのだろう？(自分のこととして受け止めたから) 質問に対するペトロの答は？

38節、悔い改め、キリストの名によって、洗礼、罪の赦し、賜物、聖霊などの言葉の意味をどのように捉えているか生徒に説明させる。

39節、どの約束？(38節の約束) どうなっているの？(与えられている) だれに？(約束の範囲。「神が招いて下さる者」)

41節、人々はどうなったの？(41~47節、御言葉と礼典と祈りに熱心。民衆から好意を寄せられた。救われる人が日々仲間に加えられ一つにされる)



問65の理解

聖霊なる神様が救われたわたしたちにして下さること。わたしたちは次第次第にいよいよ神のかたちへと新しくされていく。(ハイデル115)

それは個人的な体験ではなく、教会的な出来事。救われた者の共同体・教会、頭なるキリストの身体・教会において、わたしたちはキリストに似たものとして変えられていく。キリストと一つに結び合わされ、キリストの花嫁としてシミもシワもない聖なる栄光に輝く教会として建て上げられていく。その道標としての十戒を喜んで生きる。

〈註〉()内は予想される生徒の答です。別の答が出たら、それに合わせて対応してください。また、その答を知らせて下さると嬉しいです。

月 日「教会に生きる(一)」中学科

名前

聖書：

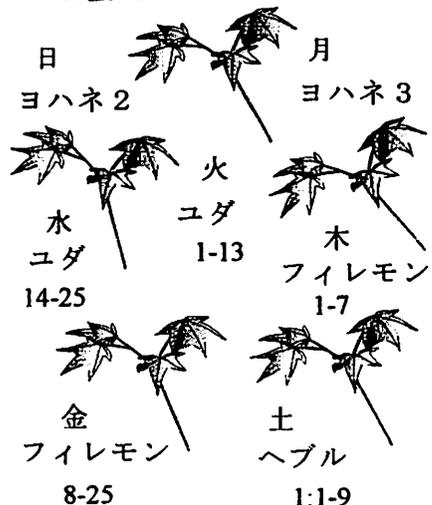
問

讃美：

☆わたしたちはどうしたらよいのですか？

☆十戒を喜んで生きる道

毎日聖書を読もう



略唱聖句

(使徒2:47)

テキスト

使徒言行録9章1～19a節

サウロの回心物語の箇所です。主の弟子たちを捕らえるためにダマスコへと向かう途上、サウロはイエスと出会います。この出会いからサウロはユダヤの議会から派遣される使者からイエスの使者へと生まれ変わりました。

(1) サウロとイエスの出会い

サウロのクリスチャンへの迫害はそもそも誤った神への熱心からでした(22章3節、26章4～11節)。しかし、「脅迫し、殺そう」とか「男女を問わず縛り上げ」、エルサレムから遠いダマスコにまで大祭司の書簡をもって追跡するところを見ると、サウロが当時のキリスト者の拡大やその力に恐れをも感じていたように思われます。事実、後のサウロの回顧では「彼らに対して激しく怒り狂い、外国の町にまでも迫害の手を伸ばしたのです」(26章11節)と告白しています。

ダマスコへの途上での出来事は「天からの光」「呼びかける声」「目を開けたが何も見えなかった」ことが中心となっています。「天からの光」は一緒にいた人たちも目撃していますが(22章9節)、その輝きに目が見えなくなったのはサウロだけですから、サウロへの超自然的な光だったわけです。また「呼びかける声」もサウロにだけ聞こえるものだったようです(前掲箇所)。この時のイエスからの呼びかけが22章7～10節、26章14～18節に記されています。呼びかけの要点は、①この道に従う者への迫害はわたしイエスに対する迫害であること、②あなたを奉仕者、証人とし、民と異邦人のもとに遣わすこと、③サウロを使者とすることによって、闇から光へ、サタン支配から神に立ち帰る救いを人々に示すこと、にあります。

(2) 目が見えない三日間

イエスとの光の中での出会いによってサウロは目が見えなくなります。サウロはアナニヤが遣わされるまでの三日間、目が見えない中で何を考え、思っていたのでしょうか。そのあたりについては何も記されていませんが、記されていないがゆえに、かえって読者の関心を喚起します。おそらくこのお話を聞いた子供たちも考えることでしょう。そしてこれこそがサウロ回心物語の大切な箇所なのでしょう。

神への熱心から、この道に従う者たちにした行為が、実は光の中に現れるイエスへの行為であったこと、目が見えていたのに一転闇の中に置かれ、理解していたつもり自分の行為が本当は何もわかっていなかったこと、十字架につけられたイエスが生きておられ、それも光の中に現れる栄光の方であること、そのイエスへの無知な行為を罰せられることなく、むしろ奉仕者、証人とされ、罪の赦しを与えられたこと、などなど、目が見えない中で食べも飲みもせず祈っているこのサウロの姿こそ、主イエスによって救われた回心の姿なのでしょう。

(3) アナニヤによる回復

目が見えなくなったサウロのもとへアナニヤが派遣されます。アナニヤはサウロという人物とその行状を知っていて主に問いかけますが、「わたしが選んだ器である」との主の言葉と御旨に従います。サウロのもとへ赴き、サウロに呼びかける時にも「兄弟サウロ」と言います。聖なる者たちに悪事を働いたサウロに少なからず不安や疑いをもっていただいでしょうが、主イエスご自身の言葉がその不安を拭い、「聖霊で満たされるように、わたしをお遣わしになった」という正しい使命感へと導きました。

カテキズム 子どもカテキズム 問66
 ウェストミンスター小教理問答 問85, 86
 ハイデルベルク信仰問答 問65

子どもカテキズム

問66 罪から救い出されるために、神さまが私たちに求めておられることは何ですか。

答 イエスさまが勝ち取ってくださった祝福を与えていただくために、教会に与えられた恵みの手段を用いて、イエスさまを信じ、いのちに至る悔い改めをすることです。

〈罪から救い出され、神の子とされる〉

「救いとは、神さまの子とされることです。」とは問31の答えです。そのために、「神さまは私たちの罪を赦して義と認めてくださいました」。罪から救い出されるとは、罪の支払う代価である神の怒りと呪いから免れること、赦免されることです(ウ小教理問85参照)。つまり、「罪から救い出される」ことと「罪の赦し」は同じことです。この神との関係の正常化を客観的に言い表すのが「義認」です。神との関係の事態そのものを言い表すのは、「神さまの子」です。子どもカテキズムが明瞭にしたかったのは、後者の恵みです。救いとは、神さまの子とされることです。

〈神さまが私たちに求めておられること〉

「神さまが私たちに求めておられること」を明らかにするに先立って、覚えたいことがあります。神は、既に先回りをして、私たちが神の子としての特権に生き、成長するために必要な御業を、つまり、御子イエス・キリストの贖いの御業を整えてくださいました。私たちは父なる神の至れり尽くせりのご配慮のもとに生きることができるのです。神御自身こそ、私たちが救われて神の子となることを激しく求めておられます。この激しい愛の御心、つまり「神の求め」こそ、私たちが救いを求め、神の子としての健やかな歩みを生きる根拠なのです。私たちはこの恵みに支えられて、熱心に、全力を用いてこのご配慮をお受けすることが求められています。何故、救われなくてはならないのか。それは、私たちの側のあれこれに先立って、神が求めておられるからなのです。「神の私たちへの求め」を「私たちが心を込めて求める」ことが神との正しい関係、あるべき関係です。

〈イエスさまが勝ち取ってくださった祝福〉

「イエスさまが勝ち取ってくださった祝福」とは、「あがないの祝福」です(ウ小教理問85)。主イエス・キリストは十字架と復活の御業によって、私たちを救う道を開き、また道そのものとなってくださいました。「祝福」とはキリストの勝利そのものであり、勝利の全てです。神の御心は、この祝福をすべて、神の子らに享受させることなのです。

〈教会に与えられた恵みの手段を用いて〉

ここでも、「教会」が出てまいります。信仰に生きることは「感謝に生きる」(第三部第二章)ことであり、それは具体的には「教会に生きる」(第三部第三章)ときにこそ正しく表されます。第三部の最後の章は「祈りに生きる」で、主の祈りについて記されます。実に主の祈りに生きることも、教会に生きることなしに成り立ちません。私たちは、教会において教会を通して救いの道を進むことができるのです。神は「教会に」「恵みの手段」を与えられたことを考えていただければ、理解が容易になるかと思えます。この手段は教会が勝手に考え出したものではありません。神が教会に与えられたのです。それ故に、通常、この手段以外に信仰と悔い改めに進むことは不可能です。ここでも、救いへののがむしゃらな(自己流の)求めは斥けられます。神の御心に合わせるときに信仰は健やかに、著しく進むのです。

子どもたちに、神がどれほど祝福を与えたいと願っておられるのかを伝えたいと思います。神が制定された道に自分を合わせることを信仰であることを伝えたいのです。

テキスト 使徒言行録9章1節～19節前半
 カテキズム 子どもカテキズム 問66

「使徒パウロの回心」

〔単元のねらい〕

十戒は自由の道標であり、祝福に生きる道である。しかし同時に、カルヴァンがジュネーヴ教会の式文で要求したように、その一つ一つを唱える際に、「主よ、憐れんでください」と叫ばずにはいられない。つまり、十戒は人を悔い改めに導き返す祝福の言葉である。子どもたちは、十戒の学びにおいて、既に悔い改めに導かれていることと信じる。ここでは、その悔い改めと信仰が、神の思みの御業にあずかっている故に与えられたもの、神の思みそのものであることを確認させてあげたい。しかも、その思みは彼らが聴いている御言葉の説教によって、分級での学びによって、届けられている。つまり、教会を通して注がれている思みである。教会に生きることが信仰に生きる道であることをもあわせて悟らせたい。主イエス・キリストはサウロのキリスト者共同体・教会への迫害を主イエス御自身への迫害であると看做された。テキストから、教会と主イエスとの関係について語ることもできるであろう。契約の子が教会に生き続けて育つように、地域の子らが教会にこの世の集いとは違う魅力に惹かれるように。

イエスさまのお弟子さんのなかでも特に多くの働きを成し遂げたのは、使徒パウロ先生です。パウロさんは、新約聖書のいくつもの手紙を書いた、キリスト教の歴史の中で最も偉大なキリスト者といってもよいくらいです。今日のお話は、そのパウロ先生がどのようにしてイエスさまを信じて、お弟子さんとなったのかについてです。

パウロ先生は、ユダヤ人です。ユダヤの名前で、サウロと言います。サウロさんは、こう信じ込んでいました。「イエスさまは神さまなんかじゃない、だから神さまとして礼拝することは、偶像礼拝だ。」だから、こう考えました。「イエスさまを礼拝しているキリスト者なんか許しておけない、殺そう。」そして、本当に、キリスト者であれば男でも女でも縛ってエルサレムに連れて行って、裁判にかけて殺してしまおうとしたのです。

そんなある日のこと。サウロは、ダマスコという村にいるキリスト者たちを捕まえるために馬を走らせていました。「待っているよ。一人残らず、捕まえてみせる。」息を弾ませて走っています。ダマスコの村が目に見えるようになるとその時です。天からの光がサウロの回りを照らしました。彼は光に打たれて倒れてしまいました。するとどうで

しょう。光の中から声が聞こえました。「サウル、サウル、何故、わたしを迫害するのか。」

サウロはびっくりして倒れてしまいました。けれどもこれは、神さまが現われてくださったのだと思ったのです。ですから、聞いてみました。「主よ。あなたはどなたですか。」今まで自分が信じてきたユダヤ教の神、真の神さまなのかどうか。その神さまが、今から捕まえに行こうとしている自分のことをどのように見ておられるのか、サウロさんにとって、一番、気にしていること、一番聞きたいことでした。

すると光の中から声がしました。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。」復活されたイエスさまがサウロに声をかけられたのです。どれほど、サウロは驚いたでしょうか。その時から、三日間サウロは目が見えなくなりました。

しかし、イエスさまは、先にお弟子さんになっていたアナニアという人に、このようにお声を掛けられました。「サウロという人の所へ行って、彼の目を見えるようにしてあげなさい。」こうして、サウロさんは、目が見えるようになって、直ぐに洗礼を受けたのでした。

サウロさんは、イエスさまにお会いする前は、

イエスさまのお弟子さん、キリスト者たちを迫害していたのです。殺そうとしたのです。けれども、イエスさまは、そんなサウロさんをどうなさったのでしょうか。サウロさんを罰して、殺してしまわれたのでしょうか。違いますね。今までさんさん、キリスト者を苦しめていたのですが、ちょっと仕返しをしてもよいように先生は考えてしまいますが、イエスさまはサウロさんをご自分のお弟子さんにしてしまわれたのです。赦してしまわれたのです。神さまは、どんなにイエスさまに反発する人でも、イエスさまを嫌いだと考えている人でも、教会に意地悪な人でも、神さまの僕に造り替えてしまわれるすごいお力を持っておられます。神さまは、サウロさんに、悔い改めとイエスさまを信じる信仰をお与えになったのです。

サウロさんはどうしてお弟子さんになれたのですか。がんばってがんばってイエスさまを一生懸命、悔い改めて信じたからですか。違います。イエスさまのほうが、働きかけてくださったのです。先生も同じです。僕たち私たちも同じです。がんばってがんばって、今、教会に来ている、来るようになったわけではありません。イエスさまが何としてでも、先生を、あなたを神さまの子にしてあげよう、してあげたいとお考えくださって、教会へと連れてきてくださったのですよね。そして、日曜学校でイエスさまのお話を聴いて、「ああ、僕

は神さまの前に罪人なんだな。でも、天のお父さまは僕たちのことを愛していてくださるんだ。だから、イエスさまを十字架につけてくださって、僕のことを神さまの子としてくださったのだ。これから、少しでもイエスさまに喜ばれる、神さまの子らしくがんばりたいな。」こんな気持ちになっているのでしょうか。それは、聖霊の神さまのお働きによるのです。

日曜日の朝、教会学校に来ると、「イエスさまって素晴らしいな。ああ、もっとお祈りしたいな。学校でも家でもイエスさまのことを忘れないようにしないとイケないな」そんな気持ちになるでしょう。それは、聖霊なる神さまが、僕たち私たちに、悔い改めと信仰をますます与えてくださるからなのです。

だから、僕たち私たちは、来週も、教会に通います。イエスさまは、教会を迫害するサウロさんに、なぜ教会を迫害するのかと仰いませんでした。「何故、わたしを迫害するのか」と仰ったのです。イエスさまは、僕たち私たちのこの教会をイエスさま御自身のお体として見ておられます。今、礼拝の真中にイエスさまがおられるのです。だから、僕たち私たちは、教会でイエスさまのお話を聞くと、ますますイエスさまのことが分かってきて、大好きになってくるのです。

今週の暗唱聖句

神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、ユダヤ人にもギリシア人にも力強く証してきたのです。

使徒言行録 20章21節

〈ねらい〉

パウロの回心から、神が信仰と悔い改めへの道を私たちのために備えておられるることを学ぶ。

〈展開例〉

教会の人たちをたくさんいじめていたパウロさんは、ある時から突然、イエス様と教会の味方になりました。天に昇ったイエス様が、パウロさんに現れたんです。すごい光を見たパウロさんは、三日間、目が見えなくなっていました。そしてアナニヤさんのところに行って目が見えるようになってからは、教会のために一所懸命働くよう

になったのです。

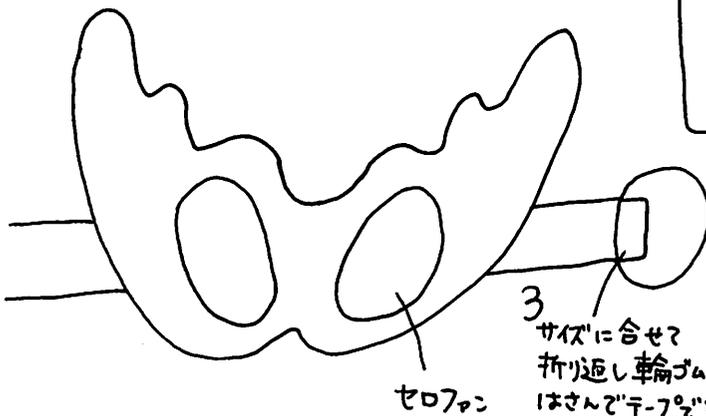
パウロさんの目を開けてくれたのはイエス様でした。私たちも目が見えますが、神様のことはよく見えませんね。でも、神様は私たちの心の目を開けてくださり、神様のことを分かるようにしてくださいませよ。

〈いのり〉

天のお父さま、パウロさんのように私たちの目も開いて、神様の恵みを見失わないようにさせてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

サングラスをつくらう 



- 用意するもの
- 色つきセロファン
 - 輪ゴム
 - テーポ
 - 画用紙
 - はさみ
 - マジックハロン

- 1 好きな形をつくらう。
- 2 目の部分をセカリ抜きうらからセロファンをほりつける。

3 サイズに合せ? 折り返し輪ゴムをはさんでテーポでとめる。

いろんな形にして
楽しもう。

〈目標〉

神さまの恵みによって、赦しと信仰と悔い改めが与えられる。

〈展開例〉

①導入

みんなのよく知っているパウロさんは、もとはサウロという名前でした。サウロさんは、熱心なユダヤ教の信者でしたから、イエスさまを礼拝しているキリスト者をみんな牢屋に入れて殺してしまおうと考えていました。

そんなサウロが、ある日、光に打たれて倒れ、イエスさまの声を聞いたのです。イエスさまはサウロに、なんとおっしゃったのでしょうか……?

②考えてみよう

サウロは、今までさんざん、キリスト者を苦しめ、教会を迫害してきました。それなのに、イエスさまは、「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫

害するののか」とおっしゃったのでしょうか?

……イエスさまは、この〇〇教会を、イエスさまのお体として見ておられます。教会の苦しみは、イエスさまのお苦しみだったのです。(エフェソ 1:23)

③適応

教会は、イエスさまのお体です。ですから、わたしたちは、教会が好きです。イエスさまが、教会へと呼んでくださいます。イエスさまの十字架がわたしたちに罪のゆるしを与えてくださいます。「神さま、ごめんなさい」「神さま、ありがとうございます」とすなおな心で、お祈りすることができますようにしてください。

④お祈り

教会に、呼んでくださったことを感謝いたします。神さまに喜ばれないことを言ったり、してしまったことをゆるしてください。神さまの子ども光のこどもにしてください。アーメン。

〈やってみよう〉

『起き上がるパウロ』

○用意するもの

7cm×5cmの厚紙(牛乳パック)を、人数分×2枚(一人2枚)

輪ゴム(人数分)、セロテープ、はさみ、サインペン

○作り方

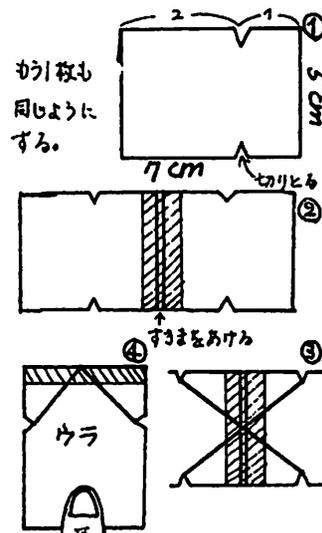
①厚紙を重ねて図のように、切り込みを入れる。

②2枚の紙を図のように少し隙間をあけてセロテープでつなぐ。

③表にサウロの絵を描く。

④図のように輪ゴムをかける。

☆裏返しに重ねテーブルの上に置き、指で押さえる。指を離すと、表に返りながら起き上がる。



〈暗唱聖句〉 使徒言行録20章21節

神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、ユダヤ人にもギリシャ人にも力強く証ししてきたのです。

〈学びのポイント〉

- (1) 自分自身の力で悔い改めることはできない
- (2) 祈ること、従うことも神様の一方的な恵み

〈説教のおさらい〉

私たちが普段通う学校は、努力してなしとげること、自信をもつこと、仲間どうして助け合うところ。しかし、天国へ行くための条件はちがう。サウロが変えられたように、神様が私たちを変えてくださらなければ行くことができない。素直な気持ちで「私を変えてください」と祈ろう。

〈やってみよう〉

1. 聖書を開きましょう

使徒9章17～18節

・サウルはどうして目がみえるようになったのですか？

(ア) 自分の力で治した

(イ) 聖霊の力によって治った

・元どおりに見えるようになったパウロは何をしましたか？

(ア) バプテスマを受けた

(イ) 本を読んだ

2. 目かくしで、これだあれ？ゲーム

・二人づつペアになってお互いに手を握って相手を覚えます。

・ペアをばらばらにして目かくしをします。

・みんなと握手をして最初のペアをさがします

〈目標〉 教会の頭なるキリストの御業をみる。

〈指導上の心得〉 二回に分けてサウロの回心を学ぶ。今回は物語の背景を知り、教会とは平和の主イエス・キリストの御業によって愛と赦しがもたらされることを学ぶ。

〈展開例〉

1. サウロについて正解と思うものに○をつけましょう。(使徒22:3-5)

・サウロはキリギリス州のタルソスという町で生まれた。(地図を調べよう！)

・サウロはガマガエルという人から律法を学んだ。

・サウロは律法をよく守っていたが、イエスさまを信じていなかった。

2. アナニヤについて()内に言葉をいれましょう。(使徒22:12)

・()教会の指導者だった。(答:ダマスコ)

・アナニヤは律法を守り、()さまを信じていた。(答:イエス)

3. サウロはなぜキリスト者を憎んでいたのでしょうか。正しいものに○をつけましょう。

・自分を救い主とすをついたイエスを信じる者は、律法を守っていないと思ったから。

・日曜学校に行くのが嫌だったから。

・キリスト者にいじめられたことがあるから。

4. イエスさまはサウロの心をどのように変えましたか。

キリスト者を(①)む→(②)する。

(答:①憎、②愛)

5. イエスさまはアナニヤの心をどのように変えましたか。

サウロを(①)れる→(②)す

(答:①恐、②赦)



問66の理解

罪から救い出されるため、わたしたちが求められていること。

教会に与えられた恵みの手段を忠実に用いて①、
→イエス・キリストを信じ②
生命に至る悔い改めをする③

①は問68で、②③は問67で学ぶ。

「わたしたち」すなわち共同体(教会)に求められている。教会としてその構成員の一人として、教会に与えられた恵みの手段を忠実に用いる。教会としてその構成員の一人として、イエス・キリストを信じ生命に至る悔い改めをしていく。



聖書の読みとり(使徒20:17~35)

パウロのエフェソの長老たちに対する最後の勧め。自分がこれまでしてきたこと(21節、暗唱聖句)、これから長老たちに託したいこと(28節)。教会に与えられる闘いと、それにうち勝つ方法(32節)。具体的な聖徒の交わり(34、35節)。



折り合う時を持つ

教会のために祈ろう。
牧師先生のために、長老さん達のために、小会のために、執事さん達のために、執事会のために、委員会のために、様々な奉仕をする人たちのために、教会員の中の知っている人たちのために、教会員の中で知らない人たちのために。他教会の働きのために。

月 日「教会に生きる(二)」中学科

名前 _____

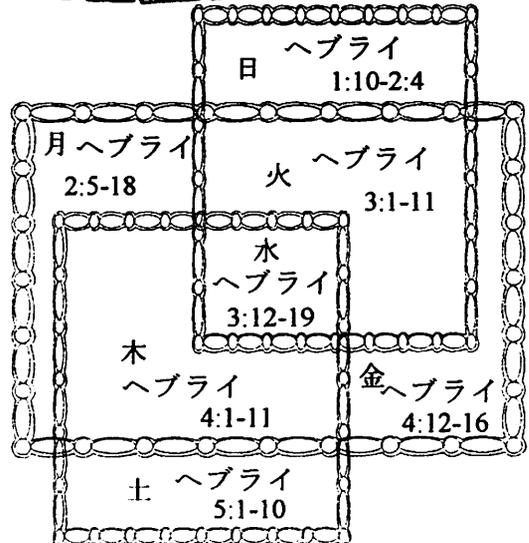
聖書:

問

讃美:

☆わたしたちが求められていること

毎日聖書を読もう



☆教会のために祈ろう

暗唱聖句

(使徒20:21)

サウロの回心物語後半です。目が開け元気を取り戻したサウロのその後の姿が描かれています。

(1) 回心後のサウロの姿

サウロは主イエスと出会い、回心したとはいえ、今までの自分の行為やってきたことを忘れたわけではありませんから、少なからず戸惑いも覚えたことでしょう。22章16節、「今、何をためらっているのです。立ち上がりなさい。その方の名を唱え、洗礼を受けて罪を洗い清めなさい」とアナニヤに言われている通りです。ですからこの20節以下はそのためらいの中から立ち上がったサウロの姿が主題になっているのです。

「あれはエルサレムでこの名を呼び求める者たちを滅ぼしていた男」が、「この人こそ神の子である」と宣べ伝え始めたのですから、まったく正反対の主張をし始めたことになるのです。「ここへやって来たのも」「速行するため」だったのに、かえって「ますます力を得て、イエスがメシアであることを論証」したのですから、示した態度も正反対でした。この反転が人々を「非常に驚かせた」のです。こうしてサウロの回心は心の中だけのことではなく、全人格的なものであることが描かれています。

(2) 使徒たちとサウロ

サウロの回心は今までのサウロ自身の姿をまったく変えてしまうものでしたが、それは23節以下

の使徒たちとのやりとりの中でさらに明らかにされます。エルサレムに戻り「弟子の仲間に加わろうとし」ます。しかし、「皆は彼を弟子だとは信じないで恐れた」。最初の使徒たちの態度は冷たいというよりも、これまでのサウロの行状を知っている者としてごく自然な態度だと理解すべきでしょう。むしろ大切なのは、サウロが以前の自分を行為を知らながらも弟子の仲間に加わろうとした点です。また、この時バルナバが使徒たちのもとへ連れていき、この次第を説明してとりなしたことです。さらにそのとりなしを受けてサウロを迎え入れ、サウロの命がねられるとそれを守り助けようとした兄弟たちの姿です。男女問わず、外国の町までも追跡して迫害していたサウロの行為を考えると、そのサウロを迎え入れ、兄弟として守ることは並大抵のことではありません。それだけに主がなされた業への信頼と聖霊の慰めがいかに絶大であったかが想像されます。

「主への恐れ、聖霊の慰めを受け」た教会がいかに生き、どのように発展と成長するかが、サウロという一人の人物の回心後の姿、兄弟としてとりなすバルナバという弟子、それを迎え入れる兄弟たち、弟子たちという教会の群れの姿を通して描かれているのです。

真の神に向かって生きるとはこの主の恐れと聖霊の慰めを受けて歩むことであり、この恐れと慰めは「全地方で平和を保つ」という姿へと信仰者とその群れをいざなうのです。

カテキズム	子どもカテキズム 問67 ウェストミンスター小教理問答 問86, 87 ハイデルベルク信仰問答 問65
-------	---

子どもカテキズム

問67 信仰と悔い改めとは何ですか

答 聖霊のお働きによって与えられる、救いの恵みです。イエスさまを救い主として受け入れ、信頼することと、罪を認め、罪を憎み、神さまに向かって歩むことです。

ウェストミンスター小教理問答

問86 イエス・キリストへの信仰とは何であるか。

答 イエス・キリストへの信仰とは、救いの恵みであって、それによって私たちが、救いのために、福音において提供されているままに、ただキリストを受け入れ、そしてより頼むのである。

〈救いのために求められるもの〉

ウ小教理は、私たち罪人が救われるために何が求められているかということについて、以下の三つの事柄を挙げています。

1. イエス・キリストへの信仰
2. 生命に至る悔い改め
3. 外的手段……み言葉と礼典と祈りの利用

これらはいずれも、神が無償で私たち罪人に備えてくださっているところの、救いの恵みを受けるための手だてであり、救いの恵みが私たちに送り込まれる通路です。これらの手だてを通して、私たちはただ恩恵のみによって救いを受けるのです。

このうち信仰と悔い改めは私たちの心の内に設けられている手段であるゆえに内的手段と呼ばれ、み言葉と礼典と祈りは私たちの心の外に備えられているゆえに外的手段と呼ばれます。

〈信仰〉

信仰は救いを受けるための内的手段です。信仰は聖霊によって、私たちの内に与えられます。

神は聖書においてイエス・キリストの福音を啓示したまいました。信仰とは福音において提供さ

れているままのイエス・キリストを受け入れることであり、これによって私たちは救われます。

パウロは信仰を器にたとえ（コリント二4:7）、カルヴァンは導管にたとえました。つまり信仰それ自身は空の器や管のようにひたすらむなしくあるべきものですが、信仰という管を通して来られるイエス・キリストこそが私たちを救うのだということです。

〈悔い改め〉

悔い改めとは罪人が罪を真に自覚し、イエス・キリストの福音の恵みを理解し、罪から神へと立ち返ることです。

悔い改めと聞くと、罪を嘆き、痛み入るというイメージが強いかも知れませんが、これは決して嘆きにとどまるものではありません。悔い改めとは踵（きびす）を返すということです。つまり、それまで造り主のもとから背き離れていた者が、百八十度方向転換して、神のもとに向き直すことです。ちょうど「放蕩息子のたとえ」（ルカ15:11以下）において、家出していた弟息子が踵を返して父の家へと帰っていったようにです。

テキスト 使徒言行録9章19節後半～22節
 カテキズム 子どもカテキズム 問67

「信仰と悔い改め」

〔単元のねらい〕

信仰も悔い改めも、聖霊の働きによる救いの恵みである。それ故に、日曜学校に奉仕する者は、神が子どもたちに、聖霊を注いでくださり、信仰と悔い改めの恵みを与えてくださるようにと、祈らなければならない。もし祈りを欠いて担うならば、その奉仕は的外れなものとなり、正しい実を期待することはできないであろう。使徒パウロは、かつて的外れの神奉仕をしていた。それこそ、罪である。しかし、ダマスコの体験以降、劇的に神に向かって歩み始める。人生の正しい目的をめがけて進むキリスト者、新しい人の典型を見る。神は、使徒パウロにおいて、罪人に信仰と悔い改めを与えて、新しい人として再創造する神の御力を鮮やかに示された。我々は、この物語から、子どもたちとともに神に向かって前進する幸いに招かれていることを感謝し、喜んで生きることへと招きたい。

今日のお話の主人公は、先週のお話と同じ、パウロさんです。パウロさんは、復活のイエスさまに出会う前には、キリスト者を捕まえて迫害する、それはそれは、教会にとって恐ろしい敵でした。その頃、パウロさんは、自信満々でこう考えていました。「世の中で、僕ほど、聖書の神さま、真の神さまを信じ、神さまに喜ばれている行いをしている人はいない。」けれども、それは、まったくの勘違い、間違いです。パウロさんがしていたことは、真の神さま、イエスさまが最も悲しまれることでした。パウロさんのように、的はずした生き方をすることを、罪と呼ぶのでしたね。そんなパウロさんに、イエスさまは教えてくださいました。「パウロ、パウロ、あなたがしていることは、罪です。真の神さまの私に反抗することです。それは、あなたにとっても自分を苦しめるだけなのです。」パウロさんは、こうして、復活されたイエスさまによって、的外れの生き方をしていたことに気づいて、すぐにそこから離れて、イエスさまを信じることができたのです。これは、すべてパウロさんの力ではなく、すべて神さまが教えてくださったから、神さまの救いの恵み、恵みの力なのです。

さあ、パウロさんは、信仰と悔い改めを与えられてどんな風になったのでしょうか。これまでと

同じように、パウロさんは、聖書を読んで聖書のお話を聞いて神さまを礼拝する場所、ユダヤ教の会堂に行きました。これまでパウロさんは、こんなお話をしていたのです。「イエスという男は許してはいけない人間だ。自分を神さまと言ったし、その弟子たちはそのイエスを神さまと言い始めている。絶対、ほうっておいてはいけない。そんな奴らは必ず死刑にしなければならないと、聖書には書いてあります。」

ところがどうでしょう。今は、こんな風に聖書の説教をし始めたのです。「イエスさまこそ、神さまの御子です。あなたたちが十字架につけたイエスさまこそ、救い主で、神さまです。私もあなたがたも罪人です。けれども、私のように、イエスさまを信じ、悔い改めれば、罪を赦していただけます。神さまの子どもにしていただけるのです。あなたがたも悔い改めて、信じなさい。」

これを聞いていたユダヤの人たちは、それはそれはびっくりしました。なぜなら、自分たちの中で一番、イエスさまを憎んでいた人、キリスト者を憎んで殺さなければならないと考え、行っていたその人が、今はまったく正反対のことを話し始めたからです。

神さまは、人間をこれほど変えてしまうことの出来る、力のあるお方です。神さまの与えてくだ

さる信仰と悔い改めの恵みは、どんなにイエスさまを憎み、敵となっている人であっても、新しい人に作り変えることがおできになるのです。イエスさまを大好きになり、イエスさまのために勇気をもって生き、役に立てる人に変えてしまう驚くような、すごい力があるのです。

実は先生も同じでした。昔はイエスさまのことを信じていませんでした。先生が子どもの頃、近くに教会ができたのです。そして、日曜学校が始まりました。たぶん、日曜学校の先生なのでしょう、日曜日の朝に、ハンドマイクを持って、「日曜学校始まるよ、楽しいよ、みんなついておいで……」とアナウンスして町を歩くのです。そして、見てみると、小学生たちがその先生の後について歩いているのです。先生は、キリスト教とか、教会とかまったく知りませんでした。もちろん、日曜学校に一度も行ったことがありません。その教会の名前は、〇〇ペンテコステ教会と言っていました。もちろん、聖書を読んだことなどありませんでしたから、おかしい名前だなあ、「へんてこな」名前だなと思いました。そして、ある友達が「ペンテコ・ステテコ・パンツの教会」と言うはやし言葉を考え出しました。そして、先生も、そんな風に面白おかしく口にしていました。

皆の中で、お友達から「日曜学校って何するところ、へんなところじゃないのか、」なんて悪口を言われたことのあるお友達はいますか。そんな

時、みんなはどうしますか。口をつぶって、自分が日曜学校に通っていること、教会に行っていることを隠してしまいますか。どうぞ負けなでください。そんな風に考えたり、言ったりするお友達、知らないからそんな風に言うのです。そんな時には、「イエスさまのお話を聴くことができるんだよ、賛美歌を歌ったり、学校では教えてもらえない、良いことを教えてもらえるし、楽しいよ。とにかく一緒に行ってみない。」そんな風に、むしろ誘ってあげてください。

先生の子どもの頃は本当に、イエスさまに悲しまれていました。でも、今はイエスさまを信じているでしょう。イエスさまのことを皆に、お話しすることが先生の喜びです。先生も、信仰と悔い改めの恵みを与えられていただいたからです。神さまによって、作り変えられたからです。皆も同じでしょう。赤ちゃんのときから教会に来ているお友達も、最近来るようになったお友達も、今、皆一緒に、神さまを礼拝しています。神さまの愛、祝福、悔い改めと信仰を与えていただいているのです。僕たち私たちは、これからも、どんどん、聖霊のお働きによって神さまに向かって歩んで行きたいと思います。そのためには、日曜学校に、教会にしっかり繋がっていることです。教会は、イエスさまの御体です。教会において、僕たち私たちは神さまの子として成長させられて行くのです。

今週の暗唱聖句

むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。

エフェソの信徒への手紙4章15節

〈ねらい〉

聖霊は信徒に悔い改めと信仰という恵みを与え、新しい人として人生を歩ませることを学ぶ。

〈展開例〉

先週もパウロさんのお話だったけど、覚えているかな？ イエス様に会った時、見えなくなったパウロさんの目が、見えるようになったお話でした。

パウロさんは目が治ってから、もとのような生活に戻ったのかな？ そうではありません。教会をいじめていたパウロさんは教会の味方になっ

て、「十字架で死なれたイエス様は復活されました。みんな信じてイエス様に従いましょう」とたくさんの人たちに教える人になったのです。

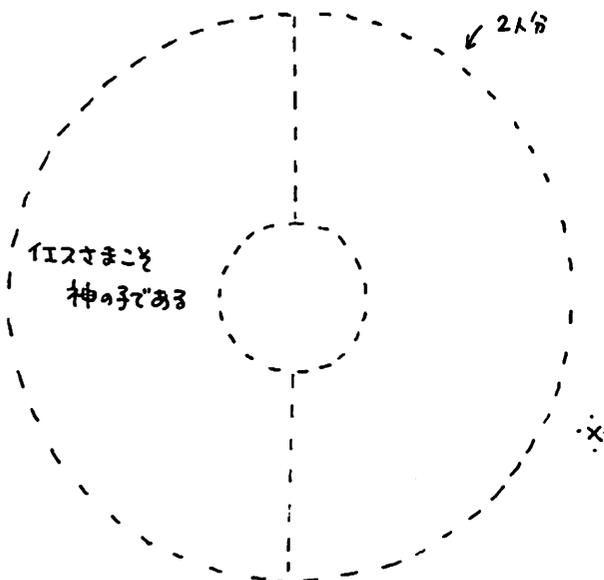
すごい変り方ですね。みんなも変身してみたいと思いませんか？ パウロさんだけではなく人に、みんなも神様に変えていただけるんですよ。

〈いのり〉

天のお父さま、あなたの御霊によって私たちをいつも新しくし、私たちの道をあなたに向けさせてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

メカ^ハホ^ンをつくらう

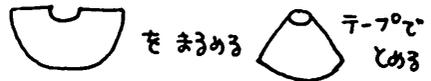


- 用意するもの
- ・画用紙
 - ・テーパー
 - ・マニックフペン
 - ・はさみ

1

画用紙に円を書き
……の部分をはさみで切る

2



メッセージを書いて
好きな絵や模様を書こう。

〈目標〉

わたしたちは、ひとりぼっちではなく、教会と共に、神さまに向かって、神の国を目指して歩みます。

〈展開例〉

①導入

運動会はもう終わりましたか？ かけっこも、親子競争もかならず、ゴールがありますよね。そこを目指して、いっしょうけんめい走ります。もしゴールがどこかわからなかったら、どうでしょう？ ちがう道を走って、迷子になってしまうかもしれません。クタクタに疲れてしまうでしょう！

私たちのゴールはどこでしょう？ 知っていますか？

②考えてみよう

パウロ（サウロ）さんは、キリスト者を、つかまえて牢屋に入れることが、一番大事なことだと

思い込んで、いっしょうけんめいしていました。

ゴールを見失っていたパウロは、イエスさまのお声を聞いて、どのように変えられましたか？

……イエスさまのお弟子さんになって、イエスさまの救いを人々に伝える人になった。神さまに向かって、天の国のゴールを目指して走る人になった。

③適応

神さまに愛されて造っていただいた私たちは、神さまに向かって（ヒマワリの花のように）大きくなっていくことができますように。

そのためには、教会につながり続けることが大切です。

④お祈り

イエスさまが、天の国のゴールをしめしてくださいとありがとうございます。わたしたちも教会学校のお友達といっしょに、神さまに向かって大きくなることができますように。アーメン。

〈やってみよう〉

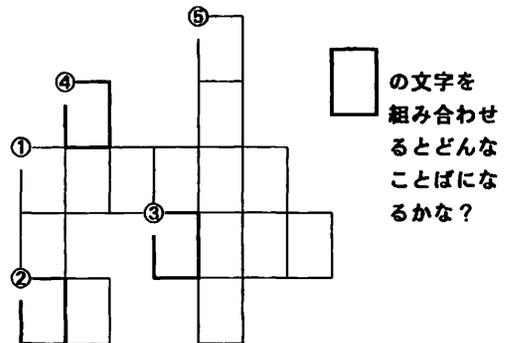
『クロスワード』

○ヨコのかぎ

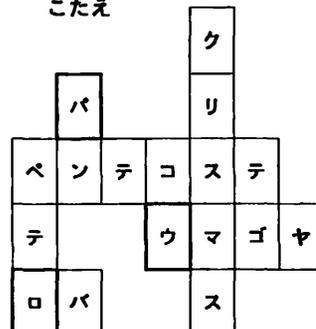
- ①弟子たちが、集まって祈っていたら聖霊が注がれたよね！イエスさまの教会の誕生のこと
- ②イエスさまがエルサレムに入城したときにとっていた動物は？
- ③イエスさまがお生まれになった場所はどこ？

○タテのかぎ

- ①イエスさまのお弟子さんの○○○
- ④40日間の荒野の試みでイエスさまにサタンが言った言葉、「これらの石が○○になるように命じなさい」
- ⑤イエスさまのお誕生をお祝いします



こたえ



〈暗唱聖句〉 使徒言行録9章20節

「この人こそ神の子である」と、イエスのことを宣べ伝えた。

〈学びのポイント〉

- (1) 信仰も悔い改めも神様から与えられる
- (2) 信仰とは、聖書にあるイエス・キリストをうけいれること
- (3) 悔い改めとは、神様のもとへ向き直ること

〈説教のおさらい〉

神様が教えてくださらなければ本当の神様を知ることができないし、神様から示されなければ罪を感じることはできません。信仰も悔い改めも聖霊の導きにより上から与えられます。しかし、パウロの回心のように、一度キリストが捕らえてくださるなら、大胆に福音を宣べ伝える器として、用いてくださいます。そこから始まる新しい生活は、信仰と悔い改めの毎日で、神の救いに対する豊かな恵みと感謝へ導かれます。

〈やってみよう〉

1. 聖書を開きましょう

使徒言行録9章20節

・悔い改めて新しくされたサウロはどんなことをのべ伝えましたか？

2. 教会のことをお友達に話すことはありますか？
どんなふうにお話ししてあげますか。

イエス様のことを伝えてあげましょう。

3. 伝言ゲーム

・一人目に先生が言葉を伝えます。

最後にはどうなっていくか、たのしみで一す「この人こそ神の子である」とイエスのことをのべ伝えた

——今度はラップ調でチャレンジ——

【こどもさんびかⅡ】117番より

サウロよ サウロよ イエスさまーは
ひかりのなかから よびかけた

そのとき サウロは 地にたおれ
主イエスのちからで 変えられた



〈目標〉 悔い改めについて学ぶ。

〈指導上の心得〉 サウロもアナニヤも、主の御前に悔い改めた者である。この二人に現われた悔い改めの実に焦点を当てる。

〈展開例〉

1. 次の①から⑭までのカードをつくります。サウロとアナニヤの物語です。正しい順番に並べ替えましょう。

- ①サウロ、サウロ。なぜ私を迫害するのか。
- ②アナニヤ、サウロがダマスコへ来ている。彼はあなたが来るのを待っている。
- ③ダマスコにはたくさんのキリスト者がいるらしい。たくさん捕まえて死刑にしてやる。
- ④ダマスコへ行きなさい。そこであなたのなすべきことがわかる。
- ⑤サウロ、あなたの目が元どおりになるように。
- ⑥主よわたしは嫌です。サウロはわたしたちを牢屋へ入れるために来たのです。

⑦サウロは悔い改めて祈っている。彼を赦し、受け入れなさい。

⑧私はあなたが迫害しているナザレのイエスである。

⑨ありがとうございます。私の目はもとどおりになりました。

⑩わあーっ！

⑪はい。どうかいままでの私を赦してください。

これからはあなたがたと共にイエスさまをのべ伝えます。

⑫さあ洗礼を受けなさい。あなたは異邦人に福音をのべ伝えるのです。

⑬イエス様。私はどうしたらよいのですか。

⑭主よあなたはどなたですか。

(答：③⑩①④⑧③④②⑥⑦⑤⑨⑫⑪)

2. 三人でロールプレイングして、二人の心の動きを体験してみましょう。



問67の理解

イエス・キリストへの信仰（救済的信仰）と、生命に至る悔い改めは、表裏一体のことがら。ウ告白ではそれぞれに一章ずつ（第14、15章）、小教理でも一問ずつ（問86、87）が当てられている。

「信じなさい、そうすれば……」「悔い改めよ、さもなくば……」と命じられる。これらは、神様から一方的に与えられる救いの恵み。

イエスさまを思い浮かべて。あなたの前にイエスさまが立っておられる。で、イエスさまがあなたを見て、「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか」と仰る。あなたはイエスさまを見て「はい、信じます」と答える。これが、「イエス・キリストへの信仰」。

罪は「的外れ」のこと。自分が的外れであったことを気づかされ、神様の方へ向き直ることが「悔い改め」。自分がどう的外れであったのか気づくときは、すでに神様の方へ向き直っている。神様の方へ向き直れば、わたしの罪のためにイエスさまが十字架についてくださって、わたしが受ける罰をすべて受けて下さったこと、イエスさまがそのご生涯に、わたしのするべき全てのよいことをして下さったことが分る。

この信仰と悔い改めは、日々為されるもの。次週に学ぶ恵みの外的手段によって、生み出され増し加えられ強められる。



暗唱聖句

これはわたしたち共同体（教会）に与えられた約束であることに着目。

月 日 「信仰と悔い改め」 中学科

名前 _____

聖書：

問

讃美：

☆一方的に与えられる救いの恵み

毎日聖書を読もう

日 ヘブライ 5:11-6:12	月 ヘブライ 6:13-20
水 ヘブライ 7:11-28	火 ヘブライ 7:1-10
金 ヘブライ 8:7-13	木 ヘブライ 8:1-6
	土 ヘブライ 9:1-22

暗唱聖句

(エフェソ4:15)

☆日々生み出され増し加えられ強められる。

この聖書の箇所は10月6日にすでに扱いました。

6日は信仰共同体である教会について重点としましたが、27日は42節から御言葉、礼典、祈りといった信仰生活の土台を重点として考えてください。

聖霊降臨から始まる一連の出来事を描いている箇所です。2章1節で「一同が一つになって集まっています」と聖霊の降臨が起きました。それは14節「ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始め」る説教へと駆り立てました。そして、その結果として、37節「人々はこれを聞いて大いに心を打たれ」、47節「こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」もちろんこれは1章で昇天されるイエスが言われた約束の成就です。一つとなっている使徒団に聖霊による力と確信が与えられ、説教と証をなす証人とされる。それが新しい神の民を作ったのです。使徒言行録では「主が招いてくださる者」「主は救われる人々を仲間に加え」と解説して、使徒たちの働きというよりも主の業としてとらえています。

(1) ペトロの説教を聞いた人々

ペトロの説教を聞いた人々は「大いに心を打たれた」とあります。41節では「ペトロの言葉を受け入れた人々」と言われています。この「受け入れた」とは、話を承認したという程度の理解ではなく、その話が自分のこととして感謝をもって受け入れられることを意味しています。それが「心を打たれ」ということであり、ペトロもはっきりと「あなたがたが十字架につけて殺したイエスを」(36節)と言って、「あなたがた」と断言しています。つまり説教を聞いて洗礼を受けた人々

はペトロの言葉を自分のこととして受け取った人々なのです。

ペトロはこの人々に悔い改めと受洗を勧めます。そしてこうして加わった人々は一つの群れを形成しました。41節では「仲間に加わる」と言われるように仲間意識を持った集団であり、44節以下では「皆一つになる」「物を共有し、分け合う」「心を一つにする」「集まって一緒に食事を」と描かれほど、一つになる性格をもった群れを形成するのです。それは最後に解説されるように「主は救われる人々を仲間に加え一つにされた」結果なのです。キリストの教会は「類は友を呼ぶ」と言われて作られる人間の集団ではなく、主ご自身が一人一人を集め仲間に加えてつくられた群れなのだと言いたいのです。

そこでこの群れは必然的に「使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心」となります。これらはすべて主イエスご自身が教えられ、命じ、熱心でありました。またこれらを通して主は御自身を提示し、主の恵みを人々に注がれましたから、なおのこと主の群れはこれらに熱心になるのです。

(2) 「主が招いてくださる者」

受洗することを人々に勧めたペトロは、それによって罪の赦しと聖霊派遣を語り、この約束が遠近を問わずだれにでも与えられるものであることを教えています。とりわけここでは「信じる者ならだれにでも」と言わず「主が招いてくださる者ならだれにでも」と表現しています。もちろん私たちはそれを自分のこととして信じて約束にあずかるのですが、それは「主が招いてくださった」結果なのです。洗礼を受け、仲間に加わるのは、この主の招きに対する応答なのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問68
 ウェストミンスター小教理問答 問88
 ハイデルベルグ信仰問答 問65

子どもカテキズム

問68 恵みの手段とは何ですか。

答 御言葉と礼典とお祈りです。父なる神さまは、聖霊のお働きによって、特にこの三つを通して、私たちに、イエスさまがいっしょにいてくださることを信じさせてくださいます。こうして、私たちはイエスさまと一つに結び合わせられ、キリストの体なる教会として建て上げられます。

ウェストミンスター小教理問答

問88 キリストが、あがないの恵みを私たちに伝達される外的な、そして普通的手段は何であるか。

答 キリストが、あがないの恵みを私たちに伝達される外的な、そして普通的手段は、キリストの規定、特に、御言と礼典と祈りであって、これらのすべては、選ばれた者にとって救いのために有効とされるのである。

み言葉と礼典と祈りは、救いのための外的手段です。

〈み言葉〉

み言葉とは旧新約66巻の聖書のことであり、またその朗読と説教のことです。聖霊はみ言葉を用いて私たち罪人を回心に導き、イエス・キリストを信じる信仰に生きる者として下さいます。

さらに、神はみ言葉を回心のみならず、私たちの聖化のためにも用いて下さいます。イエス・キリストのみ言葉にあって私たちは罪の赦しを与えられ、罪の刑罰を免除されるのみならず、罪の汚れをきよめられ、キリストにある新しい人に生まれ変わります。地上にある間私たちの内にはこの古い人と新しい人とがたえず葛藤し、せめぎあいますが、み言葉にあずかり続けることによって私たちはいよいよ古きアダムに死に、新しきキリストに生きる者とされる恵みにあずかるのです。

〈礼典〉

礼典はイエス・キリストご自身が制定された聖なる規定です。これはイエス・キリストにある恵みの契約の祝福が感覚的なしるしによってあらわ

されるゆえに、見えるみ言葉とも呼ばれます。

礼典には、み言葉のように信仰を生み出す働きはありませんが、み言葉によって生み出された信仰を確かにし、強める働きをします。ちょうど書類に印を押すように、信仰は礼典によって強化され確証されます。

新約における礼典は、洗礼と聖餐のふたつです。洗礼によって私たちはイエス・キリストに接ぎ木され、恵みの契約の祝福につらなる者とされます。聖餐によって私たちはイエス・キリストの十字架の贖いと復活の命の恵みにあずかり、霊的栄養を補給されます。それゆえに聖餐にあずかり続けることは、私たちの聖化のいとなみに決定的な意味をもつのです。

〈祈り〉

私たちは祈りを通して、さらに豊かに救いの恵みにあずかります。祈りは神との対話です。神は祈りにおいて、私たちがご自身に近づくことを許して下さいます。

私たちは祈りにおいて神との聖なる交わりにあずかり、体と霊との、またこの世と来たるべき世とのいっさいの祝福を注がれるのです。

テキスト 使徒言行録2章37節～47節
 カテキズム 子どもカテキズム 問68

「恵みの手段」

〔単元のねらい〕

信仰と悔い改めは神の恵みである。その恵みに深められ、成長させていただく筋道、手段も、神が備えてくださる。人間の考え出し、生み出した道、手段では何の役にも立たない。キリスト教信仰は、徹底的に神中心、恵みのみである。我々は、この神の定められた恵みを受ける道、手段の中で健やかに信仰を生きることができる。そこでこそ明らかになるのは、教会に生きることこそ、信仰を生きることと一つであるという真理である。子どもたちに子ども礼拝式の重要性を教え、また普段の祈りの重要性を教えたい。とりわけ暗唱聖句、カテキズムの暗唱が、子どもらに主イエス・キリストとの交わり、主が共にいてくださる恵みの事実を目を開かせられるために、力となる。契約の子らには、毎日の祈り、家庭礼拝の重要性を、地域の子らには毎日お祈りすることの幸いを教え、そのために励ましを与えたい。

10月の最初の日曜日に読んだ聖書の箇所を今日も読みました。ペトロさんたちがイエスさまから約束されていた聖霊を受けて、説教したとき、3000人の人たちが同時にイエスさまを信じたお話、教会の誕生のお話です。「私たちの兄弟ペトロさん、わたしたちはイエスさまを十字架につけたような罪人です。救われるためには、どうしたら良いのでしょうか。」ペトロさんは、はっきりと言いました。「罪を悔い改めなさい。そして、ひとりひとりイエスさまのお名前によって授けられる洗礼を受けなさい。そうすれば、あなたがたのどんな罪でもすべて赦されます。神さまの子どもとしていただけるのです。」こうして、ペトロさんたちは3000人余りの人たちに、洗礼を施しました。

さて、洗礼を受けて教会の仲間に加えられた人たちはその後どんな生活をしたのでしょうか。今日の暗唱聖句を唱えてみましょう。「彼らは使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。」四つのことが言われていますね。一番最初のキリスト者たちは、一番目に「使徒の教え」、つまり聖書のお話、説教を聴くことに熱心でした。二番目に「交わり」、つまり一緒に集まることです。ばらばらでイエスさまを信じていたのではなくて、時間が許す限り一緒に集まって聖書のお話を聞いていたのです。第三番目

に「パンを裂くこと」、これは来年学ぶことになっています。聖餐の礼典のことです。第四番目は「お祈り」です。

つまり、この最初の教会の人たちがしていたことと、今、僕たち私たちが日曜学校の礼拝式でしていることはほとんど同じですね。違うのは、聖餐の礼典がないことくらいです。つまり、「彼らは使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった」は、今、僕たち私たちがしていることと同じことです。礼拝式でしているのです。教会にお友達と集まって、先生から聖書のお話、説教を聴きます。分級で詳しく御言葉を学びます。また、工作を楽しんだり、お祈りしあったり、遊んだりします。イエスさまは、僕たち私たちに教会を与えてくださいました。イエスさまによって建てられた教会には、イエスさまが共にいてくださいます。僕たち私たちにそのことをはっきり教え示してくださるために、イエスさまが、その方法として、手段として、道として、御言葉と礼典とお祈りを与えてくださいました。誰でも、イエスさまを信じ、イエスさまと一つに結ばれるためには、この手段を用いなければできません。逆に、誰でも、御言葉と礼典とお祈りを用いるならば、その人はイエスさまのことが分かってきます。好きになってきます。信じるようになります。従いたくなります。

僕たち私たちは、今、聖書のお話を聴いています。でも、教会だけでしか聖書を開かないお友達も結構いるかもしれません。家の中で自分の他に誰も教会に来ていないお友達も、家でも聖書を開いてください。お友達のなかには、今までの週報を捨てないで、大切にしているお友達がいることを知っています。とってもとっても嬉しいです。週報には暗唱聖句が記されています。どうぞ暗唱聖句を一週間のなかで覚えてください。覚えられなくても、「今週の暗唱聖句なんだっけ」と、週報を引っ張り出してください。カテキズムの本はピカピカの新品のままではこまりますよ。そろそろ、ぼろぼろになってくるお友達がいたら嬉しいです。家に帰っても開いて読んでください。家の中でもお祈りしよう。

イエスさまは、皆のことを愛しておられます。本当です。でも、愛は見えません。イエスさまもこの目では見えません。けれども、知ってください。教会に来て、聖書の御言葉を聴いていると、イエスさまのことが分かってくるでしょう。皆の心は暖かくなってくるでしょう。それは、イエスさまが皆の心に触れてくださるからです。「イエスさまって、すごいな、素晴らしいお方だな、僕を救ってくれたんだ、わたしのために十字架についてくださったのだ、本当に感謝だな。」そんな風に思ったことの一度でもあるお友達は、イエスさまがもう心の中に住んでくださっています。ま

だ、そんな気持ちになったことはないよって言うお友達も、もしも、教会に通い続けて、聖書のお話を聴き続け、自分の口でイエスさまのお名前を呼んだら、必ず分かります。必ず、イエスさまは昔の人ではなくて今生きて一緒にいてくださる本当の神さまだって分かります。気がつきます

イエスさまは生まれつき目の見えない人の目を癒されたことがあります。その人の目に唾でつくった泥を塗り、シロアムの池で洗いなさいと命じられました。その人は、イエスさまの言われるとおりしたのです。もしもその人が、「泥を目に塗ったって、生まれたときから一度も目の見えない僕の目が治るわけないさ、」そう信じてシロアムの池に行かなかったら、目は開きませんでした。イエスさまはおっしゃいます。「聖書の御言葉を聴きなさい。お祈りしなさい。子どもの礼拝式、日曜学校に来続けて御覧なさい。」必ず、イエスさまが、僕たち私たちに気づかせてくださいます。心の目、信仰の目を開いてイエスさまを見る事が出来ます。イエスさまを信じる事ができます。その嬉しくて涙が出るようなその日まで、教会から離れてはいけません。命をかけてあなたを愛しておられるイエスさまの愛を知らないで、教会から離れてはいけません。そのために、僕たち私たちも、毎日、お祈りし、聖書の御言葉を聞きましょう。

今週の暗唱聖句

彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。

使徒言行録2章42節

〈ねらい〉

日曜学校でしていることは礼拝であり、それが恵みであることを知る。

〈展開例〉

教会に来て何をしていますか？……「お祈りをする」「聖書を読む」「讃美歌を歌う」「先生のお話を聞く」……答えのヒントを出して導く。みんなと一緒に賛美したり、お話ししたり、工作を楽しんだりする「交わり」と「聖餐の礼典」を補足し、これが礼拝だよ、と導く……。

みんなと一緒に楽しくお話を聴き、讃美歌を歌い、お祈りをすると、イエス様のことがもっとよく分かるよ。もっともっと大好きになるよ。それは嬉しいことだね。神様にありがとうございます。すってお祈りしようね。

〈いのり〉

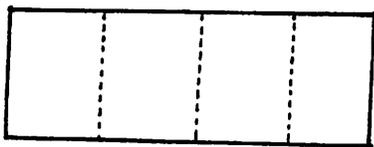
天のお父さま、お友達と一緒にイエス様のお話が聞く事ができて、ありがとうございます。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

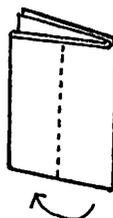
なかよし人形をつくろう

- ◆用意する物
- ・ A4サイズのコピー用紙（くらいの厚さの紙）
 - ・ ハサミ
 - ・ 色鉛筆、クレヨンなど

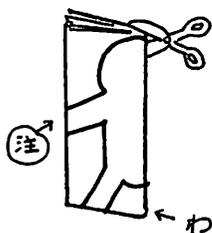
① A4の紙を縦半分に切り、4ツに折る。



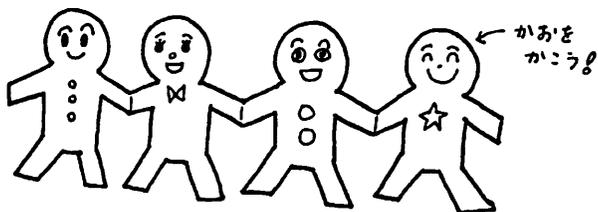
② さらに半分に折る。



③ わを中心にして人の形を書き、切り抜く。
※手の部分が必ずつながる様に注意する。



④ 開いてかわいい顔をかこう！



そのままテープで壁やドアに貼ったり、
端と端の手をのりで張り合わせ手をつないでもかわいいよ！



〈目標〉

子ども礼拝式を捧げること、お祈りすることの大切さと、幸いを学ぶ。

〈展開例〉**①導入**

みんなが、今ここに（教会）に来ているのは、どうしてかな？……自分で来ようと思ったから？

それとも、お友達に誘われたからかな？

（一人一人に、言ってもらう）

……私たちが教会に来れたのは、私たち人間の方ではなく、「神さまの導き」「聖霊の働き」であることを話す。（使徒2：39）

②考えてみよう

ペトロさんのお話を聴いて、人々はどうしましたか？

……「悔い改め……洗礼を受け、罪を赦していただき……」（2：38）、「ペトロの言葉を受け入れ

た人々は洗礼を受け、その日に3000人ほどが仲間に加わった。」（2：41）……教会になったのです。

教会において、人々は、何に熱心でしたか？

……「使徒の教え（聖書の学び）、相互の交わり・パンを裂くこと（聖餐）、祈ることに熱心であった」（2：42）。

③適応

私たちも主の日に教会に来て、礼拝を捧げ、毎日お祈りをすることによって、イエスさまこそがまことの救い主であることがわかるようになります。

これからも、暗唱聖句やカテキズムを覚えましょう。そして僕たち私たちが洗礼（信仰告白）を受けられますようにお祈りしましょう。

④お祈り

御言葉と祈りによって、神さまのお思みをいただくことができますように。アーメン。

〈やってみよう〉

『十二弟子の名前を覚えよう』

○用意するもの

厚紙（画用紙）で作ったトランプ大のカードを24枚

色鉛筆、マジックなど

○遊び方

①「トランプの神経衰弱」の要領で、十二弟子の札を各2枚ずつ作ります。

札に弟子の名前や、似顔絵などを描きます。

②カードをめくって遊びながら、十二弟子を覚えます。

*『恵みの手段』の〈御言葉・礼典・お祈り〉の3種類の札も各2枚ずつまぜてポイント2倍カードにしてもよいかも？

☆人数の多い時に……

①全員で円になる。

②端から一人ずつ、十二弟子の名前をつける。

③2回手を叩いて、左手親指を出し、自分の名前（例えば「ペトロ！」）と言い、右手親指を出して呼びかける人の名前（例えば「ヨハネ！」）と言う。

④節に合わせてテンポよく名前を呼び合う。



〈暗唱聖句〉 使徒言行録2章38節

悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。

〈学びのポイント〉

- (1) キリストが定めた救いの道
- (2) 人は自分自身を救うことができない
- (3) み言葉と礼典と祈り

〈説教のおさらい〉

日曜学校と毎日通う学校と何が違うのか考えてみよう。(子どもたちと語り合ってみる。)

聖書明読と説教、交わり、洗礼と聖餐、祈り、これらはキリスト教会だけに与えられている。救いのための恵みである。小さい子どもも自分でお祈りができる。いま、どんなことを祈りたいと思っているか、そして実際に祈ってみるように、子どもたちを励ましたい。

〈やってみよう〉

1. 聖書を開きましょう

使徒言行録2章42節

・洗礼を受けて教会の仲間に加えられた人はその後どんな生活をしたのでしょうか

2. 教会に来てみんながすることは何ですか？

- ・イエス様のお話を聞いたりみんなで遊んだりする
- ・お祈りをしたりさんびかをうたう

3. 聖書ビンゴ

①先生が9人の聖書の人名を読みあげ、各自好きなところに書き入れて準備をする

マタイ	エヤ	ヨハネ
パウロ	マリア	エリサベ
ルカ	マルコ	ヤコブ

きなどころに書き入れて準備をする

②じゃんけんで勝った人が好きな名前を読みあげ消していく

③早く三つ並んだ人が勝ち

などなど

ビンゴ!!

〈目標〉 教会のしるしを学ぶ。

〈指導上の心得〉 救われた3,000人が、その後、教会を建て上げるために行った恵みの手段を紹介し、次回以降の備えとする。

〈展開例〉

41、42節を読んで次の問に答えましょう。

〔問1〕ペトロの説教によって救われた3000人は教会となりました。彼らは何をしましたか。

- ①熱心に()を学んだ。(答:使徒の教え)
- ②熱心に()をした。(答:交わり)
- ③熱心に()を裂いた。(答:パン)
- ④熱心に()った。(答:祈)

〔問2〕私たちも使徒の教えを学んでいます。それは何ですか。(答:聖書・説教)

〔問3〕交わりとは何ですか。(答:愛しあうこと)

〔問4〕パンを裂くとはどういう意味ですか。(答:聖餐式)

〔問5〕次の場合どんな教会になると思いますか。

①使徒の教えを学ばない教会

誘惑や試練に()い教会(答:弱)

②交わりのない教会

愛のない()たい教会(答:冷)

③パンを裂かない教会

イエスさまを()れた教会(答:忘)

④祈らない教会

神さまに心が()いていない教会(答:向)

〔問6〕御言葉、聖餐式と洗礼、祈りをイエスさまがくださった恵みの手段といいます。これらは何のためにくださったのでしょうか、問68を読んで正しい言葉を入れましょう。

イエスさまと一つに(①)び合わせられ、キリストの(②)なる教会として建て上げられるため。(答:①結 ②体)



問68の理解

恵みの手段、「外的な普通の」という言葉を補う(ウ小教理88)。

外的・内的については、カテキズム研究10月20日分参照。

聖霊なる神様は御心のままにご自由に働かれるので、普通的手段以外の特別的手段をお用いになることもある。しかし、大切なことは普通的手段を忠実に用いること。救いの恵みの伝達の外的な普通的手段とは、御言葉と礼典と祈り。それ以外の何か(劇的な回心とか、奇跡とか、癒しとか)を通して救われることを期待する必要はない。毎週忠実に礼拝を守り御言葉と礼典と祈りに養われていれば、わたしたちは確実に救われる。そのようにキリストが定められ、約束された。

御言葉について問69、70で、礼典について問71～75で、祈りについて問76～85で詳しく学ぶことを伝える。



聖書の読みとり

キリストの命令と約束(マタイ28:19～20)、教会の応答(使徒2:42、46、47)イエスさまの最後の約束を忠実に用いて豊かに祝福された初代教会の姿を読み取る。

43～45節には奇跡と教会の共有生活が述べられる。教派によって奇跡や癒しを大切にしている教派もあるが、わたしたちの教会は、聖霊なる神様が聖書と共に働かれることをとても大切にしている。

聖書の導きによって著され、聖霊の導きによって説き明かされる御言葉、見える御言葉・礼典、そして神様と語り合う祈り、この素晴らしい手段を豊かに用いることを感謝をもって勧めよう。

月 日 「恵みの手段」 中学科

名前

聖書:

問

讃美:

☆救いの恵みの伝達の外的な普通的手段

☆イエスさまの約束

毎日聖書を読もう

日	月
ヘブライ	ヘブライ
9:23-28	10:1-18
火	
ヘブライ	
10:19-39	

水	木
ヘブライ	ヘブライ
4:1-6	11:1-16

金	土
ヘブライ	ヘブライ
11:17-40	12:1-13

暗唱聖句

(使徒2:42)

テキスト

使徒言行録8章26～40節

エルサレムに礼拝に来て帰る途中のエチオピアの高官にフィリポが遣わされ、この高官が救われるお話です。ここには外国の高官、フィリポの派遣、イザヤ書の朗読と手引きしてくれる人、説き明かすと洗礼、そして救われた者の喜びという要点が丁寧に描かれています。

(1) エチオピアの高官

このお話でまず目に留まるのはエチオピアの高官です。主の天使はフィリポをこの旅路にある高官のもとへ遣わされました。この人物とこの出会いの場面はドラマチックで詳細に描かれています。遣わされたフィリポにとっても忘れられない体験だったことでしょう。エチオピアはエジプトの南に位置し、エルサレムからは遙かに遠い国です。カンダケとは女王の呼称です。女王の全財産を管理する高官ですから大きな働きに従事していた人物です。その彼がエルサレムに礼拝に来ていたということがまず驚きです。つまり外国人の改宗者なのです。それもエルサレム巡礼までする熱心な求道者なのです。さらに読者の目に留まるのが、この人物のために主の天使がフィリポを派遣するという事です。ガザへ下る道、そこは寂しい道である場所に、それもこの人物一人のために伝道者を派遣されたのです。エルサレム旅行をしてでも神を求め、礼拝しようとする真摯な求道に対しては、神も一人の伝道者を派遣してその求道にきちんと答えてくださる顕著な例がここには描かれています。

(2) 聖書と説き明かし

彼の求道はエルサレムでの礼拝、聖書朗読、手引きしてくれる者への傾聴、受洗の願い、喜びの旅路と続いています。彼の求道が豊かに祝福された理由は、これらのすべてを忠実に用い、このすべてにおいて神を求め、神礼拝をしようとした点にあります。礼拝出席しなくても聖書さえあれば

よいとか、礼拝出席するけれども聖書は読まないとか、聖書を独学で勉強できれば、伝道者や説教などいらないとか、信仰さえあれば洗礼など受けなくともよいとか、求道することの様々な理解がありますが、このお話では求道する上での大切な点を取り上げられています。

31節「手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりますか」。36節「ここに水があります。洗礼を受けるのに、何か妨げがあるでしょうか」。

(3) フィリポの派遣

礼拝出席、聖書朗読、御言葉の説き明かし、洗礼が大切な理由は、神ご自身がそれを福音を理解し、それにあずかる最適な手段として用いられることにあります。フィリポを派遣したのは「主の天使」でした。聖書の手引きをするときにも「霊」がフィリポに「あの馬車と一緒にいけ」と指示されます。天使自らが高官に現れるのではなく、また霊が直接語りかけるのではなく、フィリポを遣わし、フィリポの言葉を通して、「イエスについての福音を告げ知らせる」ことが、この高官が「喜びにあふれる」最上の方法だと考えられたからこそ、天使はフィリポを遣わし、馬車に伴わせたのです。

(4) 「だれについて」

最後にこの高官がフィリポにイザヤ書の箇所を説明を求めるときに「だれについて」と問いかけたことも瞑想すべき事柄でしょう。「だれについて、自分についてですか。だれか他の人についてですか」という問いかけは、聖書の言葉を理解するとき、そこに「誰のことなのか」という人格的な関連付けがあったことが分かります。それがイエスのことで、自分でなかったにせよ「自分についてですか」とも問いかけて、聖書の御言葉を読む時、自分をその中に加えて、自分との関連を探っているのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問69
 ウェストミンスター小教理問答 問89, 90

子どもカテキズム

問69 御言葉とは何ですか。

答 生ける神の言葉、イエス・キリストです。書かれた神の御言葉である聖書と、聖霊なる神さまが語られる神の御言葉としての教会の説教を通して、私たちは、イエスさまと一つに結び合わされます。

ウェストミンスター小教理問答

問89 御言葉は、救いのためにどのように有効なものとされますか。

答 神の御霊が、御言葉の明読、またとくに説教を、罪人に罪を自覚させ、回心させ、そして、信仰による救いに至らせ、清さと慰めをもって彼らを建て上げるのに、有効な手段となさいます。

〈特別啓示〉

人間は、罪を犯し墮落して以来、神を知ることができなくなりました。その人間が再び神を知り、神との交わりに生きるために、主なる神御自身が人間に対して御自身をお示しく下さいました。神が御自身のことについて私たちに対して明らかにしてくださること、これを特別啓示と言います。

〈言なる神、イエス・キリスト〉

主なる神は、かつては預言者たちを通して、多くのかたちで、また多くのしかたで語られましたが、いまや神の御子なる主イエス・キリストを通してお語りになりました（ヘブライ1:1-2）。特別啓示は、多くのしかたで与えられましたが、神の御子キリストがその頂点です。

神の御子は、三位一体の第二位格の神であり、言なる神、先在のロゴスとしての神です。「はじめに言があった。言は神と共にあった。言は神であった」（ヨハネ1:1）。この言なる神がへりくだって人となり、私たちのところに来て下さいました（ヨハネ1:14）。主イエス・キリストは、言なる神が肉をとり人となられたお方です。このお方は、私たちの間にあって神を示されました（ヨハネ1:18）。キリストにあって、神の特別啓示が完全に余すところなく私たちに示されました。主イエス・キリストこそ生ける神の御言葉です。

〈特別啓示の文書化、聖書〉

主イエス・キリストが天に挙げられ、聖霊が遣

わされて、聖霊の時代が到来しました。御父と御子の霊である聖霊は、預言者と使徒たちを召し集めて、キリストを証しする言葉を授け、教会を建て上げました。とりわけ、聖霊は、時代を超えて預言者と使徒たちを用いて、福音の言葉を著しました。聖霊の靈感に導かれて、彼らは福音の言葉を書き記し、教会はそれを収集して聖書としました。こうして、聖霊は、キリストを証しする神の御言葉、聖書を教会にお与えくださいました。

聖書は、神の特別啓示の文書化であり、神御自身の御言葉です。聖書はキリストを証しし（ヨハネ5:39）、神の御心を明らかにしています。

〈聖霊の言葉、説教〉

言なる神は、聖霊において、今もなお語っておられます。私たちは、聖霊に照らされて聖書の御言葉に聴くことにより、主イエス・キリストと出会うことが許されています。

それはとりわけ教会の礼拝です。私たちは主日ごとに教会に集められ、霊と真理による礼拝をささげます。そのところで、聖霊の働きによって神の御言葉の説教が語られ、聴かれ、主イエス・キリストとの交わりが与えられます。教会の説教こそが、生ける神の御言葉です。教会の礼拝において、今もなおキリストは語り続けておられます。

こうして、キリストこそ生けるまことの神の御言葉であり、聖書はその文書化、また説教はいま語られる神の御言葉です。

テキスト 使徒言行録8章26節～40節
カテキズム 子どもカテキズム 問69

「生ける神の御言葉」

〔単元のねらい〕

救いの事態、救われている現実の主イエス・キリストとの結合、交わりにある。この救いの御業の主体は、イエス・キリスト御自身である。しかし、今、主イエスは天におられる。どうすればこのお方との結合が実現するのか。思みの手段を通して可能となる。その中でも最大のものは、書かれた神の御言葉である聖書と語られる神の言葉である説教である。子どもたちに、主イエス・キリストとの交わりは御言葉を通して起こる以上、御言葉を慕い求めること、御言葉を読み、聴くことの重要性を悟らせたい。

十二人の使徒たちは、イエスさまを伝えることで忙しくしていました。けれどもそれ以外の教会のいろいろな仕事もあって、とてもとても忙しくしていました。この使徒たちを助けるために、七人の人が選ばれました。その一人にフィリポという立派なキリスト者がいました。

ある日のことです。そのフィリポさんに、天使が神さまの命令を伝えて言いました。「ガザというところに行きなさい。」フィリポさんは大急ぎで出かけて行きました。すると、一人の男の人が馬車に乗って聖書を読んでいるのを見ました。その人はエチオピアの女王さまの一番偉い家来です。その人が、はるばるエルサレムの神殿に詣でて、今、國に帰るところです。聖霊なる神さまは、その様子を見ていたフィリポさんに言いました。「あの馬車を追いかけなさい。」フィリポさんはとても足が強く速いでしょう。馬車で走っているところを駆け足で追いかけてみます。もう必死です。力の限りに走ります。そしてとうとう追いつきました。するとその家来が読んでいるのは、旧約聖書のイザヤ書だと分かりました。フィリポさんは言いました。「読んでいることがお分かりになりますか。」家来は言いました。「手引きをしてくれる人がいなければ、どうして分かりましょう。」そう言って、彼はフィリポさんを馬車に乗せました。

フィリポさんの体は汗でびしょびしょです。額からは汗が噴出しています。でも、ひと息休んでいる間ももったいないと思いました。何故なら、

この人は真剣に聖書を読んで、しかも分からずに困っているからです。どんな聖書の箇所を読んでいたのでしょうか。

「彼は、羊のように屠り場に引かれて行った。毛を刈る者の前で黙している小羊のように、口を開かない。卑しめられて、その裁きも行われなかった。だれが、その子孫について語れるだろう。彼の命は地上から取り去られるからだ。」

皆は、この彼とは誰のことか分かりますか。この人は分かりませんでした。ですからこう質問しました。「この彼というのは、誰のことを言っているのですか。」フィリポさんは、この聖書の箇所の意味を説明しながら、聖書の主人公、一番大切なイエスさまのことを伝えたのです。

今、僕たち私たちが聖書を持っています。聖書が一番伝えたいことって何でしょうか。聖書のなかで一番大切なのは誰のことでしょうか。それはイエスさまのことです。だから、どんなに聖書を読んでも、聖書のお話をしても、イエスさまのことを信じていることができないままでは、本当に聖書を読んだり、聖書のお話を聴いたことにはなりません。聖書は、僕たち私たちにイエスさまを信じさせ、イエスさまと一つに結んで、イエスさまの救いを与え、永遠の命を与える本なのです。

フィリポは、イエスさまのお話を熱心にしました。イエスさまを信じて生きることはどんなことかも教えました。それは、イエスさまを信じる人は、ひとりぼっちではないこと、イエスさまの教

会に生きることに、教会では聖書が読まれ、聖書のお話、説教がなされてイエスさまを礼拝し、神さまを賛美することも教えました。

馬車の中で、時間の経つのも忘れて、二人は聖書を中心にしてお話を聴いたり、お祈りしたりしたのです。そうしているうちに、井戸があるところまで走りました。女王の家来は、言いました。彼は言いました。「フィリポ先生、イエスさまを信じた人は教会の洗礼を受けるのですよね。わたしもイエスさまをキリスト救い主、神さまとして信じます。」こうして、フィリポさんはこの家来に洗礼を施したのです。

僕たち私たちは、日曜学校の礼拝式で聖書が読まれるのを聴きます。聖書からのお話を聴きます。これを説教と言います。説教を聴いて、礼拝式を捧げます。誰を礼拝するのでしょうか。イエスさまですね。礼拝のなかで一番大切なのはイエスさまを礼拝することです。聖書の中で一番大切なことはイエスさまを拝むことです。イエスさまは今生きておられます。生きておられるので、僕たち私たちに話しかけてくださいます。どこからイエスさまは話しかけてくださるでしょうか。天からです。でも、ただ耳を澄ましているだけでは何も聞こえません。イエスさまは、聖書を通して、今、語りかけてくださるのです。教会の礼拝では

聖書のお話、説教が中心でしょう。これまで、礼拝の中で説教しないで終わってしまった日がありましたか。一度もありません。イエスさまは、先生が読む聖書の言葉と語る言葉を通して僕たち私たちに語りかけてくださいます。僕たち私たちは、聖書からいろんなことを学びます。学んだことを忘れてしまってもかまいません。けれどもイエスさまがいつもいっしょにいてくださることに気づくことができなかつたら、礼拝していても悲しいですね。神さま御自身が一番悲しまれます。イエスさまを信じて感謝することができたら、素晴らしい礼拝です。神さまに喜ばれる礼拝式になるのです。

あのイザヤ書に書いてあったことは、イエスさまが僕たち私たちのために十字架についてくださる約束についてでした。十字架についてお聴きくださったイエスさまは、今日も僕たち私たちを愛し続け、守り続けてくださいます。今週もイエスさまと一緒に学校に行ったり、遊んだり、食べたり飲んだり、笑ったり泣いたりします。イエスさまと一緒にいてくださることをいつも信じて喜ぶために、お家に帰ってからも聖書を聞いてください。お祈りしてみてください。必ず心に喜びが戻ってきます。イエスさまと一緒にいて、天のお父さまの子どもとして守られていることが分かるのです。

今週の暗唱聖句

そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの箇所から説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。

使徒言行録 8章 35節

〈ねらい〉

聖書には神様の言葉がいっぱい！ まだ聖書が読めない小さな子供たちが、大きくなったら聖書が読みたいと思えるよう、導く。

を聞いていますね。でも聖書に書いてあることは、難しくて良く分からないよね。だから日曜学校の先生が分かりやすくお話をしてくださいます。今はまだ聖書が読めないけれど、先生の読む聖書と話を静かに聴きましょうね。

〈展開例〉

聖書には何が書いてあるんだろう？ イエス様の言葉がいっぱい書いてあるよ。みんなは聖書を読んだことがありますか？ まだみんなは小さくて、自分で読むことは出来ないかもしれませんが、先生やお父さん、母さんが読んでくれるの

〈いのり〉

天のお父さま、まだ小さい私たちも大きくなったらきっと聖書が読めるようお守りください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

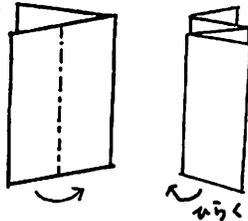
わたしの聖書をつくろう
開くと十字架がとびだすよ！

◆用意する物

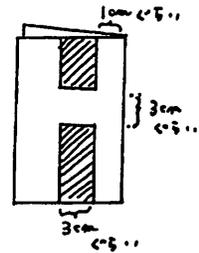
- ・色画用紙（B6が適当）…黄色、黒（他の色でもOK）
- ・はさみ
- ・のり
- ・ペンなど

①色画用紙の黄色を半分にする。

②上の1枚を中心に
向かって谷折りし
折目をつける。
裏も同じ。

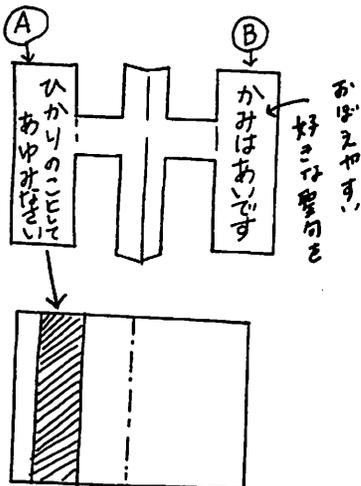


③開くと十字架に
なるように、図の
部分（斜線部分）を切り
取る。

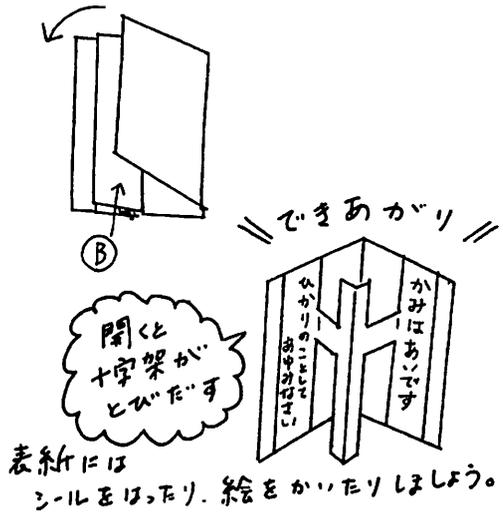


④図のAとBの部分に覚えやすい御言葉を書く。

⑤色画用紙の黒を半分にして、折り線をつける。
黄色Aの裏にのりをつけ、黒の端から1cm
ぐらい空けたところに貼る。



⑥黄色を折り線通りに折りたたみ、Bの裏にのりをつけ、黒画用紙を閉じるようにして貼る。



〈目標〉

イエス・キリストこそ、生ける神の御言葉であり、聖書と説教を通して、イエスさまと一つにさせられることを知る。

〈展開例〉

①導入

世界地図（地球儀）で、エルサレムとエチオピアの位置を確かめる。（エジプトの南）

フィリポと、エチオピア人の宦官の会話のやりとりについて、ペープサートを用いて、簡単に説明する。

イザヤ書53章7章～8章を教師が開いて子供に見せ、教師が朗読する。

②考えてみよう

「手引きしてくれる人」（8：31）とは、教会では誰でしょう？……牧師・日曜学校の教師の説教を通して

聖書は誰について（8：34、35）、何を知らせるために（8：35）書かれていますか？

……イエスさまについて、救いを告げ知らせるため

③適応

礼拝式の式次第を見てみよう。

一、招きのことば……主の天使の派遣

一、聖書朗読……宦官の朗読

一、説教……フィリポの説き明かし

一、聖礼典（洗礼式）…宦官の洗礼

一、祝福・派遣……宦官は喜びにあふれて出発した

☆私たちは、今も、宦官と同じように、神さまを礼拝していますね!!

④お祈り

私たちが礼拝へと招いてくださる神さま、これからも御言葉で私たちを導いてください。アーメン。

〈やってみよう〉

『ペープサート』

○用意するもの

画用紙と割り箸で作った、フィリポとエチオピア人のペープサート

○台本

（主の天使）「南に向かい、エルサレムから、ガザへくだる道に行きなさい」

（ナレーター）そこはさびしい道でした。フィリポはすぐ出かけて行きました。そこで、エチオピアの女王カンダケにつかえる大臣にであいました。この大臣は、エルサレムに礼拝に来て帰るとちゅうでした。彼は、馬車にのってイザヤ書をろうどくしていました。

（聖霊）「おいかけて、あの馬車といっしょに行きなさい」

（ナレーター）フィリポが走りよると、イザヤ書をろうどくしているのが聞こえました。

（フィリポ）「読んでいることが、おわかりになりますか？」

（宦官）「おしえてくれる人がなければどうしてわかりましょう」

（ナレーター）馬車にのって、となりにすわるようにフィリポにたのみました。

（フィリポ）「どうぞおしえてください。だれについて、こういっているのですか？」

（ナレーター）そこで、フィリポは口をひらき、イエスさまのすくいについて、知らせました。

かれらは水のあるところに来ました。

（宦官）「ここに水があります。わたしに洗礼をさずけてください。」

（ナレーター）こうして、大臣はよろこんで帰っていきました。

〈暗唱聖句〉 使徒言行録8章35節

そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの箇所から説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。

〈学びのポイント〉

- (1) 聖書を読むこと
- (2) 説きあかしをきくこと
- (3) イエスが語りかけてくださること

〈説教のおさらい〉

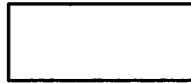
エチオピアの身分の高い人は、イエス様を信じて洗礼をうけた。それは、聖霊なる神様が、聖書とフィリポさんのお話を通して、このエチオピア人に語りかけてくださったから。私たちが、聖書を読み、説教を聞くことは神様が語りかけてくださっていること。熱心に聖書を読み、説教を聞こう。そうすればエチオピア人のように喜びあふれて歩むことができる。

〈やってみよう〉

- 1. 聖書を開きましょう

使徒言行録8章35節

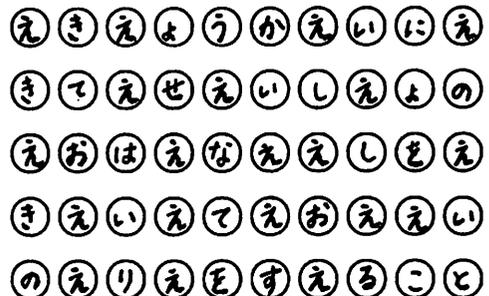
・聖書が一番伝えたいのは誰のことですか？



こたえ：イエス・キリスト

- 2. イエスさまのことをよく知るためにはどうしたらいいですか？

㊦ の文字をぬりつぶしましょう



〈目標〉 御言葉は説き明かしが必要であることを学ぶ。

〈指導上の心得〉 フィリポの再現説教を通して伝道をする。説教は暗記して分級に備えよう。

〈展開例〉

- 1. イザヤ書53章7,8節をみんなで読む。

これだけで誰のことが書いてあるかわかりますか。エチオピアの高官は、フィリポに教えられて何が書いてあるか初めてわかったのです。

- 2. 再現！ フィリポの説教

「先生が今からフィリポの説教を再現してみます。一回しか話しませんからよく聞いてください。一回読んだら、穴埋めプリントを渡す。「正しい言葉を入れてみましょう」。

「これはナザレの人 ① について書いてあるのです。先頃、イスラエルの人たちはイエスを ② につけて殺してしまいましたが、それはこ

の ③ 書であらかじめ示されていたことなのです。あなたは ④ が辱られる前や毛を刈られる前、どんな様子か知っていますか。羊はそんな時でもとっても ⑤ しいのです。主イエスも十字架の上で死刑になる時、その羊のようでした。イエスは何も悪いことはしていないのに、多くの人々に憎まれ、つばをかけられても、殴られても、ばかにされても ⑥ て十字架につけられました。イザヤ書に書かれていることがその ⑦ になったのです。多くの人はいエスが自分がなにか悪いことをしたために十字架につけられてと思っていますが、実はイエスは ⑧ たちの罪のために私たちの ⑨ りに十字架の上で死なれたのです。」
(答：①イエス②十字架③イザヤ④羊⑤おとな⑥だま⑦とおり⑧私⑨かわ)

- 3. 暗唱聖句：聖書はわたしについて証しをするものだ。(ヨハネ5：39)



聖書の読みとり (ヨハネ1:1~18)

「言」ってだれ？ 知っている子は答を言わないで、みんなといっしょに節を追って考えてみよう。ヨハネかな？
 ヨハネは「言」について証をするんだ。「初め」っていつ？ そう、天地創造の時。その時神と共にあり、神であり、万物を造られた方はだれ？
 11、12節あたりでそろそろ答が分るかな？ 14節「肉となる」「宿る」の説明ができる子はいるかしら。「父の独り子」というのはヒントになった？ 17節に正解が出てくる。もし見つけられなかったらそこを生徒に読ませよう。



問69の理解

わたしたちは「生ける神の言イエス・キリスト」を救い主と信じている。天地が造られたのも言により、神様がわたしたちに語りかけるのも言により、救いの約束も神

様から言で語られ、言葉で記録された。救いの約束とその成就が記録された物が聖書。聖書は神様の言。それは聖霊なる神様が働いて著された。

わたしたちは毎週教会で聖書の朗読と説き明かしを聞く。その時にも聖霊なる神様が働いて、御言葉を通して語りかけて下さり、わたしたちの理解も助けて下さる。

言葉について、中学生たちはどれほどの信頼を持っているのだろう。
 携帯の普及で、以前よりは言葉で伝えることが否定的ではなくなっただろうか？
 或いは記号と化したメル文字（意味が分からない人は生徒に聞こう）は、さらに言葉への不信を増加させているだろうか？

月 日「生ける神の御言葉」 中学科

名前 _____

聖書：

問

讃英：

☆「言」は誰？

☆書かれた紙の御言葉とは？

☆語られる神の御言葉とは？

毎日聖書を読もう

日
ヘブライ
13:1-19

月
ヘブライ
13:20-25

火
黙示録
1:1-8

水
黙示録
1:9-20

木
黙示録
2:1-11

金
黙示録
2:12-29

土
黙示録
3:1-13

暗唱聖句

(使徒8:35)

イエスという特別なお客様をマルタとマリアという二人の姉妹がもてなすお話です。おもしろいのは二人が対照的な姿でイエスに接するところです。

すぐ前の話に善いサマリヤ人のたとえ話が載せられています。「何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」という命題をあげていますから、善きサマリヤ人のたとえで律法主義的自己義認の誤りを教え、マルタとマリアのお話から、神を愛し隣人を愛すとはイエスを愛し、御言葉に聴従することで、これこそなくてはならぬただ一つのことである、というのがお話の流れなのでしょう。

(1) マルタの思い悩み

ある村とはベタニヤのことでしょう(ヨハネ11章)。マルタは愛すべきイエスを家に迎え入れ、もてなすために心を使い、「せわしく立ち働きます」。この動機と姿はだれもがよく分かる、私たちの普段の自然な姿です。その忙しさゆえに、足もとに座って何もしない姉妹マリアに苛立ちを感じ、「わたしだけにもてなしをさせている」という思いは誰もが一度は経験したことがあるでしょう。なるほど普段の生活でこの有様では困ってしまいます。しかし、自分の家に迎え入れ、もてなす人物がイエスという方である時には、マルタは思い悩み、必要なことを見失っています。逆にマリアの選択は「良い方」であり、「取り上げてはならない。」ほど大切なことだと言われるのです。マルタの誤りはイエスをもてなすのに「いろいろなもてなし」が「必要なこと」だと思いこんでしまって、肝心の「ただ一つ」のことを見失ってしまったことにあります。

(2) 「マルタ、マルタ」

誤りに陥り、心乱しているマルタに、イエスは「マルタ、マルタ」と名前を繰り返して呼びかけます。この呼びかけはいかにマルタが心乱していたかを物語りますが、同時にマリアに対して取り上げてはならないただ一つのことを与えておられたイエスが、マルタに対しても注ごうとされるイエスの愛情が感じ取れます。

マルタの心はこの時どんな感じだったのでしょうか。「いろいろなもてなし」を考えていたの言うまでもありません。またそれらが「必要」だとも考えていたことでしょう。だから一人で「せわしく立ち働」いていました。さぞ心の中も混乱していたことでしょう。その混乱の中、手伝いもしないマリアの姿に苛立ちを感じていたことでしょう。なぜ「わたしだけ」という思いになり、さらにはイエスに対して「何ともお思いになりませんか」という憤りも感じるようになっていたのでしょうか。「マルタ、マルタ」の呼びかけはそうしたマルタの乱れた心へのものなのです。

(3) 「取り上げてはならない」

マルタの自分で思いこんだ様々な接待必需品に対して、マリアは「良い方」を選び取りました。イエス様の解説では迎え入れもてなす上での「必要なこと」は「ただ一つだけ」です。それは「主の足もとに座って、その話しに聞き入る」ことなのです。そしてこれは「ただ一つだけ」というだけでなく、「取り上げてはならない」、絶対必需品なのだ付け加えて説明されています。「主の足もとに座る」とは弟子となる姿であり、「聞き入る」ことは主の弟子として取り上げてはならない絶対必需品なのだ教えておられるのでしょう。

カテキズム 子どもカテキズム 問70
 ウェストミンスター小教理問答 問89, 90

子どもカテキズム

問70 御言葉とは、どのようにしてあなたに救いの恵みを与えるのですか。

答 私たちが、神の御言葉である聖書と説教に正しく聴き従うことによってです。御言葉をよく聴くことこそ、神さまへの愛と奉仕です。

ウェストミンスター小教理問答

問90 御言葉が救いのために有効なものとなるためには、御言葉はどのように読まれ、また聞かれなければなりませんか。

答 御言葉が救いのために有効なものとなるためには、わたしたちは、熱心と準備と祈りとをもってこれに聞かなければなりません。そして、信仰と愛をもって受け入れ、心のうちに蓄え、生活の中で実践しなければなりません。

〈教会の営みとしての御言葉への聴従〉

今日、個人個人が「聖書」を持っているため、御言葉に親しむことが個人的な行為として理解される傾向にあります。しかも読む行為として理解されます。もちろん個人的に御言葉に親しむことは大切です。しかし、それは共同の礼拝における御言葉への聴従がなされてこそ、意味があります。

聖書は教会に与えられた神の御言葉であり、教会の礼拝において語られ、聴かれるべきです。ですから、教会の礼拝における聖書朗読と説教が重んじられることが大切です。聖書朗読はもちろん、説教とは教会のわざなのです。聖霊なる神の働きによってなされる教会のわざであり、神のみわざです。聖霊により聖書朗読と説教が用いられて、私たちはキリストと一つとされ、キリストの体なる教会へと建て上げられます。

そのため、教会全体でこの御言葉のわざに励むことが大切です。礼拝には、説教を語る者だけでなく、説教を聴く者、聴衆も集められています。説教を語る者だけでなく、聴く者も含めて、群全体が御言葉のわざに熱心を教し、献身しなければなりません。説教についての学びと研鑽に励みます。そうして、説教を教会の言葉として整えるのです。神の御言葉を語るとは、説教者の個人的な務めではなく、教会の務めなのです。

〈説教を整えるために〉

ウ小教理問90は、そのために、具体的にいくつ

かのことを指摘しています。第一には、「熱心と準備と祈りをもって」ということです。熱心に礼拝に出席し、とりわけ御言葉に熱心に耳を傾けます。また何ごとにも備えが必要であり、語る者はもちろん聴く者にも備えが必要です。説教者のために祈り、また聴く者一人一人の心が整えられるよう祈って備えます。また聖書箇所をあらかじめ読み、黙想して礼拝に備えましょう。そのような備えの中でこそ、説教者は励まされ、御言葉の務めを果たすことができるのです。

第二に、「信仰と愛をもって受け入れ」ることです。これは聖霊の働きの中で、ということ。説教者も弱い人間であり、語る言葉はつたなく貧しいかもしれません。しかし、そのところで批判的な姿勢で聴くならば、神の御言葉として聴かれることは起こりません。説教者の貧しい言葉が聴かれるためには、説教者への愛と、その説教者を用いられる神を信頼する信仰が必要です。聖霊による神のみわざを信じるのです。説教者も聴衆を愛し、聴衆も説教者を愛し、神への信仰を持って聴くときにこそ、神の御言葉に力があるのです。

そして、御言葉を心の内に蓄え、生活の中で実践します。聖霊が私たちの内に働いて、御言葉の実りを生み出します。語られた神の御言葉が一人一人の生活の中で実を結んで、御言葉のわざが完成します。神の御言葉はむなしくは終わらないということを確信して、励んで参りましょう。

テキスト ルカによる福音書 10章38節～42節
 カテキズム 子どもカテキズム 問70

「聖書と説教」

〔単元のねらい〕

礼拝説教の奉仕者の、その説教準備のご苦勞を思う。しかし、説教は最大の「恵みの手段」である。もう辞めたいと思うこともあるかもしれない。しかし、そこでこそ、子どもたちにキリストの救いを提供する手段を担う「器」とされた光榮を思い起こしたい。逆に、その緊張感を喪失しかかっている奉仕者がおられれば、絶えざる自己研鑽（共同の研鑽）が求められていることを確認しあいたい。

子どもの礼拝式は、真の礼拝式であり、単なるキリスト教的集会ではない。聖餐こそ祝われぬが、洗礼を受領し、信仰を告白したキリスト者、教会員が集い、聖書の朗読と説教そして、賛美、祈禱がなされる。聖餐を執行しない日の、大人の主日礼拝式と基本的には変わらないプログラムで成り立つ。そうであれば、いささかくどいが、子どものための説教はまさに恵みの手段としての「説教」以外のなものでもない。

奉仕者がこの光榮を自覚するとき、「わたしにはできない」と固辞するのか、「こんなわたしをも子どもの救いと成長のために用いられる」と受けとめて感謝するのか。どうぞ感謝して奉仕を継続していただきたい。

聖書の目的はそのまま説教の目的である。説教はイエス・キリストを紹介することである。説教を聴くことが好きになる子どもが育つならばどんなにすばらしいであろう！そこでは、確実に主イエスに対する愛が燃え始めている。

イエスさまとお弟子さんたちは、毎日毎日、人々に神さまの国の素晴らしさを語っておられます。そんなある日のことです。マルタさんという女の人が、イエスさまたちを自分の家に迎え入れました。マルタさんの家は、皆イエスさまが大好きでした。イエスさまのお働きを助きたい、お手伝いしたい、そんなふうに考えていた家でした。ですから、マルタさんは、喜んでイエスさまやお弟子さんたちを家に招いたのです。彼女は、イエスさまが家に来てくださったので大喜びでお昼ごはんの支度をし始めました。「ああ、嬉しい。イエスさまとお弟子さんたちが来てくれて、ゆっくりと休んで行かれたらいいな。そのために、美味しいお料理、お茶をお出ししなければ。」「トントン、トントン。」調子よく包丁を使っているとき、はっと気がつきました。「あれ、妹のマリアがいないわ。いったいこんなに忙しいときにどこに行ってしまったのかしら。怒れてくるわ！」よく見てみると、なんとマリアさんはイエスさまの足もと

に座って、じっとイエスさまの説教を聴いていました。それを見たマルタさん。イエスさまのところに駆けつけて言いました。「イエスさま、マリアはちっとも手伝わないで、わたしだけにおもてなしをさせています。イエスさま、こんなマリアのことどう思われますか。イエスさまのほうから手伝うように、しかってやってください。そうすれば、マリアも言うことをきくはずです。」マルタさんの顔は紅くなって、怖い顔をしています。

イエスさまは、優しい顔で、しかし、真剣な眼差しでマルタさんをご覧になりました。そして、厳かに仰いました。「愛するマルタさん、あなたは多くのことで思い悩み、心を乱しています。しかし、必要なことは唯一つだけなのです。マリアさんは良いほうを選んだのです。誰もそれをマリアさんから取り上げてはいけません。」

こうおっしゃってから、改めてイエスさまは、説教を真剣に続けられました。マリアさんは、も

ちろん、そのままの姿勢でイエスさまの説教を聴き続けていたのです。

この後、マルタさんはどうしたと思いますか。マルタさんは、ぶいっと怒って家を飛び出したと思いますか。それとも、マルタさんは、しぶしぶと先ほどのお料理を続けたのでしょうか。それとも……。先生はこう確信しています。マルタさんも、イエスさまの言葉をその通りと思って、マリアさんと一緒になって、説教を聴く輪の中に入りました。マルタさんは気がついたのです。「わたしは間違っていました。イエスさまやお弟子さんたちのお食事の世話をきちんとすることが、イエスさまに喜ばれ、大切なことだと考えていました。でも、イエスさまは今、真剣に説教をしておられるのです。それなら、唯一つ大切なのは、このイエスさまのお話を真剣に聴くことでした。それ以外のことをしていたら、イエスさまを愛するなんて思っている、自分勝手な思いでしかなかったのです。」

僕たち私たちは、今、ここで先生のお話を聴いています。聖書からのお話を説教と言います。生きておられる神さまは今ここで、説教を通して僕たち私たちに、先生に御言葉を語りかけてくださいます。その時に、ふざけてお友達とお話することはできますか。愛するイエスさまが今、説教を通して僕たち私たちに真剣に語りかけてくださっているときに、お料理の準備とか何かほかのことをしていられますか。

皆は、イエスさまが善いサマリア人の譬えを語

られたことを覚えていますか。イエスさまを信じる僕たち私たちは、イエスさまの愛に生きるように励まされています。でも、それは自分の力や考えからではできません。ただイエスさまの御言葉を聴くことがなければできません。イエスさまは、御言葉を通して僕たち私たちに何をすることがイエスさまに喜ばれるのかを教えてください。そればかりか、御言葉を聴くことこそ、生きておられるイエスさまとの交わり、イエスさま一つにされるための手段、方法なのです。これは、イエスさま御自身がそのように決めてくださった道なのです。だから、それ以外に、自分勝手にあれこれ、イエスさまに喜ばれることをしているつもりになっても何の意味もありません。御言葉を正しく聴かないで神さまと人とを愛することもできません。

教会は、神さまの御言葉が書かれている聖書と、その聖書から今ここで僕たち私たちに語りかけてくださる方法として先生が今このようにしている説教を、何よりも大切にしてきました。なぜなら、天のお父さま、イエスさまの愛は、御言葉を通して僕たち私たちに届けられるからです。今、僕たち私たちも、マリアさんと同じ恵みを受けています。今、説教が語られているこの場所には、目には見えませんが、イエスさまがおられます。生きておられるイエスさまは今、真剣に僕たち私たちに御言葉を語っておられます。今、真剣に説教を聴いている僕たち私たちは、確かに、イエスさまにとっても喜んでいただいています。

今週の暗唱聖句

しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。

ルカによる福音書10章42節

〈ねらい〉

説教を通して私たちに真剣に語りかけてくださる神様を知り、説教に対して真剣に耳を傾ける大切さを知る。

〈展開例〉

今日は、マルタさんとマリアさんの二人の姉妹のお話だったね。お姉さんはマルタさん、妹がマリアさん。マルタさんはイエス様たちが食べる料理を作るのに一所懸命で、本当に一番大切な、イエス様を愛することを忘れてしまいましたね。

みんなも礼拝の中や分級で先生から神様のお話を聞くよね。そのときはお友達とおしゃべりしたり、おもちゃで遊んだりしないで、神様が、○○ちゃんや□□ちゃん一人一人に話しかけている御言葉を一所懸命聴きましょう。神様は、そんなみんなを見てとっても喜んでくださいます。

〈いのり〉

天のお父さま、いつも私たち一人一人にお話をしてくださりありがとうございます。神様のお話が上手に聞ける耳と心をお与えください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

『糸電話作り』

用意するもの：

紙コップ・糸・つまようじ

作り方：

1. 紙コップに自由に絵を描きましょう。
2. 紙コップの底に穴を開けて糸を通す。
3. 糸がびんと張った状態で話をする。

相手の声を耳を澄ませて聞きましょう。

～神さまからの声に耳を澄ませるように～

〈目標〉

必要なただ一つのことは、礼拝の中で語られる、神の御言葉、聖書と説教を正しく聴くことこそ、神への愛と奉仕であることを知る。

〈展開例〉

①導入

イエスさまが、「明日、〇〇ちゃんの家に行きましょう！」とおっしゃったとしたら、どうお迎えするかな？

今日は、イエスさまがマルタとマリアの家に来てくださった聖書の箇所より、何が大切かをお話していただきました。二人は、それぞれどのようにお迎えしたのでしょうか……？

②考えてみよう

マルタのとった態度は、「必要な」「ただ一つだけ」(10:42)のことだったのかな？

……イエスさまは、神さまのお話をするためにわざわざマルタの家にお出でになりました。

「マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない(10:42)」とイエスさまがおっしゃった、絶対に必要な、ただ一つのことは？

……「主の足もとに座って、その話に聞き入っていた」(10:39)

③適応

聖書の御言葉によって、イエスさまの愛を私たちは知ることができます。(聖書は、ラブレター) 御言葉をきいて、生活の中でそれを行う時に御言葉の説教が完成されるのです。

④お祈り

私達を救うために、命まで捨てて愛して下さったイエスさまのお話を、お友達とふざけたりしないで、一生懸命聞けますように。これから、続けて教会に来ることができて、お友達も誘うことができますように、そしていっしょに神さまのこどもとして大きくなれますように、いつもお助けください。アーメン。

〈やってみよう〉

『教会を作ろう』

○用意するもの

画用紙、厚紙(大きさ自由)、色えんぴつ、クレヨン、ハサミ

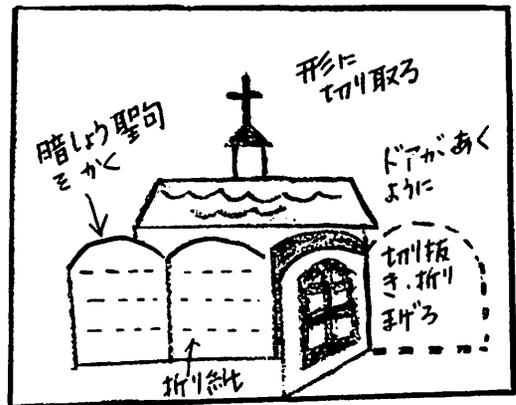
○作り方

①画用紙に好きな形や色の教会を描く。

②ドアの部分に今日の暗唱聖句を書く。

(ルカ10:42)

③教会の周りをハサミで切って、ドアを折り、机の上に立てる。



〈暗唱聖句〉 ルカによる福音書10章42節

しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。

〈学びのポイント〉

- (1) 御言葉を聴くことが最も大切
- (2) 御言葉を聴くことにおいてイエス様と交わる

〈説教のおさらい〉

マルタさんは、自分では正しいことをしているつもりだった。マリヤがじっとイエス様の言葉に耳をかたむけるのを良い奉仕だと思わなかった。私たちもよくマルタさんのように行動してしまう。救いの恵みにあずかる方法は、まず神様の御言葉に耳をかたむけること。

〈やってみよう〉

1. 聖書を開きましょう

ルカによる福音書10章38～42節

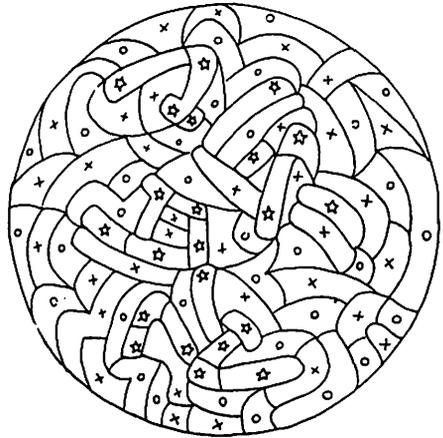
- ・教会へ来てすることは？
- (ア) 友だちとおしゃべりすること
- (イ) 聖書を読んだりお祈りする

・一番大切なことは何？

- (ア) ごちそうを作る
- (イ) イエス様のお話を聞く

2. ☆印をぬりましょう

だれの名前が出てくるかな？



〈目標〉 聴くことの恵みを分かち合う。

〈指導上の心得〉 問3で一度取り上げられた聖書箇所である。問3では最も大切なこととして礼拝が強調された。本單元では御言葉に聴くことが強調される。

〈展開例〉

1. マルタとマリアを比較してみよう。

39～40節より生徒に自由に発言させて、イエスのもてなし方の違いに気づかせる。マリア→聴く。マルタ→食事の準備。

2. 「必要なことは、ただ一つだけ」とは何のことでしょうか。正しいものに○印を。

- A. 食事の用意をする
- B. イエスに文句を言う
- C. イエスの話しを聴く (答：C)

3. ()内に入る言葉を下から選んでください。

(①)を得るために必要なことは(②)であり、それは(③)を(④)である。

- A. いろいろなもてなし
- B. 御言葉
- C. 一つだけ
- D. 永遠のいのち
- E. 弟子
- F. 地位や名声
- G. 聴くこと
- H. 食べもの
- I. 遊ぶこと

(答：①D、②C、③B、④G)

4. どんな漢字ができるかな。

耳+目+心+十字架=()く (答：聴)

5. 「みことばに耳を傾ける」とどうなるか、みんなで考えてみよう。

教師の証でもいいし、デポジションの重要性を伝えてもよい。生きた御言葉(神の言葉)は永遠に滅びない。神様と向かい合うこと、御言葉から力を与えられ、慰められ、インマヌエルの恵みを感じることを生徒達と共に共有したい。



問70の理解

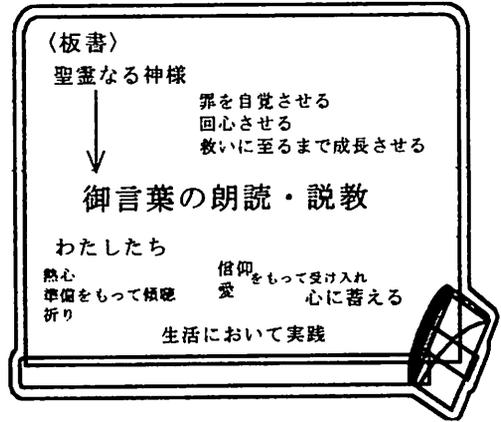
聖霊なる神様の働きにより、御言葉の朗読と説教は、罪人に罪を自覚させ、回心させ、信仰によって救いに至るまで、きよめと慰めのうちに成長させて下さる（ウ小教理89）。

また、わたしたちは、熱心と準備と祈りをもって御言葉に聞き、信仰と愛をもって受け入れ、心にたくわえ、生活において実践しなければならぬ（ウ小教理90）。

詩篇19編を歌い、テモテニ3：14～17や使徒20：32を暗唱したい。

家で聖書を読んでいる？ 家族で？ 一人で？ 友達同士で読んでもいいよね。

毎日聖書を読むのが大好きで大好きで、毎週説教を聞くのが何よりも何よりも楽しみ。そんな幸せを語り合えたらいいね。



話し合おう

礼拝で聖書朗読や説教をちゃんと聞いてる？ 聞いていて分る？ 分らなかつたら質問できる？ 分ったことをメモできる？

月 日「聖書と説教」 中学科
名前

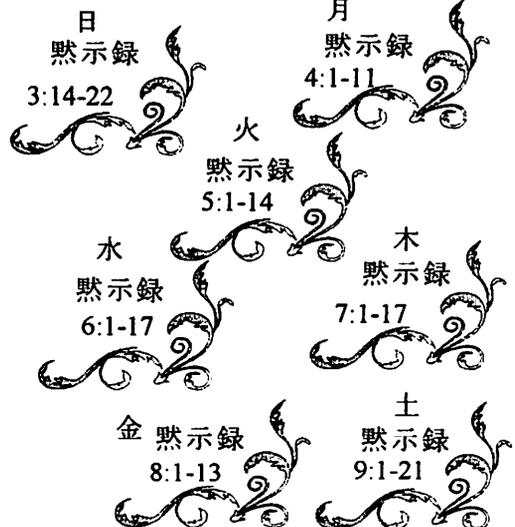
聖書：

問

讚美：

☆御言葉はどのようにしてあなたに救いの恵みを与えるのですか？

毎日聖書を読もう



暗唱聖句

(ルカ10：42)

24章13節から、エマオ途上での復活の主イエスとの出会いが語られる御言葉です。特にここでは礼典を覚えて、その物語の後半が聖書箇所となっています。

エマオ途上に復活の主イエスが「近づいて来て、一緒に歩き始められる」のですが、そのお方が主イエスであるとは、二人の弟子はまったくわかりません。イエスご自身も旅の途上教えを語りはしますが、ご自分の身をあかすことをされません。お話は終始、イエスから身をあかすことなしにすすめられ、最後の食事の席で初めて弟子ほうからイエスだと気づくことで閉じられます。ですからこのお話は復活の主イエスを見るができない真の理由はイエスの側にではなく、私たちの心と目にあることを教えておられるのでしょう。

(1) エマオ途上の弟子たち

二人の弟子は「一切の出来事」について話し合っていますし、途中から加わったイエスに「ここ数日で起こったことをご存じなかったのか」とも言っていますから、「出来事」はよく理解していました。またイエスのことについても「行いと言葉」の力を目撃していましたし、「望み」も持っていました。ですから一緒に歩き始めた復活の主イエスを見るができなかったのは、「心が鈍く」「目は遮られて」いたせいなのです。「一切の出来事」を知りながらもその意味を理解しようとせず、「望み」を持ちながらも「預言者でした」と

言うばかりで、それ以上省みようとしません。鈍く遮られているとはこうした心の動きを表現しているのでしょう。

(2) 「その姿が見えなくなった」

聖書全体の説き明かしを受けた弟子たちは、「心は燃えていた」状態に回復します。そこから索性のわからないこの人物を「無理に引き止め」たのでしょう。食事の席でのパン裂きと賛美の祈りにおいて「目が開け、イエスだと分かった」のです。しかしルカはその直後「その姿が見えなくなった」と記します。出来事の流れからすると、最初旅の途上では目でその姿が確認できたが、心ではイエスだとわからなかったのです。しかし、最後食事の席を通して、心底から聖書の御言葉とイエスを理解できるようになったけれども、目では確認できなくなったということでしょう。また目で確認する必要もなくなったのです。その後の二人の会話を見ると、姿が見えなくなったとはいえ、決して暗くなったり、寂しさを感じたりせず、むしろ「燃えていた」と語り合い、「時を移さずして出発」しているぐらいですから、目で姿を確認する以上に弟子たちはイエスを見ていたし、その姿をとらえていたのだということがわかります。

聖書の御言葉と礼典の食事の中でイエスに望みを持ち続けることこそ、真の意味で復活の主と共にいる喜びを味わう秘訣なのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問71
 ウェストミンスター小教理問答 問91～93

子どもカテキズム

問71 礼典とは何ですか。

答 洗礼と聖餐です。神さまは、聖霊のお働きによって、目に見えるものを用いて、私たちをイエスさまと一つに結び合わせ、教会の枝としてくださるのです。キリストの祝福のすべてを受けていることを表し、保証し、しるしづける、目に見える御言葉です。

ウェストミンスター小教理問答

問92 礼典とは、何ですか。

答 礼典とは、キリストが制定された清い規定です。そこでは、感知できるしるしによって、キリストと新しい契約の恩恵とが、信者たちに提示され、印証され、当てはめられます。

〈目に見える御言葉〉

礼典は、主イエス・キリスト御自身が制定された規定であり、儀式です。礼典と翻訳されているもとの言葉は、「奥義」という意味の言葉です。この儀式は、福音の奥義を目に見えるものや感覚的なしるしで表すということなのです。

語られる御言葉によって、主イエス・キリストにある恵みの契約の祝福が明らかにされていますが、御言葉とは目に見えず、耳で聞くものです。それに対して、礼典は「目に見える御言葉」と言われ、キリストにある恵みの契約の祝福を目に見えるものや感覚的なしるしで表しています。この礼典により、私たちは、耳で聞くばかりでなく、恵みの契約の祝福を目で見、口で味わい、感覚的なしるしによって確かならしめられるのです。

〈聖霊の働きのしるし〉

ここで表されている福音の奥義とは、キリストにある恵みの契約の祝福であり、キリストと結び合わせられて与えられる祝福です。キリストと一つにされて注がれる祝福です。これは、聖霊によって私たちに与えられる恵みにほかなりません。ですから、礼典とは、目に見えない聖霊の働きを目に見えるかたちで表している、と言うことができます。礼典の本質は、聖霊の働きにあります。

キリストの恵みの契約は、御言葉と礼典と祈りによって私たちのものとされますが、これらはいずれも聖霊が用いられる手段です。聖霊は、御言葉を用いて私たちの心に働いて、私たちの心の内

に主を信じる信仰を与え、罪の汚れをきよめて、新しい人として生まれ変わらせます。礼典の場合には、信仰を生み出す働きではなく、その信仰を強め、確かならしめる働きをします。

〈信仰を強める働き〉

主イエス・キリストは礼典として二つの儀式を教会に与えられました。洗礼と聖餐です。

聖霊は、これらの礼典を用いて、私たちが新しい人とされていることを表し、保証し、しるしづけます。似たような言葉が重ねられていますが、一つには、洗礼と聖餐の礼典は、私たちがキリストと一つにされ、キリストの枝とされていることを表しています。洗礼を受けていることを思い起こし、また聖餐にあずかるたびに、キリストのものとされている自覚と確信を深めるのです。また、礼典にあずかる幸いは、永遠の恵みの契約に入れられている保証です。私たちは、今はまだ罪を繰り返す愚かな身ではありますが、キリストの再臨の日に新しい人として完成され、御国に入れられることを確信することが許されています。こうして、礼典とは、私たちがキリストのもの、神のものとしてされていることのしるしなのです。

礼典は、聖霊の御業ですから、聖霊の働きを信じる信仰をもってあずからなければなりません。そのため、主イエス・キリストを信じて、自らの口で信仰を言い表すことが許された者のみの特権です（幼児洗礼の場合は異なる）。この幸いに早くあずかることができるよう、祈りましょう。

テキスト ルカによる福音書24章28節～35節
 カテキズム 子どもカテキズム 問71

「礼典」

(単元のねらい)

日曜学校の礼拝式では、聖礼典は執行されない。地域の子らは、洗礼にも聖餐にも何の現実感も持ち合わせていない。この教えを日曜学校でどのように取り扱うのか。各日曜学校の状況によって異なるであろう。その意味では、カテキズムの日曜学校での取り扱いの中で最も難しい課題の一つをここで取り扱うこととなろう。しかし、契約の子は洗礼と聖餐を見ているし、彼らにはきちんと教えておかねばならない。これによって、信仰告白と聖餐受領への憧れを抱かせてあげたいのである。

礼拝説教においては、エマオの村への帰途、復活の主イエスに出会う弟子たちの物語を物語ることによって、復活者イエスが、今も目に見えないけれども共に歩いてくださることを教えたい。そのことを何としても、悟らせたいと願っておられるのは、聖礼典を制定された主イエス・キリストにほかならないことを信じて、説教したい。その主イエスの熱愛を頂いて、地域の子らが、日曜学校から離れることなく、教会の交わりの中で育てられるために全力を注ぎたい。

さて、今、二人のお弟子さんがエマオという村に向かって歩いています。二人の顔つきは暗くて、それはそれは悲しげです。二人はこんな風に話し合いながらとぼとぼ歩いていました。「ああイエスさまは本当に殺されてしまったね。誰も助けることは出来なかった。神さまもイエスさまをお助けにはならなかった……。これから僕たちはどうやって生きてゆけばよいのだろうか。」するとどうでしょう。そんな二人に復活されたイエスさまが近づいて来てくださったのです。そればかりか、イエスさまはこの二人と一緒に歩き始めて、イエスさま御自身のことについて話をしはじめました。

皆はこのお話をどう思いますか。とても不思議に思いませんか。イエスさまと一緒に歩いているのに、その人がイエスさまだとこのお弟子さんたちは気がついていないのです。先生も不思議だだと思います。けれども、よく読んでいるうちに先生は反省しました。先生はいつも、イエスさまと一緒にいてくださると聖書の中のイエスさまの約束を信じていますし、だから、皆にもお話しています。でも、いつもいつもイエスさまと一緒にいてくださるのに、時々忘れてしまったり、居てくださらないのかなと疑ったりすることがあるので

す。信じていながら、イエスさまと一緒にいたら決してできないような行いをしたり、言ったりしてしまいます。とても悲しいことです。だから、「この二人のお弟子さんは何で気がつかなかったのかな、ダメなお弟子さんだな」と、他人事のように考えられないのです。皆はどうでしょうか。

さあ、そんな僕たち私たちや二人のお弟子さんに、イエスさまは何をなさるのでしょうか。イエスさまは聖書をお語りくださいます。聖書はどなたのことが中心に書かれているのですか。イエスさまでした。ですから、ここでイエスさまは聖書を開いて、聖書の全体から、イエスさま御自身のことをお話くださったのです。

このお話を聞いた二人は心が温かくなるのを感じました。なぜなら、大好きなイエスさまのお話です。イエスさまが十字架につけられて復活するお話です。イエスさまこそが神さまの御子で、救い主だというお話です。だから、もっともっと聞いていたいと思いました。そこで二人は、イエスさまを引き止めて、もっともっとお話してくださいとお願いしました。そうして、三人はその日一緒に家に泊まることになりました。夕食の時間になりました。イエスさまは、パンをとって、神さま

を賛美するお祈りを捧げ、そのパンを裂いてお弟子さんたちに配りました。ちょうどその時です。二人の信仰の目が開かれました。遂に分かったのです。目の前におられるのはイエスさまだと。

するとまた不思議なことが起こりました。信仰の目が開いたときに、今まで見ていたイエスさまのお姿は見えなくなりましたのです。みんなはどう思いますか。「エーッ、折角イエスさまと一緒にいられることが分かったのに、見えなくなったら意味ないよ。」そんな風に考えるお友達もいるかもしれませんね。でも、先生は信じます。このお弟子さんたちは、イエスさまのお姿が見えなくなっても、これからはもう、イエスさまがいつも一緒にいてくださることを信じるができるようになったのです。もうこの目の前にイエスさまのお姿が映らなくても、目には見えないイエスさまは、信じる自分たちと一緒にいてくださるのだと気づいたのです。

さあ、そのような信仰をあたえるために、イエスさまがしてくださったことは何でしたか。「患み的手段」ってカテキズムで覚えました。イエスさまはあの二人のお弟子さんたちに聖書の説教をしてくださいました。でも、それだけではなくパンを裂いてくださいました。これはどういうことなのでしょう。前に、一番最初の教会は、皆で

集まって聖書のお話を聴いて、パンを裂いていたと学んだのを覚えているかな。このパンを裂くというのは、教会が大人の礼拝式で行なっている聖餐の礼典のことなのです。イエスさまは、説教だけではなく、この聖餐の礼典を教会に与えてくださいました。聖餐の礼典をお祝いする教会は、この目には見えず、この手では触れず、この耳には聞こえないイエスさまのお姿を見ることができるのです。聖餐には、そのような不思議な力が聖霊によって与えられているのです。この聖餐は、来週学ぶ、洗礼を受けた人だけがあずかれるのです。

先生は、洗礼を受け、毎月の第一の日曜日に聖餐にあずかっています。本当に感謝です。どうぞ皆も、これから、説教を聴くだけでなく、洗礼を受けてこの聖餐の祝福にもあずかってほしいのです。そして、先生と同じように、この聖餐の恵みを受けることによって、イエスさまと一緒にいてくださることをますます信じるができるように、そしてイエスさまのために喜んで働けるようになって欲しいのです。

今日の皆の帰り道、この礼拝式にいてくださるイエスさまと一緒に歩いて帰ってくださいます。そのことを、感謝しましょう。心から信じましょう。帰り道だけではなく、一週間ずっと一緒にいてくださることを信じるができるように、今、お祈りを捧げましょう。

今週の暗唱聖句

一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。

ルカによる福音書24章30節

〈ねらい〉

イエス様は今目に見えないが、本当に私たちの近くにおいて、私たちを見守ってくださることを教えたい。

〈展開例〉

みんなイエス様って知ってるよね！ でもイエス様に会ったことがある人はいるかな？ いないよね。先生も会ったことはありません。

じゃあイエス様はいないのかな。

ある人が夢を見ました。夢の中でその人はいつもイエス様と一緒に歩いていました。ある時その人が横を見るとイエス様の足跡がない！ イエス様がどこかへ行っちゃったと思い、とても悲しくなりました。でも後でイエス様に聞いてみるとイエス様はこう言いました。「あの時あなたはと

ても疲れていましたから、私はあなたをおんぶして歩いていました。だから隣に私の足跡がなかったのですよ。」その人はとてもびっくりしました。

そうです。目には見えませんが、イエス様は僕たち私たちの近くにもいつもいてくださり、見守ってくださいます。

大人の礼拝では聖餐式というものがあって、いつもイエス様のことを忘れないようにするためにを行っています。僕たち私たちもいつもイエス様のことを忘れないでいましょう。

〈いのり〉

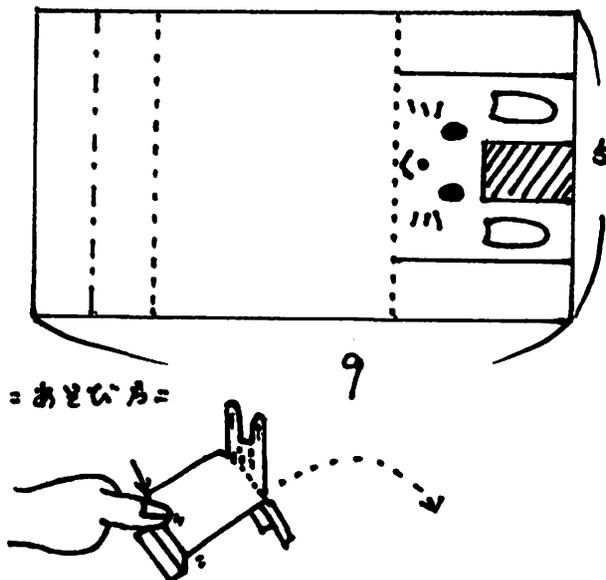
イエス様、いつも僕（私）のそばにいてくれてありがとうございます。僕（私）もイエス様のことをいつも忘れないようにします。このお祈りをイエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

『びよんびよんウサギを作ろう』

用意するもの：画用紙・色鉛筆

作り方：9×5 cmの画用紙に、図のような切込みや折れ線をつけてウサギの形を作ります。ウサギのお尻を、指を滑らせながら、はじくように紙を押下げるとよく跳びます。



〈目標〉

礼典（洗礼と聖餐）を通して、祝福が注がれる。祝福とは、イエスさまが私たちと一緒におられること、生きておられることである。そして、すべての人がこの祝福へと招かれていることを知る。

〈展開例〉

①導入

今日のお話の中で、エマオの村へ帰って行く途中で弟子達は、イエスさまに出会いましたが、初めは誰だかわからなかったよね。あんなに大好きだったイエスさまのことがわからないなんて、とても不思議だね。それはどうしてだったのでしょうか。

②考えてみよう

エマオの村へ帰っていく途中、弟子たちはどんな様子でしたか？

……とても悲しくてうつむいていた。

その時、弟子たちは、誰に会いましたか？

……イエスさま

弟子たちは、初めはイエスさまが誰だかわかりませんでした。何をしたらイエスさまだとわか

りましたか？

……イエスさまがパンを裂いた時

パンを裂くことは、大人の礼拝式でも行います。このことを何と言いますか？

……聖餐

③適応

いつも私たちと一緒にいてくださるイエスさまですが、私たちの心が悲しみでいっぱいだったり、自分のことで頭がいっぱいで、イエスさまと一緒にいてくださることを忘れてしまったり、「一緒にいてくださるといのは本当かな？」ってうたがってしまったことがありますか？ そういう時は、一言、「イエスさま……」とお呼びしてください。それは、りっぱなお祈りです。イエスさまは、みんなのお祈りを心待ちにしています。

④お祈り

愛するイエスさま、いつも僕たち・私たちと共にいてくださってありがとうございます。今は、まだ聖餐にあずかっていないけれども、イエスさまを信じることができ、洗礼を受けて、聖餐にあずかることができるようにイエスさまが導いてください。アーメン。

〈やってみよう〉

『パンを作ろう』

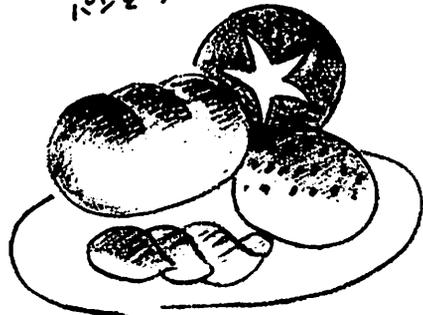
○用意するもの

紙皿、紙粘土、マジックなど

○作り方

- ①「いつもともにいてくださるイエスさま」と、紙皿にマジックで書く。
- ②紙粘土で好きなパンを作り、紙皿にのせる。
- ③乾いたら、色を塗ったり、ニス塗ったりしてもよい。

オイシイな
パンをつくすネ!



〈暗唱聖句〉 ルカによる福音書24章31節

すると、二人の目が開け、イエスだと分かった……。

〈学びのポイント〉

- (1) 礼典もキリストが定められた
- (2) 心の目を開いてくださる
- (3) キリストは、洗礼や聖さん式により、私たちのもとへ来られる

〈説教のおさらい〉

エマオへの道で、失望と悲しみの中にいる弟子たちに、イエスは自分が生きていることを示された。キリストを目でみるできない現在の私たちにも、聖礼典を通して恵みをくださる。まだ救い主を知らない時からすでに私を知ってくださり、私たちの心の目（信仰の目）を開いてくださる。聖さん式を見ての子どもたちの感想を聞いてみる。

〈やってみよう〉

聖書を開きましょう

ルカによる福音書24章30, 31節

- ①一緒に食事の席についたとき [] は [] を取り、賛美の [] をとなえ [] をさいてお渡しになった。すると二人の [] が開け [] だとわかったが、その姿は [] 。
- ②弟子たちと一緒に食事の席についたのは、だれだったでしょう []
- ③私たちの心の目（信仰の目）を開いてくださる方は？ []
- ④目には見えないけれど共に歩んでくださる方は？ []

〈目標〉 見えなくても信じ続けることができる恵みとして礼典を紹介する。

〈指導上の心得〉 聖書箇所に基づき聖餐を中心に展開した。詳しくは次回以降学ぶので、今回は礼典の基本的な恵みを強調した。

〈展開例〉

〔Q1〕二人の弟子はなぜ近づいて来た人がイエスだとわからなかったのでしょうか。聖書はなんと説明していますか。

しかし、二人の①は②られていて、イエスだとわからなかった。（答：①目、②さえぎ）
〔Q2〕「目がさえぎられていた」とはどういうことでしょうか。

A. 何も見えなかった B. 見えていたのにわからないようにされていた C. イエスさまに目隠しをされた（答：B）

〔Q3〕イエスさまが食事の席で何をされたら、弟

子たちは見えるようにされましたか。

A. パンを裂いて二人に渡した時 B. 改めて自己紹介をした時 C. パンを食べた時（答：A）
〔Q4〕二人がイエスさまだとわかった時、イエスさまはどうしてお姿を隠されてしまったのでしょうか。

お姿が①見えなくても、私たちがイエスさまを信じ続けることができるように、②と③の礼典を与えたことを示すため。（答：①見、②パン、③ぶどう酒）

〔Q5〕（パン・ぶどうジュース・水を用意して）これは礼典に使われるものです。次回から洗礼と聖餐式について詳しく学びますが、それぞれの意味することを覚えてください。

パン＝イエスさまの体、ぶどう酒＝イエスさまの血、水＝罪の洗い

〔暗唱聖句〕 ヨハネ20：29c



話し合おう

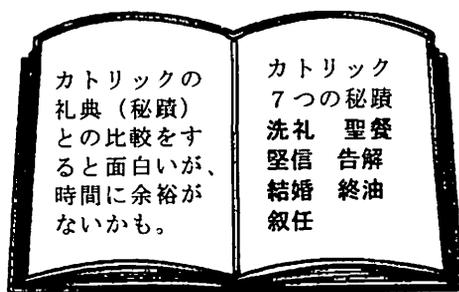
「礼典」って何？ 「洗礼」「聖餐」って知っている？ 見たことがある？ 本で読んだり映画で見たりしたことある？ 体験したことある？ いつあるか知っている？ どんなだった？ 説明できる？



問71の理解

礼典にはどんな意味があるの？
見える触れる味わえる匂いがする音がする、五感を使って感知することができる。感覚に訴えて理解させる。「見える御言葉」という。旧約では儀式律法が「見える御言葉」であった。
感覚（五感）を通して何が分ると思う？ 旧約では儀式律法を通して、罪の価は死であることが徹底的に教えられ、贖いの意味（罪を犯すことによって動物の血が流されること）が体得された。新約の礼典では「キリストとの新しい契約の祝福」

を繰り返して体得する。具体的には洗礼・聖餐それぞれの項で詳しく取り上げるので、乞うご期待。
「礼典とは、キリストが制定されたきよい規定」（ウ小教理92）であることは、必ずチェック。また、礼典そのものや礼典執行者に力があって思みの手段として有効になるのではないことも要チェック。ただキリストの祝福と聖霊なる神様のお働きによる。



月 日 「礼典」

中学科

名前 _____

聖書：

問

讚美：

☆礼典とは？

☆見える御言葉とは？

☆分ることは何？

毎日聖書を読もう

日 黙示録 10:1-11

月 黙示録 11:1-19

火 黙示録 12:1-18

木 黙示録 4:7-21

水 黙示録 13:1-18

金 黙示録 14:1-13

土 黙示録 14:14 -15:8

暗唱聖句

(ルカ24:30)

この箇所はパウロ投獄に関する事件を通して、信仰を持つに至った出来事が記されている箇所です。

(1) 占いの霊にとりつかれた女奴隷

パウロたちはユダヤ人の祈りの場に行く途中、占いの霊にとりつかれた女奴隷に出会います。占いの霊にとりつかれたといわれているように、占いは悪霊のわざとして描かれています。悪霊による彼女の占いは当時のマケドニアの人々から彼らの神の神託であると思われていたようであり、占ってもらった者たちは、そのありがたい言葉の報酬を女奴隷の所有者に与えていたようです。

彼女にとりついた悪霊は、彼女を用いて宣教の妨げのためにパウロたちの後をつけ回させ、叫ばせました(17)。その叫びに何日も耐えたパウロであったのですが、彼は彼女からその霊を追い出します。そのことによって、彼女は、奴隷であることには変わりはありませんが、霊的な自由が与えられたのです。

(2) 訴えられ投獄される

女奴隷から占いの霊を追い出され、もうけの手だてを奪われた主人はパウロたちを公に訴えます。この訴えは、当時の法にのっとって裁判の手続きがなされたものと思われます。しかし、このところで、パウロとシラスがローマ市民であるとの確認がなされておらず、ローマ市民としての権利を行使する機会が与えられませんでした。彼らはローマ市民以外の者を裁くのと同じ方法により、十分な裁判もなされずに打ち打たれ投獄されてしまうのです。

(3) 地震と看守の悔い改め

この箇所の中心的な出来事が記されます。

パウロたちが牢の中で神に祈り、賛美をしてい

る情景が描かれます。このような逆境の中にあっても、信仰者は静かに神に祈り、神に賛美を捧げることができるのです。

そのようなときに、大地震が起こったことが記されています。その大地震により、鎖が外れ、牢屋の扉も開き、捕らえられている人々は脱獄する機会を得ました。看守は地震により脱獄者が出たと思ひこみ死のうとします。しかし、このとき誰一人として逃げ出す者はありませんでした。その事実に触れたとき、看守のなかに神に対する恐れが生じるのです。その神への恐れのために、彼は使徒たちの前にひれ伏し、死から生へと移された彼は、救われるために何をなすべきかを問います。

パウロたちは主イエスを信じ洗礼を受けるべきことを教えます。その道以外に救いは存在しないのです。その名によって与えられる救いは真の自由であり、この看守をはじめとする家族すべての者に与えられる、喜びとして示されています。

看守とその家族は主イエスを信じ洗礼を受け喜びの食卓に着きます。回心と救いの確かさの中にある食事、それはある意味においては聖餐の交わりとも理解できるものです。聖餐の交わりの中に入れられ、神の家族とされたことは大きな喜びです。

この後パウロたちの釈放の出来事が記されていますが、彼らの信頼が回復される仕方でも釈放されたことにも神のお導きを見ることができます。

(4) まとめ

この箇所で示されることの一つは看守の回心と洗礼であり、洗礼の喜びです。この回心の中心にあるのは、人間の業ではなく、あの看守に働かれたキリストの人格そのものです。キリストに捕らえられキリストに導かれるからこそ回心は喜びとなります。

カテキズム 子どもカテキズム 問72,73
ウェストミンスター小教理問答 問94,95

子どもカテキズム

問72 洗礼とは何ですか。

答 父・子・聖霊なる神さまの御名によって、教会の信仰を自分の信仰として告白した人に、水を用いて、イエスさまと共に十字架に死に、イエスさまと共に復活して、新しい人として生きるようにする礼典です。こうして、私たちは教会員とされます。

問73 赤ちゃんにも洗礼を施すのですか。

答 はい。キリスト者の子どもは、恵みの契約によって、教会の中に入れられていますから、洗礼を施します。そのほかには、信仰を告白して、教会に許された人でなければ、洗礼を施してはなりません。

〈洗礼の本質〉

礼典は、恵みの契約の祝福を感動的なしるしで表す儀式です。聖霊が、礼典を用い、目に見えるものを用いて、私たちの信仰を強めます。

洗礼は、その礼典の一つです。主イエス・キリストが、「彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け」（マタイ28:19）るよう命じられたことに基づいています。

洗礼は、目に見えるものとして水を用います。具体的には、司式者（授洗者）が手を水に浸し、受洗者の頭に手で水を注いで、「父と子と聖霊の御名によって洗礼を授ける。アーメン」と宣言します。これは、水の洗いを意味しています。すなわち、私たちの肉体の汚れが水によって洗われるように、聖霊によりキリストと結び合わせられて、私たちの罪の汚れが洗い清められるということを表します。また、「父と子と聖霊の名によって」洗礼が授けられますが、これも「父・子・聖霊」の三位一体の神の御前に立たせられ、神と結び合わせられるということの意味しています。

ですから、洗礼とは、聖霊によってキリストと結び合わせられることとしるしです。キリストに接ぎ木されるとか、キリストの教会の枝とされるなどと表現されます。

〈新しい命への復活〉

主イエス・キリストは、十字架において私たちの罪を担って死んでくださり、罪と死に打ち勝たれてよみがえられました。私たちは、このキリス

トと一つにされます。ですから、洗礼とは、キリストと共に罪に死に、キリストと共に新しい命によみがえらされたということでもあります。洗礼は、私たちが聖霊によって新しく生まれたこととしるしです。そして、終わりの日に完成されて、神の御国に入れられる保証でもあります。

〈契約信仰と幼児洗礼（小児洗礼）〉

洗礼は、主イエス・キリストを信じる信仰を告白して、教会に加わることを誓約した者に施されます。洗礼には、本人の悔い改めと自覚的な信仰告白が必要とされます。

しかし、信仰を告白し、誓約するということは神の恵みであり、聖霊の賜物です。悔い改めと信仰さえ、決して私たちのわざではなく、神のみわざです。信仰を告白して、洗礼を受けるとは、恵みの契約に入れられたということなのです。

そして、親が恵みの契約に入れられているならば、その子どもたちも同じ恵みの契約に入れられています。聖書には、家族として洗礼を受けた実例があります。割礼も示すように、旧約・新約を貫いて、家族として契約に入れられるのです。親が契約に入れられて神の民とされたならば、子どもも契約の子とされ、神の民とされています。ですから、私たちの教会では、洗礼を受けている親の子どもにも洗礼を授けます（幼児洗礼）。幼児洗礼は、神の恩寵を端的に表すしるしなのです。そして、親と教会は子どもたちに神の御言葉を教え、悔い改めと信仰へと導かなければなりません。

テキスト 使徒言行録16章16節～34節
カテキズム 子どもカテキズム 問72,73

「洗礼」

〔単元のねらい〕

日曜学校で洗礼の礼典を学ぶ。前回記したように、各日曜学校あるいは分級の状況によって、取り扱いとは異なることとなろう。しかし、そこでも、我々が幼児洗礼を施す教会であることの自己理解を深めて子らに臨むことが大切である。契約の子らには、幼児（小児）洗礼を受けた者、契約の子であるとの自己理解を深めさせたい。その祝福と責任を覚えさせたい。地域の子らには、洗礼受領への憧れを聖霊によって呼び覚ましていただくように祈りたい。我々の奉仕は、空を打つような拳闘ではなく、信仰を告白する喜びを指し示し、それへの渴きを毎週の礼拝式、分級で呼び覚まされるように祈り励む。

説教において、看守の家族の救いの物語を物語る。その物語を通して現われ出る神の救いの御業を心から賛美し、パウロと同じように、「主イエスを信じなさい」との勧めをする。

これは、パウロ先生が伝道したときのお話です。悪霊に取り付かれて占いをしていた女の人がいました。その人は、パウロたちを追いかけて、「この人たちはとても尊い神の僕です。みなさんに救いの道をのべ伝えていきます」と言い続けました。悪霊に取り付かれているこの人を見た、パウロ先生は、その女性を縛り付けていた悪霊を追い出しました。ところが、その「占い師」を雇っていた人は、かんかんに怒りました。折角、よく当たるということで評判の占い師がもう、占いができなくなってしまうからです。

そして、パウロ先生と、一緒に伝道していたシラスを捕らえてしまいました。ローマの国のお役人は、皆が見ている前で二人を鞭で打って、遂に牢屋に入れてしまったのです。二人は、一番奥の牢屋に入れられ、足には逃げられないように木でつくった枷をはめられてしまいました。

それは真夜中でした。パウロとシラスは真っ暗な牢屋の中で、神さまを賛美する賛美歌を歌っていました。他の囚人達はびっくりしていました。何故なら、牢屋に入れられて神さまに感謝したり、神さまを賛美したりする人など見たことも聞いたこともなかったからです。そして、この二人の歌う賛美歌を生まれて初めて聴いていた囚人達は、素晴らしい歌だなと思って、聞き入っていました。とちょうどその時。大地震が起こりました。

なんと牢の扉が開き、囚人達の足かせもほどけてしまったのです。目を覚まして駆けつけてきた看守はびっくりしました。牢の戸が開いていしまっていたからです。それを見て、「ああ、もう終わりだ。皆、逃げ出してしまった。これがローマの国の偉い人たちに知られたら、どんなにひどい目に遭うことだろう。もう、死んでしまったほうがまだ。ここで自殺したら、それで許してくれるかもしれない。」そして、持っていた剣を抜きました。その時です。「死んではいけない！ 私たちは逃げしていない。全員牢の中にいる！」パウロは大声で牢の中から叫びました。またまたびっくりした看守は、明かりを持って中に入って行きます。すると、本当に囚人達は逃げ出していなかったのです。

これらの一部始終を見ていた看守は、パウロとシラスを牢の外に出しました。「この人たちは悪い人などではない。この人たちこそ、本当に神さまを信じている人だ。しかもその神さまは本当の神さまに違いない。」ですから、この二人の前にひれ伏して言いました。「先生たち、どうしたら皆さんのようになれるのですか。真っ暗闇の牢屋に入れられても怖がったり、心配なさったり、神さまに不平を言ったりなさいませんでした。むしろ神さまを賛美し、感謝し、しかもこの私のことを敵のように思わずに優しくしてくださるなんて。

これは普通ではありません。本当に神さまが先生たちと一緒におられることが分かります。どうしたら、わたしもそのようになれるか。どうしたら救われることができるのでしょうか。」

二人は声を揃えて言いました。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」二人は、看守の家族の人たちにもイエスさまの言葉を語りました。真夜中のことです。でも、良いことは、神さまに喜ばれることは、すぐに行うべきです。看守は、パウロとシラスの体に残っている鞭で打たれた傷跡を消毒してあげました。そして、家族全員が洗礼を受けました。そして、家族全員でイエスさまを信じ救われたことを感謝したのです。

パウロ先生は、救われるためにどうすれば良いのですかと看守さんが尋ねたとき、何と答えたのでしょうか。何をしなさいと言ったのですか。「あれこれをしなさい」とは言いませんでした。ただこう言ったのでした。「主イエスを信じなさい。」救われるためにすることは主イエスを信じることだけです。必要なのは、ただイエスさまへの信仰だけです。聖霊なる神さまが与えてくださる信仰によって、僕たち私たちはイエスさまと一つにされて救われます。神さまの子としていただけます。

でも、それだけで終わってもいけませんね。看守さんとその家族は真夜中に何をしましたか。洗礼を受けました。パウロ先生が聖書の教えを皆に語ったからです。その中で、こう教えたはずですが。

「イエスさまを信じた人は、神さまの家族です。教会に加わるのです。そのために、イエスさまは、洗礼を受けることをお命じになりました。だから、あなた方家族全員が洗礼を受ける必要があります。」そして、看守さんは、家族全員洗礼を受けさせてくださいとお願いしました。おそらく、看守さんには子どももいたはずですが。もしかすると、中にはまだ眠くて眠くて、起きてお話を聞けなかった子どももいたかもしれません。もしかすると、まだ赤ちゃんで、聞いても理解できなかった子どももいるかもしれません。けれども、お父さんはイエスさまを信じたのです。イエスさまが家族全員を救ってくださると約束されたことを信じたのです。だから、小さな子にも洗礼を授けていただいたのです。

皆の中には、赤ちゃんのときに洗礼を受けたお友達もいます。すばらしい祝福を知らない間に受けています。神さまに感謝してください。先生は、大人になってからイエスさまを知って洗礼を受けました。そういうお友達もたくさんいます。どうぞイエスさまを信じているお友達は、自分の口でイエスさまを信じますと告白してください。そして、洗礼を受けることができるように祈り求めましょう。知らない間に洗礼を受けているお友だちは、一日も早く自分の口でイエスさまを主と告白する幸いを受けてください。そして、教会に仕えることによって、イエスさまに仕える人になってください。

今週の暗唱聖句

そして、イエス・キリストの名によって洗礼を受けるようにと、その人たちに命じた。

使徒言行録10章48節前半

〈ねらい〉

罪よりの救いの保証として、洗礼が与えられていることを教えたい。

〈展開例〉

みんな、アニメのカッコいいヒーローって大好きだよ！

敵に囲まれて大変なことになっても、変身一っで叫ぶと、突然姿がまったく変わっちゃって、とても強くなって、敵をやっつけちゃうよね。みんなも困ったときに変身！できるといいなって思いませんか？

みんながもう少し大きくなって、「僕は、(私は)イエス様が救い主であると信じます」って教会のみんなの前で神様に告白する(声に出して言う)と、神様は、僕たち・私たちに洗礼を授けてくだ

さいます。この洗礼は、実は僕たち私たちが変わったことを表しています。心の中が神様によって変えられるのです。心の中が神様によって変えられると、どんなにつらいことがあっても、いつも神様に頼るようになります。僕たち私たちが罪から救われたからです。

イエス様を信じて、心の中身を変身させてもらいましょう！

〈いのり〉

天のお父さま、イエス様を信じる心を与えてください。そして、神様の力で、僕たち私たちの心の中を変身させてください。そして天国に行くことができますように。このお祈りをイエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

『アドベントカレンダー作り』その一

用意するもの：

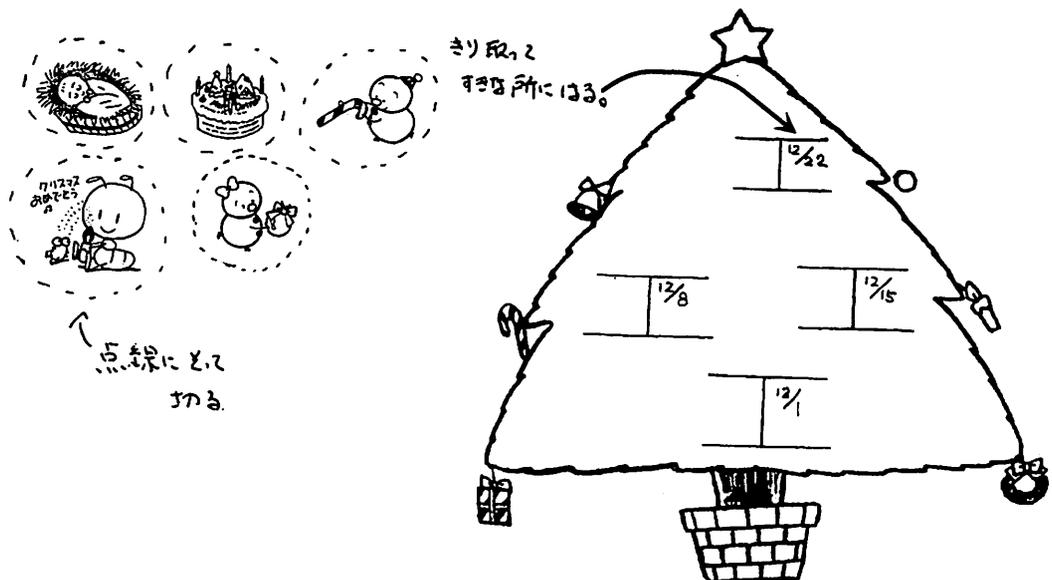
「カレンダーとイラスト」の拡大コピー

カレンダーは同じ物を緑の画用紙にもコピーしておく(来週使います)

作り方：

イラストに色を塗る、クリスマスツリーの印の上にイラストを貼る。

イラストの代わりに子供の写真を使っても良い



〈目標〉

洗礼によって与えられる祝福(罪の赦しの約束・永遠のいのちの約束・聖霊の約束)を、教師自身が深く味わい、喜びを新たにされながら、子供たちに伝えたい。

〈展開例〉

①導入

みんなが、もし何にも悪いことをしていないのに、間違えて警察官につかまって牢屋に入れられたら、どうかな……？ 逃げられないように手も足も重い鎖につながれて、暗い冷たい地下室に入れられたら……。そしてそんな時、大地震がおきて、その鎖がはずれ、牢屋の扉が開いたら……。！

②考えてみよう

パウロさんは、そんな時どうしていましたか？
……賛美していた、逃げなかった。
どうして、パウロさんはそんなふうに来たのでしょうか？
……イエス様を信じていた。

そんなパウロさん達を見て牢屋の番人はどうしましたか？

……イエス様を信じ、洗礼を受けた。

③適応

神さまは、パウロさんや牢屋の番人だけでなくみんなにも、同じ素晴らしい約束を下さろうとしています。素晴らしい約束……それは私たちがもっている悪い心をイエスさまの十字架によって完全に赦してくださること。名札はないけれど「〇〇ちゃんは神さまの子供です」と心に刻みこみ、決して無くならない天国に入る鍵を下さることです。そして、聖霊をくださいます。私たちは、聖霊を注がれて、少しづつだけれど確実に、間違いなく、神さまに似せられていくのです。

④お祈り

天のお父様、素晴らしい約束を感謝します。神様が与えてくださっている祝福をしっかりと受けることが出来ますように。まことの悔い改めとまことの信仰を与えてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン

〈やってみよう〉

『もうすぐクリスマス(アドベントカレンダー)』

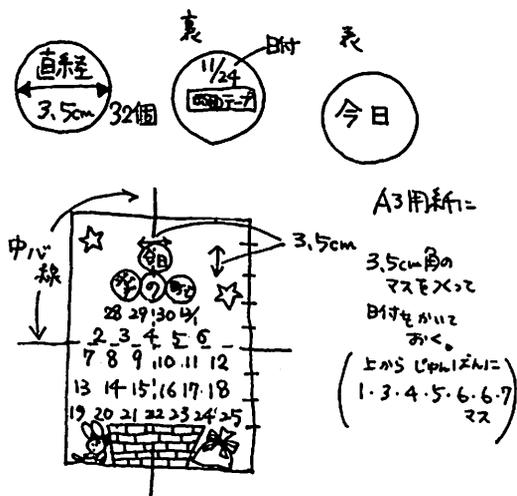
○用意するもの

- A3用紙(あらかじめ、日付を印刷しておく)
- 色画用紙(図の○の大きさに切り、裏に両面テープを付けておく)、一人32個
- 両面テープ、はさみ、サインペンなど

○作り方

- ①色画用紙の裏に11/24から12/25までの日付を書く。
- ②色画用紙の表に日付順に〔今日・ダビデの町で・あ・な・た・が・た・の・た・め・に・す・く・い・ぬ・し・が・お・う・ま・れ・に・な・つ・た・こ・の・方・こ・そ・主・メ・シ・ア・で・あ・る〕を書く。
- ③もうすぐクリスマス、イエスさま様のお誕生日です。毎日、イエス様のことを思い出してカードを貼っていきよう。御言葉が完成するよ！

☆時間があれば余白に絵を書いたり、星を貼ったりして飾りつけしては？



〈暗唱聖句〉 使徒言行録16章31節

主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。

〈学びのポイント〉

- (1) キリストを信じる信仰は、突然おこされる
- (2) 一人の信仰から、家族へそして教会へと広がる
- (3) 救いのしるしとしての洗礼

〈説教のおさらい〉

パウロとシラスは、牢獄に捕らえられた大変な困難のなかにある。しかしパウロとシラスは神を賛美する心を忘れない。その姿が看守の心をとらえた。救いの恵みを確かなものとするしるしが洗礼である。この信仰もある日突然おこされ、一人から家族へ教会へと広がる。弱くか細い信仰も、

キリストと仲間と共に共同体として歩み始めることがゆるされる。幼児洗礼は両親（親）から子へのいちばんの贈りもの。

〈やってみよう〉

聖書を開きましょう

言葉を組み合わせて聖書の御言葉を完成させましょう

①使徒言行録16章16～34節

- ア) そうすれば イ) あなたも
 ウ) 信じなさい エ) 主イエスを
 オ) 救われます カ) 家族も

②使徒言行録10章48節

- ア) そして イ) 洗礼を
 ウ) イエス・キリストの エ) 名によって
 オ) 受けるようにと カ) 命じた
 キ) その人たちに

〈目標〉 洗礼の意味を知る。

〈指導上の心得〉 下記ワーク例をとおして洗礼の根拠、意味、祝福を確認していこう。

〈展開例〉

1. 礼典には (A) と (B) がある。(答:A 聖餐、B 洗礼)
2. イエス様が洗礼を授けるように命じられたとあります。マタイ28:19の御言葉を完成させよう。
 「だから、あなたがたは行って (C) を、わたしの (D) にしなさい。彼らに (E) と (F) と (G) の名によって (H) を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」(答:C すべての民、D 弟子、E 父、F 子、G 聖霊、H 洗礼)
3. 洗礼の時に水を用いるのはなぜか考えてみよう。(カテキズム解説参考)
4. どのようにして洗礼に導かれたのか、物語から考えてみよう。(答えは一つとは限らない)

- (1) 牢の中でパウロとシラスはどうしていたか。
 ①神を讚美した ②泣いていた ③寝ていた ④祈っていた (答①、④)
- (2) 地震が起きたあと、どうなったか？
 ①囚人たちは逃げた ②神を信じた ③主の言葉を語った ④看守は自殺した ⑤だれも牢から逃げなかった (答②③⑤)
- (3) 神を信じた看守と家族はどうしたか？
 ①洗礼を受けた ②自宅へパウロとシラスを招き、共に食卓を囲んだ ③神を信じる者になったことを喜んだ。(答:全部)
5. 洗礼の水で消えたのはどれかな？×をつけてね。





問72、73の理解

先週「洗礼」を本で読んだり映画で見たりしたこともないと答えた子がいるクラスは、絵か例話を用意して見せてあげるとよい。イエスさまの受洗、パウロの受洗などの絵画もお勧め。

洗礼の意味は何？ 洗礼によって、五感を通して何が分るの？ 父と子と聖霊の御名による水の洗い、キリストの十字架の血と霊によって罪を洗い流すこと。恵みの契約、キリストにつき木されること、再生、罪のゆるし、イエス・キリストによって自分を神にささげて新しい命に歩くこと、見える教会への加入（ウ告白28章）

浸礼、滴礼について。

幼児洗礼について。割礼が生まれたばかりの子どもにも施されたように、洗礼も生まれたばかりの子に授ける。神様が「わたしはあなたとあなたの子孫の神となる」（創17：7）、「主イエスを信

じなさい。そうすればあなたも家族も救われます」（使徒16：31）と約束されたので。



話し合おう

自分や自分の身近な人の受洗について、どのような祝福を受けたか？ 教会で洗礼が行なわれるとき、どのような態度でのぞみ、どのような祝福を受けるか？ などについて話し合う。すでに洗礼の恵みにあずかった者と、これから洗礼の恵みにあずかる者では異なるが、想起、回顧、待望などの祝福があることを伝える。

クリスマス記念礼拝で洗礼式が執行される予定があれば、是非参与して共に祝福に与るように誘う。

月 日 「洗礼」

中学科

名前

聖書：
問

讃美：

☆洗礼

☆幼児洗礼

☆洗礼式に参加する祝福

毎日聖書を読もう

日	黙示録 16:1-21	月	黙示録 17:1-18
火	黙示録 18:1-24	水	黙示録 9:1-21
木	黙示録 20:1-15	金	黙示録 21:1-27
土	黙示録 22:1-21		

暗唱聖句

(使徒10：48a)

テキスト イザヤ書40章1節-11節

この箇所はメシア預言がなされている御言葉で、洗礼者ヨハネがその中の言葉を引用していることでも、よく知られている箇所です。

(1) エルサレムの民に慰めを語れ

39章がバビロン捕囚の預言で終えられ、その直後に慰めよとの言葉が出てきています。そのことによって39章とは対照的な章であることが印象づけられます。イザヤは、神から民に対して、慰めのメッセージを語るように命じられます。

この慰めはエルサレムの民の心に語るように命じられています。つまり、バビロン捕囚に連れて行かれた者たちを念頭に置く以上に、新しいエルサレムとそこに住む者たちのために語ります。それゆえ、ここで語られることは、当時の現在の状況に対する預言だけではなく、終末的な預言でもあります。終末の時、罪の故に与えられた苦役が終わり、メシアによってその罪が償われ、罪の故に受けた報いが十分に与えられた後、主から十分な祝福を受けます。その解放と救いの言葉をエルサレムの心に語りかけるのです。

(2) 神の預言者の言葉

3節～9節には声という語がしばしば出てきます。この声は神の声であり、神の御言葉を受けとめて民に語る神の預言者の声です。それは神が語り、神が立てられた者が神の言葉として語る言葉ですから、必ず成就するのです。

(3) 荒れ野、険しい道、狭い道

荒れ野、荒れ地は人間のみじめな状態を示す表現です。荒れ地は、水が無く人の住めないところ、それは困難に満ちた状況です。険しい道、

狭い道も同様です。その状況に対して、道を整え真っ直ぐ平らにせよと命じられています。

これは神の御計画である、メシアの到来によってもたらされる新しい世に対する備えなのです。新しい世では、人が神との正しい関係に入れられ、神と人との間の平和がもたらされます。メシアによって、罪が贖われ赦され、神との真の平和が実現します。

(4) 主の語られたことは必ず成る

メシア来臨によってもたらされる新しい時代には、すべての信仰者が神の栄光に接します。その主権者なる神が語られたことであるのですから、この事はすべて成就するのです。この世のものは栄えたり衰えたりと変化をしますが、神の御言葉は変化することなく確かであり、その言葉は必ず成就すると、このところで示されます。ですから、メシア来臨の喜ばしいこの預言も必ず成るのです。それゆえに期待して待つべきことが教えられます。

(5) メシアのもたらすよき知らせ

よき知らせを神の都シオンに平和の都エルサレムに、つまりはイスラエルに伝えることを神は命じておられます。このイスラエルとは終末的なイスラエルであり、回復された神の民のことです。

このところで見よと三度にわたって命じられています。その見るべきお方は真の神御自身であり、神の主権であり、神の公正な裁きとそれによって示される神の愛です。神は御自身の主権と正義と愛をもって、羊飼いとて御自身の民を羊の群のように養い、導き守られることが示されます。その平安はメシアによってもたらされるものであり、その平安の時に対する希望を与えているのです。

テキスト イザヤ書40章1節～11節

「クリスマスの備え」

〔単元のねらい〕

待降節は、私たちの心をイエスさまの到来の恵みにふさわしく備えるときであることを覚えましょう。イエスさまがおいでくださることこそ、私たちにとってのすべてです。

今日から待降節（アドベント）に入ります。イエスさまのお誕生に備える季節です。イエスさまが私たちのところにおいてになる時が、一日ごとに近づいてきます。心をおどらせながらイエスさまのお誕生を待ちましょう。そして、イエスさまをふさわしくお迎えするための備えをしましょう。

皆さんは、大切なお客さまがお家に来るときに、どうしますか。部屋をちらけたままにしておきますか。テーブルにこぼれたお菓子の粉をそのままにしておきますか。

たぶん、部屋をきれいに掃除して、おいしいごちそうや飲み物も用意して、テーブルに花をかざったりもして、お客さまを迎える用意をととのえるでしょう。まして、イエスさまが私たちのところに来てくださると知ったなら、もっと心をこめて、イエスさまをお迎えする準備をするのではないのでしょうか。

神さまはイエスさまがお生まれになるよりもずっとずっと昔の時代に、イエスさまのお誕生を告げていられました。そして人々にこう語りかけられました。待っていないさい、わたしはあなたがたのために、荒れ野に道をつくる。わたしは谷底をうずめ、山と丘は低くし、でこぼこ道をたいらにし、狭い道を広い谷にする。

これこそ、イエスさまを私たちのところにつかわしてくださることによって、神さまが私たちにしてくださるすばらしいみわざです。

私たちの心に荒れ野はないのでしょうか。イエスさまは荒れ野のようなさみしくつらい心を、豊かな命の恵みで満たしてくださるのです。私たちの心に谷底のような深い闇はないのでしょうか。イエスさまが来られるなら、そこに明るい光がともる

のです。

私たちは自分だけがえらいとおごり高ぶっていないでしょうか。イエスさまはそういう私たちをへりくだらせて、神さまをあがめ、ただイエスさまを見上げ、神さまと隣りに仕えて生きる者としてくださるのです。私たちの心は争いや憎しみで、曲がりくねったでこぼこ道のようにないのでしょうか。イエスさまはそこでこぼこ道をならして、誰もが安心して通ることのできる、まっすぐな平和な道にしてくださるのです。

イエスさまを私たちの心にお迎えすることは、すばらしいことです。イエスさまが私たちの心に住んでくださることによって、私たちは罪赦され、まことの命と幸いの道へと導かれるのです。まことの喜びと平和の中に招かれるのです。イエスさまが私たちのところに来てくださることこそ、私たちにとっていちばん大切なことです。そしていちばんの喜びです。だからこそ、2000年もの間、世界中の人々がクリスマスを祝ってきたのです。イエスさまのお誕生を今か今かと待ち望んできたのです。

大事なお客さんをお迎えすることにまさって、私たちはイエスさまのお誕生を待ち望み、イエスさまをふさわしくお迎えするための備えをします。待降節はそのために用意された季節です。

イエスさまをお迎えするにふさわしい心を、神さまご自身がつくってくださいます。ですから私たちも、ひとりひとりそのような心をつくりあげてを許されています。神さまの恵みに信頼して、日々み言葉を読みつつ、私たちの心がイエスさまの住まいにふさわしい心とされるよう、祈り求めていきましょう。

今週の暗唱聖句

呼びかける声がある。主のために、荒れ野に道を備え、わたしたちの神のために、荒地に広い道を通せ。

イザヤ書40章3節

〈ねらい〉

アドベントに入り、クリスマスの真の意味を考える。イエス様がきてくださり、私達の罪を贖ってくださったことを感謝し、クリスマスに備える。

〈展開例〉

みなさん、もう12月です。街やテレビではクリスマスのセールやコマーシャルでいっぱいですね。みなさんは、クリスマスは何の日だか知っていますか。プレゼントでおもちゃをもらったり、ケーキを食べたりする日ですか？ それもとても楽しいことですが、それだけではありません。本当はイエス様のお誕生をお祝いする日ですね。

神さまは私達に、イエス様という素晴らしいおくり物をくださいました。イエス様は、私たちの汚れた心を赦してくださるために、来てくださいました。

「イエス様、ありがとう！」という気持ちで、クリスマスを楽しみに待ちましょう。

〈いのり〉

天のお父さま、クリスマスが近づいていますので、もっともっとイエスさまを知って、クリスマスを感謝する心をあたえてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

「アドベントカレンダー作り」 その二

用意するもの：

先週コピーしたカレンダーの線に沿って切り込みを入れておく。

黄色の折り紙を星形に切り抜いて、星を用意しておく。

作り方：

1. 先週作ったカレンダーの上に緑のカレンダーを重ねて糊づけする。
2. クリスマスツリーを折り紙で飾る。切り込みの上に貼らないように。貼ってしまった時は、糊が乾いてからもう一度切り込みを入れる。
3. 最後に星を貼る。

〈目標〉

クリスマスを前に、神の御子イエス・キリストの到来に備える。

〈展開例〉**①導入**

今日は、寒い朝だったけど、みんなが元気に来てくれて、とてもうれしいです。教会の窓の外はどんより曇っているけれど、みんなの心の中をお天気に例えたら、どうかな……？

☆何の不安もない。悲しいこともない。今日は神さまがいなくても大丈夫！ 自分の方でなんでもできる。自信満々だ。……本当に晴？

☆毎日、楽しくは過ごしているけど、何となく不安な気持ちになる時もある。……ドンヨリ曇り

☆いつも悲しい気持ちでいっぱい、不安だらけで毎日を過ごしている。……ザーザー雨ふり!!

……あてはまるものがありますか？

②考えてみよう

みんなの心は、日々お天気のように、色々変わります。どうしてかな……？

神さまは、そんな私たちに聖書を通して今も心に語りかけてくださっています。救い主イエス・キリストの誕生は、イエスさまがお生まれになられるはるかな昔、イザヤという神さまからのメッ

セージを人々に伝える人によって預言され、待ち望まれていたことなのです。

イエスさまを、心にお迎えすることで、変わりやすく誘惑を受けやすい人の心に、まことの平安が与えられるのです。

③適応

心に語りかけ（イザヤ40：2）、呼びかける声（イザヤ40：3）は、神さまの御言葉を通して与えられます。イエスさまによって、希望や勇気をいただくことができるように、御言葉を毎日読み、お祈りを捧げましょう。

④お祈り

いつも私たちを、お守りくださってありがとうございます。まだ神さまを知らない人々がクリスマスに、神さまと出会えますように。アーメン。

〈ゲーム〉**「電聞リレー」**

①一列に並びます。

②前の人の背中に、クリスマスに関する文字を書く。……例：アドベント・ロウソク・ツリー

③次の人も同様に、前の人の背中に書く。

④最後の人まで、文字を送って、どれだけ正確に伝えることができるかやってみよう！

〈工作〉**『アドベント・カレンダー』**

140ページにアドベントカレンダーの型を掲載しました。

画用紙にコピーして、二枚の周囲を貼り合わせて、アドベントカレンダーを作りましょう。

〈暗唱聖句〉 イザヤ書40章5節

主の栄光がこうして現れるのを肉なる者は共に見る。

〈学びのポイント〉

- (1) なぜ救い主が必要なのかを考える
- (2) イエスをむかえる備えは何？

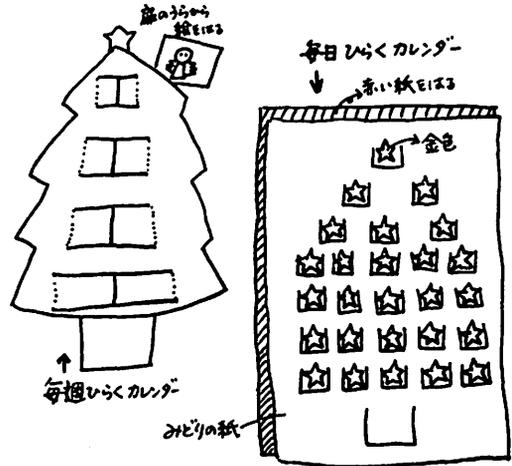
〈説教のおさらい〉

イエス様は争いや憎みあいで、デコボコ道になった私たちの心を平らな安心して通ることができる平和な道にしてください。イエス様が私たちの心に住んでくださり、罪を赦され、本当の命を頂こう。本当の幸福をいただく。心から喜んでクリスマスを迎えよう。

〈やってみよう〉

「アドベントカレンダー作り」

子ども達といっしょに工夫して楽しみながら作ってください



〈目標〉 聖書はイエスさまについて証しするものであることを確認する。

〈指導上の心得〉 楽しく交わりの時をもちましよう。11月3日(問69)の復習を兼ねています。

〈展開例〉

1. 御言葉はキリスト

イザヤ書40:1-2をつぎのように言い変えると、ある一人の人物が浮かび上がってきます。誰でしょうか。(答:イエスさま)

《教会に集う者》の心に語りかけ

《信じる者》に呼びかけよ

《罪の苦しみ》の時は今や満ち、《信じる者》の《罪》は、《身代わりの犠牲により赦された。》

こと同じようにイエスさまのことを預言している箇所は、旧約聖書にたくさんあります。

2. ゲーム: ジェンガとメシア預言カード集め
市販されている「ジェンガ」を使用して、楽し

く交わりの時をもちながら、旧約のメシア預言に触れよう。

用意するもの: ジェンガ、メシア預言を書いた10枚のカード、油性マジック

- (1) ジェンガ10ピースを撰び、一つの面だけに1から10までの番号を書く
- (2) 番号をつけたピースを下向きにし、他のピースとまぜあわせる
- (3) ジェンガを積み上げる(番号を書いた面が下向きなので、どこに積まれたかはわからない)
- (4) ジェンガをはじめ、番号がついたピースを抜き取り、一番上に載せることができたなら、御言葉カードを一枚ゲット! その場で預言の言葉を読み上げる。

十戒の言葉など色々応用できる。おまけにお菓子をつけると盛り上がる

この箇所は洗礼者ヨハネの誕生が予告される御言葉です。物語としてよく知られている箇所であると思います。

(1) ザカリアとエリサベト (5節～7節)

まず、この箇所の登場人物がであるザカリアとエリサベトが紹介されます。彼らが洗礼者ヨハネの両親とされます。この二人は共にアロンの家系の出身でした。祭司が祭司の家から妻をめとることは理想的なことと見られていました。このような理想的な夫婦である彼らは、さらに、「正しい人で……非の打ち所がなかった」と言われるほど、敬虔な人物であったようです。彼らは、神の御意志にかなう歩みを送っていました。

しかし、彼らには子がなかったと言われます。不妊である、子がいないことは敬虔なユダヤ人にとって重荷となりました。なぜならたくさんの子を持つこと、特に男の子が多く与えられることは、神の特別の祝福のしるしとされていたからです。ですから、子が与えられずに死を迎えることは不幸であり、呪いであると考えられました。この二人はすでに年老いており、彼女の不妊が取り除かれる期待などすでにできませんでした。このように記すことによって、神の救いは偶然訪れるのではなく、神に仕える者に来ることを述べています。

(2) ガブリエルの予告 (8節～17節)

アロンの家系の祭司たちは、アロンの息子たちの名を持つ24の組に分けられ、当番制でエルサレムの宮での祭壇の奉仕を行っていました。ちょうどザカリアの組が当番に当たっている時、神の御意志を求めるくじによって、宮の中で奉仕する者としてザカリアが選ばれました。このとき聖所に入れるのはただ一人だけであり、彼も当然一人で聖所に入り奉仕をしていました。そのとき大天使ガブリエルが表れたのです。

ガブリエルはたいがいメッセージを伝える義務を負っていたようです。このときもガブリエルは神からのメッセージを伝えに来たのです。そのメッセージはこのザカリア夫妻に男の子が与えられるという嬉しい知らせでありました。

(3) 与えられたるし (18節～20節)

しかし、ザカリアはガブリエルの語っていることをすぐには受け入れられず、しるしを求めました。彼はこの不信のために口が利けなくなります。しかし、これは信じなかったことに対する罰ではなく、口が利けなくなると言う「しるし」がこのところで与えられたのです。そのしるしによって、ザカリアが、神の定められたことは必ず成るのだと知るためでした。そして、神の言葉の成就を静かに期待して待つことができるようにするためだったのです。

(4) 懐妊を知るエリサベト (21節～25節)

神殿の外で待っていた人々は、なかなかザカリアが出てこないで心配して待っていました。そこへザカリアが出てくるのですが、喋ることができなくなっているザカリアを見て、人々は、ザカリアが神との何らかの体験をしたことを悟ります。しかし、何があったのかは明らかにされません。神は、ザカリアの口をふさぎ、御旨を知らそうとはなさいませんでした。ただ静かに神の御言葉の成就を待たされます。それは、その子の誕生そのものがこの世に対する神のしるしであるからなのです。

しかし、妻にだけはそのことが知らされます。その事実を知り、彼女も神の御言葉の成就を静かに待つ人とされました。御言葉の成就が与えられるのを待つのです。このように神の御言葉を確信し、御言葉の成就を期待して待つことが大切です。

テキスト ルカによる福音書 1章5節～25節

「ザカリアとエリサベト」

〔単元のねらい〕

クリスマスの主人公はイエスさまです。クリスマスをいどころ人々は、イエスさまの恵みをあかしするために用いられた脇役たちに過ぎません。ザカリアとエリサベトもです。

バプテスマのヨハネという人を知っていますか。イエスさまよりも少し前に生まれて、イエスさまが世に来られることを宣べ伝え、イエスさまをお迎えするにふさわしい心をつくりなさいと人々に呼びかけて、ヨルダン川で洗礼（イエスさまを信じるしるしです）を授けたことで知られている人です。イエスさまを指さして、このお方こそ救い主であると告げる大きな働きをした人です。けさはこのバプテスマのヨハネのお父さんとお母さんが神さまからいただいた喜びについて学びましょう。

お父さんはザカリアという名で、祭司でした。神さまに特別に選ばれて、神さまのためのご用をする人です。お母さんの名はエリサベトといいました。ザカリアもエリサベトも、あつい信仰に生きていた人でしたが、ふたりには大きな悲しみがありました。子どもがなかったことです。ふたりは長い長い間、子どもを与えてくださいと神さまに祈り求めてきましたが、その祈りはかなえられずにいました。そして、今ではふたりとも、もう年老いてしまっていました。

けれどもある日、すばらしい知らせがふたりにもたらされたのです。

ちょうどザカリアが神さまの宮で、祭司としてのご用をしていた時でした。突然ザカリアの前に天使があらわれて、こう告げたのです。「ザカリアよ恐れるな、あなたたちの願いは神に聞き入れられた。あなたの妻エリサベトは男の子を産む。そしてその子は救い主を指さすとうい働きをする人として、神に大いに用いられる」。天使は神さまの使いですから、天使が語った言葉はそのまま神さまが語られたみ言葉です。

でも、この知らせにザカリアはとまどって、天使に答えました。「そんなことがあるのでしょうか。わたしも妻ももう年をとってしまったのです」。

実はザカリアはこの時から、口がきけなくなったのです。神さまがそのようになされたのです。それはザカリアが、神さまの恵みのみ言葉を信じなかったからですね。確かに人間の常識から言えば、年をとってしまった夫婦に子どもが生まれることはないかも知れません。けれども神さまは私たち人間の思いをはるかにこえたすばらしいみわざをなしてくださるお方です。人にできないことはあっても、神さまにはおできにならないことはひとつもありません。そして神さまの語られたことは、必ず実現します。「ザカリアよ、あなたは今は黙ってわたしのすることを見ていなさい」。

やがて神さまのみ言葉は実現して、エリサベトは男の子を産みました。この年老いた夫婦に、待望の子どもが与えられたのです。ふたりの喜びはどれほどであったでしょうか。そして男の子に名前をつけることになった時、神さまはザカリアに、この子にヨハネという名をつけなさいとお命じになりました。ザカリアはまだ口がきけませんでした。神さまが命じられたとおりに、この子の名はヨハネですと書きました。するとザカリアはもとどおりに、言葉を話すことができるようになりました。最初にザカリアの口から出てきたのはどんな言葉だったと思いますか。神さまを讃美する言葉です……「神さまはわたしの不信仰の罪をゆるして、大きな喜びを与えてくださった」。奥さんのエリサベトは言いました……「神さまのみわざが必ず実現すると信じる人は何と幸いです」。

神さまのみ言葉の約束は確かです。

今週の暗唱聖句

天使は言った。「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。
あなたの妻エリサベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。

ルカによる福音書 1章13節

〈ねらい〉

正しい人ザカリアとエリサベトの間に起きた出来事を通して、神様の言葉は必ず成就することを教えたい。

〈展開例〉

みんなのお父さんとお母さんが何歳なのか、知ってるかな。みんなはお父さんとお母さんが何歳の時に生まれたんだらう？ おじいちゃんやおばあちゃんのようなお年寄りから生まれたお友達はいないでしょう。

ザカリアさんとエリサベトさんには赤ちゃんがいませんでした。欲しくてほしくていつもお祈りしていたのです。でも、ふたりともすごく歳を取ってしまって、おじいさんおばあさんになっていたのです。けれどもついに、神さまは、二人が

お祈りしたそのお祈りに応えてくださったのです。神さまはおっしゃいました。「ザカリアさんとエリサベトさん、あなたたちに赤ちゃんを与えてあげます。」

ところが、二人は、「そんなことがあるわけないです。歳をとった私たちから赤ちゃんがうまれるなんて無理です」と言ってしまったのです。

でも、神さまは、本当にかわいいヨハネちゃんを与えてくださったのです。神さまは約束を必ず守られるんだね。僕たち私たちも、お祈りしようね。神さまはお祈りを聴いていてくださるよ。

〈いのり〉

天のお父さま、神様の言われたことは必ずそうなると思えるように助けてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈ゲーム〉

口がきけなくなったザカリアさんになって、セスチャーゲームをしてみよう！ 言葉にしなくてもお友達に伝わるかな？

〈暗唱聖句〉 ルカによる福音書1章13節

天使は言った。「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。あなたの妻エリサベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。

〈学びのポイント〉

- (1) 神様の約束の確かさ
- (2) 人の思いをはるかに超える神様の御業

〈説教のおさらい〉

年をとったザカリアとエリサベト。赤ちゃんが生まれるという神様の約束は、ザカリアには信じられない。でも、赤ちゃんは本当に生まれた。私たちの思いをはるかに超えて神様はすばらしい業をなさる。もうすぐクリスマス。救い主を送ってくださる約束は、2000年前に確かにはたされた。今もイエスは私たちの中に生まれてくださる。

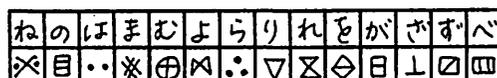
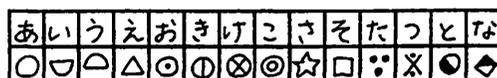
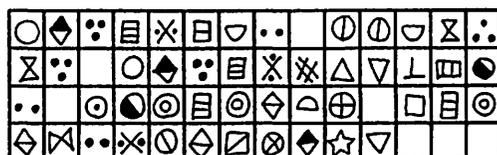
〈やってみよう〉

聖書を開きましょう

ルカによる福音書1章5～25節

どんなみ言葉が書かれているでしょう

暗号をといてください



〈目標〉 ザカリアとエリサベトの物語を楽しむ。

〈指導上の心得〉 楽しく交わりましょう。すごろくはザカリアの家、神殿、至聖所及び適用な数のマスに黒板などに書いて遊びましょう。

〈展開例〉

1. ジェスチャーゲーム：よろこびの知らせ
ザカリアは、天使から嬉しい知らせを受けてから口がきけなくなり、耳も聞こえなくなりました。さあここはザカリアの家です。ザカリア役の人は身振り手振りでその日のことをエリサベトに知らせてください。エリサベトも身振り手振りで受け答えしてください。終わったら相手が何を言ったか声に出して言い、正しく理解できたか確認してみましょう。

〔会話例（身振り手振りで）〕

ザカリア 「ちょっと話があるんだ。」

エリサベト 「なんですか」

ザカリア 「よい知らせだよ」

エリサベト 「何かしら」

ザカリア 「私たちは子供を授かったのだ。

今日、天使が知らせてくれたのだ」

エリサベト 「主よ、感謝します。」

2. 神殿すごろく：ザカリア

みなさんはザカリアになって、神殿にいきましょう。スタートはユダの町にあるザカリアの家です。神殿に着いたら、一度ストップしましょう。そして「1」が出るまで動けません。なぜなら、くじにあたらないと主の聖所に入ることができないからです。主の聖所に入ることができたら、御言葉カード（ルカ1：13）を1枚ひいて家にもどりましょう。ただし返りの道は一言もしゃべってはいけません。なぜならザカリアは子供が生まれるしるしとして、しゃべれなくされたからです。さあ、今日は静かな分級になるかな。全員ゴールに着いたら、御言葉カードをみんなで読みましょう。

聖書の読みとり (ルカ1:5~25)

だれ? ①人名と思われるもの全てを拾い出させる。

ザカリア エリサベト ヨハネ

天使(名前は?) 民衆 ヘロデ

アビヤ(歴上24:10) アロン エリヤ

②主要な登場人物はだれ? それはどんな人?(6、7節。マルコ1:2~9)

いつ? この出来事はいつのことか。年代は? 登場人物の人生の中のいつごろ? 何をしていたとき?

ユダヤ王のヘロデの時代

ザカリアとエリサベトが年取った頃

ザカリアの組が当番の務めの期間(歴上9:25)

聖所で香をたいていたとき

どこ? この出来事が起こった場所、地名(白地図に地名を書き込む)、舞台。

主の聖所(エルサレム)

自分(ザカリア)の家(山里・ユダの町)

どうした? 何が起こったのか? 洗礼者ヨハネ誕生の予告。

13節、ザカリアの願いとは何?

25節はどういう意味だろう?

人々はこの出来事を見てどう思っただろう?

(10、21~22、58~66)

15~17節、41節、76節を読んで、洗礼者ヨハネの働きを知る。(胎内にいるときから聖霊に満たされて、イエスさまのことが分るなんてすごいね)

似たような話を知っている? アブラムとサライ(創世記18)、マノアとその妻(士師13)、エルカナとハンナ(サムエル上1)。

月 日「ザカリアとエリサベト」中学科

名前 _____

聖書:

問

讚美:

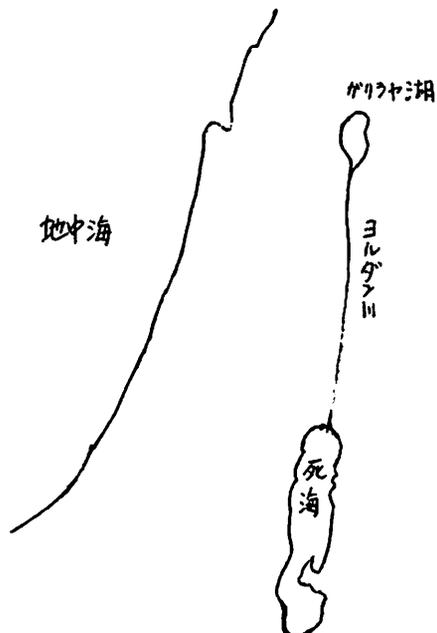
☆いつ

☆どこで

☆だれが

☆どうした

☆感想(わかったこと)



暗唱聖句

(ルカ1:13)

この箇所は先週の続きの箇所であり、時間的にもつながりのある話です。

(1) イエス誕生の予告 (26節～33節)

再び天使ガブリエルの出現が記されています。このガブリエルは、神のメッセージを携えて来るのがその務めです。このときも天使はマリアへメッセージを伝えに来たのです。

その内容は、マリアが神の御業によって男の子を産み、その子をイエスと名付けるべきことでした。さらに天使は、その子がダビデの王座を嗣ぐべき者であることを告げています。そのことに先立って、マリアのいいなずけであるヨセフもダビデの血筋の者であり、そこから生まれる子が本当にその王座継承権を持つものであることが明らかにされています。このダビデの王座を嗣ぐことは、メシア預言と深く結び付いたものです。神はダビデの血筋にメシアを与えるとしておられました。天使の携えた言葉は、そのメシアが預言の通りに与えられることを伝えるものでした。そして、マリアは、神の恵みによってメシアの母となると示されたのです。

(2) 不可能さを用いられる神 (34節～38節)

しかし、まだヨセフと生活を始めていないマリアは、この天使の言葉を理解できませんでした。何よりも不可能なことと思えました。そのために彼女は34節のように天使に答えます。そこで天使は、その子が神の御力によって生まれることをまず語ります。それに続いて、マリアに完全な確信を与えるために「しるし」が与えられます。そのしるしは不妊の女と呼ばれたマリアの親類のエリサベトが身ごもっているという事実でありました。

このことによって、神がこの世に対して好意を示してくださる御業は、人間には不可能と思える

ことさえ用いて神が働かれるという、神の御力を示すのです。そのことを示し、さらに「神にできないことば何一つない」と、天使は宣言します。マリアは、神のこの御言葉と御力とを受け入れたのです。

(3) 聖霊の喜び (26節～33節)

天使の御告げを聞いたマリアは、エリサベトを訪問します。このとき、エリサベトの胎の子がおどつたと記されています。これは、単なる胎動ではなく、主の母が来られたことに対する、聖霊による感動が胎の子に与えられ、そしておどつたものと思われます。聖霊による特別な胎動であったのです。

それと共に、エリサベトも聖霊に満たされ、聖霊に押し出されて祝福と喜びを大声で語ります。このところで、彼女はマリアのことを「わたしの主のお母さま」と語っていますが、「主のお母さま」とは、メシアを産むために選ばれた方、人性をとられるための地上のお母さんという意味です。この言葉に、それ以上の特別な意味を求めることはできません。エリサベトはさらに神の御旨が実現すると信じた者は幸いであると語っています。神の御言葉と神のご計画に期待し、必ずそれは成ると信じざる者の幸いが告白されています。その神のご計画は、人間の目には不可能に見えることなのです。しかし、人間の不可能を超えて神が成してくださること、神の御心が必ず成就することを信じる者は幸いなのです。

まとめ

どんなに不可能に見えるようなことであっても、神のご計画を信じ、その成就を期待しながら待つことが、私たちに求められています。そのような者こそ真に幸いな者と呼ばれるのです。

テキスト ルカによる福音書 1章26節～38節

「マリア」

〔単元のねらい〕

イエスさまの母となったマリアも、特別な人であったわけではありません。神さまの大いなる恵みにあずかった幸いな人のひとりに過ぎません。その意味でマリアは私たちのひとりひとりでもあるのです。

ザカリアとエリサベトの夫婦に男の子が生まれてから六ヵ月目のことです。ガブリエルという名のみ使いが、ナザレの町に住んでいたマリアという女の人のところに来て、こう語りかけました。「おめでとう、恵まれた方。神さまがあなたとともにおられます。」

マリアが突然の出来事にとまどっていると、み使いはさらにマリアに言いました。「あなたは男の子を産みます。その名をイエスと名付けなさい」。これはどういう意味でしょうか。「マリアよ、あなたがイエスさまの母になるのですよ」、そういう意味です。

これを聞いたマリアはびっくりしてみ使いに言いました。「どうしてそのようなことがありえますでしょうか」。

マリアはこの時、十五才くらいの、ヨセフという大工さんとの結婚をひかえた、田舎のひとりの少女でした。マリアは神のみ子、救い主がお生まれになるとの知らせは、もう耳にしていたかも知れませんが、でも、自分がそのお方を産むなどということは考えもしなかったのです。まず、マリアはまだヨセフと結婚していませんでしたから、み使いが言うように赤ちゃんが生まれるはずはありません。そしてマリアは、救い主の母になる人は、もっと身分の高い、それにふさわしい人であるはずだと思ったのです。自分には富もなく、家柄も地位もない。だからそのような大きな光榮はふさわしくないと考えたのです。

けれどもみ使いは言いました。マリアよ、あなたにこのことをなさるのは神さまです。救い主の母になるようにとあなたを選んだのは神さまです。神さまにおできにならないことはないではありませんか。

神さまのみ言葉はそのとおりに実現することを、あなたは知っているはずではありませんか。

マリアはこれを聞いてみ使いにこたえたのです。「わたしは神さまのはしためです。神さまがおっしゃったとおりのことが、このわたしの身になりますように」。

皆さんも、イエスさまのお母さんになるのには、マリアのような田舎の少女よりももっとふさわしい人がいるのではないかと思いませんか。でも、神さまの恵みは、どんな人にも及ぶのです。どんなに貧しく低い人にも、神さまの恵みは届くのです。私たちの皆が、わけへだてなく神さまの恵みをいただくことができるのです。きっとそのことをお示しになるために、神さまはマリアをお選びになったのです。

神さまのみ言葉は必ずそのとおりになると信じて、このわたしの身にも神さまのみわざがなりまうようにとすることができたマリアは、ほんとうに幸いな人ですね。これこそクリスマスにふさわしい心の備えです。

神さまのみ言葉の確かさを信じたマリアに、み言葉のとおりをやがてイエスさまがお宿りくださいました。マリアはこのことによって、イエスさまがともにいてくださることの祝福を豊かにいただくことができました。

イエスさまは、マリアとともにいてくださったように、私たちとともにいてくださいます。マリアがイエスさまを宿したのと同じように、「イエスさまどうぞ私のところにも来てください」と祈り待つなら、イエスさまのみ言葉の恵みが私たちの心にも宿るのです。

今週の暗唱聖句

マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉通り、この身になりますように。」

ルカによる福音書 1章38節前半

〈ねらい〉

イエス様のお母さんになることを告げられたマリアを通して、イエス様が私たちのところにも来てくださる恵みと喜びを伝えたい。

〈展開例〉

みんなはイエス様のお母さんって誰か知ってるかな？ マリアさんというんだよ。今日はマリアさんのお話をします。

もしみんなの前に天使がやって来て、「今日からあなたの家にイエス様が来て、一緒に暮らすことになりました」と言ったらどうしますか？ すごく驚くよね。天使は、それよりもっとびっくりすることをマリアさんに言いました。マリアさ

んは、イエス様のお母さんになると天使から言われたのです。マリアさんはすごく驚きました。

でもマリアさんはきっと嬉しかったはずですよ。自分のところにイエス様が来てくださったのですから。イエス様は私たちの心の中にも来てくださいます。きたない心なのに来てくださいます。「神様来てください」と言いましょ。

〈いのり〉

天のお父さま、私たちはいつも神様の言葉を信じますから、どうか私たちのところに来てください。そして一緒にいてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

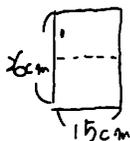
〈工作〉

くるくる絵本を作る。

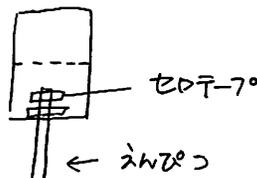
用意するもの

- 厚紙
- えんぴつ (なるべく長く乙丸型のキのがよい)
- セロテープ
- のり

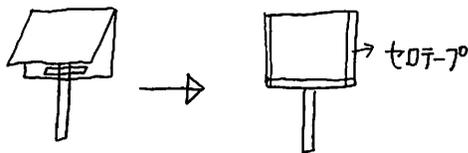
① 厚紙をたて 26cm よ=15cm に切る。



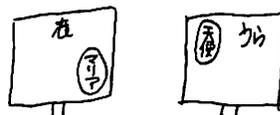
② えんぴつを中央にしっかりと固定する



③ 点線部分を山折りにしてテープでとめる。



④ マリアと天使の絵を切りとりて右下と左下にはる。



⑤ えんぴつの部分を手でもってくるくる回してみよう。マリアの前に天使があらわれたように見えるよ。時間があつたら、シールを貼ったり、色をぬったりしておとも楽しいよ。



〈目標〉

マリアの姿を通して、神の御言葉を信頼し、待ち望むことへと招く。

〈展開例〉

①導入

先週は、神さまの約束を信じて待ち望んだザカリアの話でしたね。覚えていますか？

ザカリアに訪れた天使ガブリエルが、こんどはマリアのところに訪れました。マリアに、天使ガブリエルはなにを伝えに来たのでしょうか？

②考えてみよう

赤ちゃんはまだ生まれていないのに、天使ガブリエルは、男の赤ちゃんに名付ける名前を知らせました。その名前には何の意味が込められていましたか？

……ルカ1：31～33、マタイ1：21、「自分の民を罪から救う」

③適応

天使ガブリエルは、「神にできないことは何一つない」と言いました。神さまは、神さまの約束どおりに、私たちに恵みをお与えくださいます。聖書の御言葉は、神さまの約束の言葉です（旧「約」・新「約」聖書）。私たちがたくさん覚えて、約束の実現を待ち望みましょう。

マリアは、特に身分が高かったり、特別な才能をもっていたという人ではありませんでした。神さまの恵みは、分けへだてなく与えられることを示すためにマリアをお選びになったのです。頭が特別にいいからとか、スポーツができて健康だから、神さまに特別に愛されるのではないのです。

神さまは、あなたを愛しておられます。

④お祈り

これからも、神さまに信頼して、従っていくことができますように。アーメン。

〈やってみよう〉

「クリスマス・カードゲーム」

○用意するもの

厚紙（画用紙）で作ったトランプ大のカードに名前（☆記号）を書いて、12枚用意する。

○遊び方

★基本 4人で、一人カード3枚ずつ配り、「トランプのパバヌキ」の要領で、同じグループのカードがそろったらアガリ!!

※分級の人数に合わせて、カードを調節する。

2人……グループ①～②までのカード各3枚

3人……グループ①～③までのカード各3枚

6人……グループ①～③までのカードを2倍作り、カード18枚で各3枚

遊び方

グループ①

マリア	ヨセフ	イエス さま
-----	-----	-----------

グループ②

エリサ ベト	ザカリ ア	ヨハネ
-----------	----------	-----

グループ③

ガブリ エル	ガブリ エル	ガブリ エル
-----------	-----------	-----------

グループ④

☆	☆	☆
---	---	---

〈暗唱聖句〉 ルカによる福音書1章38節

わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。

〈学びのポイント〉

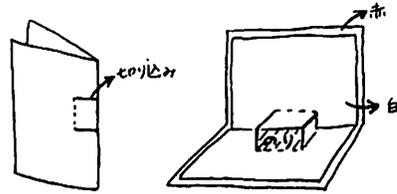
- (1) マリアは聖霊によって身ごもった
- (2) 旧約の預言の成就
- (3) 神にできないことは何一つない

〈説教のおさらい〉

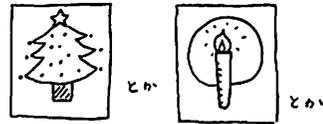
天使からのしらせを聞いて、マリアは不安と戸惑いを抱いたにちがいない。救い主の母になるおそれ、とまどい。しかし天使ガブリエルの言葉を神の言葉として聞き入れ、マリアは、神の言葉の通りになるように信じた。神の約束の言葉を聞いて、人が一生懸命神の為に生きる。そのことを神も喜んで受け入れてくださる。

〈やってみよう〉

★ クリスマスカード作り



〔のり〕のところに いろんな絵をはる。



〈目標〉 クリスマス博士になろう。

〈指導上の心得〉 楽しく交わりをいたしましょう。

〈展開例〉

「クリスマスクイズ・ベースボール」

- ①黒板などに野球のダイヤモンドを書く。
- ②クリスマスに関連する聖書クイズを、シングル（一塁打）、ダブル（二塁打）、トリプル（三塁打）、ホームランの四段階の難易度に分けて各10問くらいつくる。
- ③二チームに分かれ、それぞれ打順を決める。
- ④1番バッターから順番に問題にチャレンジする。回答時間は30秒。正解だと問題のレベルだけ進塁できる。間違ったり、答えられなかったらアウトでチェンジ。（ワンアウトチェンジ）どの問題にチャレンジするかはチームの作戦。小刻みにシングルヒットを重ねて確実な点を取りに行くのもよし、長打をねらい大塁得点をねらうのもよし。
問題例：〔シングル〕イエスさまのお母さんの名

は？ クリスマスは誰の誕生を記念する日ですか？ イエスさまはどんな場所で生まれたか？ クリスマスにツリーによく使われる木の名は？
〔ダブル〕ヨセフの職業は？ マリアは人間ですか？ ザカリアは生まれて来る子供に名付けるように言われた名は？ 東方の博士たちをイエスさまのところに導いたのは何でしたか？
〔トリプル〕マリアに神のお告げを伝えた天使の名は？ マリアが住んでいた町の名は？ イエスさまが生まれた町の名は？ 東方の博士たちがイエスさまにささげた三つのささげものは何でしたか？
〔ホームラン〕ザカリアのお仕事は？ ヨセフとマリアは何のためにベツレヘムへ行ったのか？ イエスさまが生まれた時のイスラエルの王の名は？ インマヌエルってどんな意味？
ザカリアは神殿の中の何という場所で天使のお告げを聞きましたか？

聖書の読みとり (ルカ1:26~38)



だれ? ①人名と思われるもの全てを拾い出させる。

天使ガブリエル マリア ヨセフ ダビデ
イエス ヤコブ エリサベト

②主要な登場人物はだれ? それはどんな人?
(27、36節) ヨセフはダビデ家の子孫。マリアとエリサベトが親戚であることに着目。



いつ? この出来事はいつのことか。
エリサベトが身ごもって6ヶ月目
マリアが婚約中



どこ? この出来事が起こった場所、
地名(白地図に地名を書き込む)、舞台。
ガリラヤの町ナザレ



どうした? 何が起こったのか?
イエスの誕生の予告がされた。

たぶんマリアは十代。伝説によれば13歳。いいなづけとの結婚をひかえた妙齢の乙女。突然の天使の来訪に、どう反応したか。(29、34節)

「あなたの親類エリサベトも」と言われたとき、マリアはアブラムとサライ(創世記18)、マノアとその妻(士師13)、エルカナとハンナ(サムエル上1)。の出来事も思い出したはず。37節は、言葉だけでなくイスラエルの歴史が語る神のみ業。

歴史の中で、生きて働かれ、必ず約束を守られる神様に、38節のように信仰を告白し従っていきたい。

月 日 「マリア」 中学科

名前

聖書:
問

讚美:

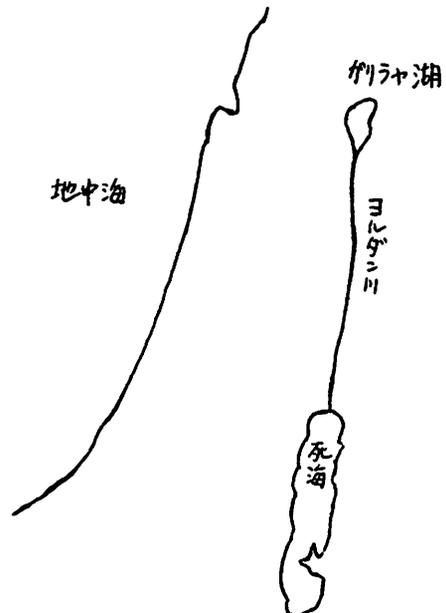
☆いつ

☆どこで

☆だれが

☆どうした

☆感想(わかったこと)



暗唱聖句

(ルカ1:38)

テキスト ルカによる福音書2章1節～20節

主の降誕にまつわるこの物語は、降誕劇などでもよく知られている箇所です。

(1) 歴史の中で (1節～3節)

このところで、主イエスの御降誕に先立って、人口調査がなされたことが記されています。このような歴史的な出来事をルカはしばしば記しています。これはルカの特徴ですが、彼は神の救済の出来事が、この我々の生きている地上の歴史の中で起こっていることを明らかにしているのです。当時の公的な住民登録(人口調査)は、この箇所に記載されているように、それぞれの出身地に赴いてなされたようです。

(2) 主イエスの誕生 (4節～7節)

ヨセフは、勅令に従って、いいなずけである身重のマリアを伴い、ダビデの町ベツレヘムへと向かいます。このことによって、ヨセフが明らかにダビデの子孫であることが示されています。1:32で示されたことの正当性が明らかにされます。マリアに関して、「身ごもっていた、いいなずけである」と記すことによって、ヨセフはその子の父親でないこと、しかしその子を自分の子とする用意があることが示されています。彼は、彼にも知らされていた神の御意志に正しく応えようとしていました。

彼らはこのようにしてベツレヘムに来たのですが、そこに滞在している間に月が満ち子供が産まれました。これは、単純に妊娠月が満ちたというのではなく、神の時が満たされたということでもあります。神の時が満たされ、約束されていたメシアがダビデの町で与えられたのです。

メシアが最初に寝かされたのは、石で作られた冷たい飼い葉桶でした。メシアのへりくだりの姿が暗示されています。

(3) 羊飼いへのお告げ (8節～20節)

昼間、野原で放牧された羊の群は、夜になると囲いの中に入れられ、羊飼いが夜通し番をしました。そのようなある夜、羊飼いのもとに天使が現れます。今起こったばかりの出来事を、天使を用いて、神がこの羊飼いたちに伝えていきます。

この羊飼いたちの登場は、王たるキリストの誕生に際して、その方の民として登場したものであると思われれます。ですから、彼らは、特別に選ばれた者たちでした。このとき、王宮や神殿でも起きていた者はあったでしょう。しかし、神は、軽蔑された存在であった羊飼いたちを、王たるメシアの民として示しておられます。このことは、このときお生まれになった王がどのような方であるのかを明らかにしています。

天使はこの選ばれた者たちに、メシアがお生まれになったことを告げ、そのしるしとして「布にくるまって飼い葉おけに寝ている乳飲み子を見る」と伝えていきます。伝えるべきことを伝えた後、天の軍勢も加わって、賛美がささげられます。軍勢とは戦う者たちです。その者たちが平和のおとずれを伝え、誉め歌を歌います。

この天使たちが去った後、羊飼いたちはその言葉を信じ出発します。彼らは天から告げられたとおり、ベツレヘムでその子を見つけ、喜びに満たされます。彼らはその子を見て、幼子について語られたことをことごとく話しました。マリアは自分の子についての約束について、天使の言葉によってさらに深く考える者とされました。

羊飼いたちはこの出来事を見て、賛美をしながら帰っていき、暗い夜道は賛美と喜びで満たされました。

この場面は飾りも何もありません。しかし、キリストが与えられ、その方と出会った喜びと賛美で満たされているのです。

テキスト ルカによる福音書2章1節～20節

「主イエスの誕生」

(単元のねらい)

約束どおり生まれたもうたイエスさまは、どのようなお方であられるのでしょうか。はっきりと確かめておきましょう。そのことがクリスマスの本当の喜びにつながります。

私たちが待ち望んでいたイエスさまが、み言葉の約束のとおりにいよいよお生まれになりました。イエスさまがお生まれになった夜、野原で野宿していた羊飼いたちに、イエスさまのお誕生を告げ知らせて言いました。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである」

このみ言葉のとおり、イエスさまのお誕生は私たちにとって、大きな喜びです。ではなぜ喜びなのでしょう。けさはそのことを確かめておきましょう。

第一に、イエスさまは父なる神さまのひとり子、天からおいでになったまことの神さまです。そのまことの神さまが、聖書が告げているとおり、私たちと同じ人として、私たちが生まれたときと同じ乳飲み子として、おむつにくるまれてお生まれになりました。クリスマスは、まことの神さまがまことの人となられたという奇跡が起こされた日です。そして、そのことは私たちにとって大きな喜びです。

なぜなら、このことによって神さまが私たちとともにいてくださる恵みがきわまったからです。神さまは私たちを愛し、イエスさまにあって私たちとほんとうにひとつになってくださったのです。乳飲み子のイエスさまは、神さまがいつまでも私たち人間とともにいて、ともに歩んでくださる恵みの、目に見えるしるしなのです。

第二に、イエスさまは家畜小屋の飼い葉桶でお生まれになりました。

神さまのみ子であるならば、お城の立派な部屋

の、暖かいふとんで、召使たちに囲まれてお生まれになるはずだと思いませんか。事実イエスさまのお誕生を首を長くして待っていた人々の多くはそう考えて、そういう場所を一所懸命に捜していました。そのため、家畜小屋のイエスさまを見のがしてしまったのです。

家畜小屋は冷たく、きたない、またさみしい場所です。生まれたばかりのイエスさまはあたたかいふとんではなく、動物たちが食べるえさを入れる飼い葉桶に寝かされました。神さまのひとり子がなぜそんなにみじめなところで、と思いませんか。実は、このことも私たちにとって大きな喜びなのです。

なぜならこのことは、私たちがどれほど冷たく、きたなく、さみしい場所にいるときにも、神さまは私たちとともにいてくださるということを示しているからです。私たちが喜びの中にあるときだけでなく、悲しいときにも、苦しいときにも、神さまは私たちから離れられることなく、ともにいてくださるということを示しているからです。

そして私たちといつともいてくださるイエスさまは、私たちの悲しみを喜びにかえ、苦しみを取り除き、争いや憎しみを平和にかえてくださるのです。家畜小屋のように暗く冷たい心をも、イエスさまの光は明るく、あたたかく照らしてくださるのです。そのことはイエスさまが十字架にかかって死なれ、復活してくださったときに、さらにはっきりと示されることになったのです。

皆さんの中には、クリスマスにプレゼントを交換する人たちもいるでしょう。けれどもイエスさまこそが、神さまから私たちへの最大の贈り物で

あることを覚えましょう。神さまが私たちと永遠 ないのです。
にともにご一緒くださること、これにまさる喜びは

今週の暗唱聖句

あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。
これがあなたがたへのしるしである。

ルカによる福音書 2章12節

〈ねらい〉

私たちにとって最大のプレゼントは主イエス・キリストであり、クリスマスは私たちの大きな喜びの日であることを学ぶ。

〈展開例〉

今日はクリスマスですね！ クリスマスって何の日か知ってるかな？

プレゼントをもらう日？ そうだね。ツリーを飾ったり、御馳走を食べたりしてとーっても楽しい日だよ。でもそれだけじゃないよね。

クリスマスは、私たちの救い主、イエス様がお生まれになったことをお祝いする日です。イエス様は何処でお生まれになったか知ってる？

実はね、羊や馬が住んでいる小屋で生まれたんです。どうしてきれいな部屋や病院じゃなくて羊さん・お馬さんの小屋だったのかな？ みんなや先生から見ると、羊さん・お馬さんの小屋は寒くて、暗くて、臭くて、汚いところです。みんなはそんなところにいたいと思う？

でもイエス様はそこでお生まれになりました。

しかもイエス様は神様の子でなのに、私たちと同じ人間の赤ちゃんとして生まれてくださいました。みんなや先生のことをとって愛して下さってるからだよ。このことによってどんな人でもイエス様を信じられるようにして下さったのです！

神様はどんな時でも、そしていつまでも私たちを愛して、イエス様にあって私たちと一緒にいてくださいます。そして天国へつれて行ってくださるのです。

神様は私たちにイエス様をプレゼントしてくださいました。どんなプレゼントよりも素晴らしいプレゼントです。これはとっても嬉しいことだよ。だから羊飼いきさんたちのようにイエス様を喜んで受け入れましょう！ そしてみんなでお祝いしましょう！

〈いのり〉

天のお父さま、私たちにイエス様をプレゼントしてくださいありがとうございます。イエス様を愛する子どもにしてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉 イエス様の生まれたところはどんなところだったのかな？

……家畜小屋のジオラマを作ろう。

※あらかじめジオラマを教師が作成しておき、それをを用いてお話されると良いと思います。

工作の図は139ページをご覧ください。

〈目標〉

罪によって閉ざされていた神様との親しい交わりが回復され、どんなときも共にいてくださり、すべてを知ってくださる「救い主のお誕生」、この大きな喜びを子供とともに深く味わう。

〈展開例〉

イエス様のお誕生の様子を身近に感じられるように、雰囲気を出してお話しを振り返ろう。

☆例①……絵本を用いる（羊飼いのセリフの部分）を子供達に読ませたりしながら）

☆例②……小さな劇をする

部屋—カーテンをするなどして、部屋を暗くしておく。壁に黒い布をはり星をちりばめたりする。床にたきびのようなものを置いたり、ぬいぐるみの羊を置いたりする。

衣装—布を頭にかぶせて、紐でしばり、長めの杖のような物をもたせる（羊飼い）。

①導入

みんなはクリスマスって聞くと、何を一番に思いたす？……では、クリスマスって何の日？もしみんなが、イエス様がお生まれになった時、そこにいたらどんな気持ちになっていただろうね？

②劇スタート（ナニナレーター）

ナ：静かな夜です。羊飼いたちはいつものように羊の番をしていました。

—羊飼い、羊の番をしている—

すると突然、天使が近づき主の栄光が周りを照らしました。

—懐中電灯をまわして、周りを照らす—

羊飼�：な、な、なんだ？ 何がおこってるんだ？ 羊たちは大丈夫か？

羊飼�：わからない。こわくて体が動かないよ！
天使：恐れることはありません。わたしは、あなたがたに、民全体に与えられる大きな喜びを告げます。（以下ルカ2：11-12参照）

ナ：天使がそう言いおわると、突然天の軍勢が現れて賛美して言いました。

天使たち：「いと高きところには栄光、神にあれ。

地には平和……」（以下ルカ2：14）

ナ：そして天使たちは天に帰っていきました。

羊飼�：さあ、ベツレヘムへ行こう！

羊飼�：主が知らせてくださったその出来事を見にいこう！

—羊飼い、一度部屋の外にでる。その間に部

屋の中を馬小屋の様子にし、戻ってくる—

ナ：羊飼いたちは、天使たちが言ったとおり、動物達の食べるえさを入れる箱の中に、布にくるまれて寝かされている赤ちゃんを見つけました。

羊飼�：おおっ！ なんとこのこだ！ どうとう、救い主がお生まれになった！

羊飼�：わしらが最初にこの出来事を見るとは……なんとこの幸い！ 神様はこの貧しいわしらにも救い主のお生まれを知らせてくださった！

羊飼�：主は生きておられるのだ！ 何千年も前から約束されていたことが、本当におこったのだ！

羊飼全：主はなんとすばらしいお方！ ハレルヤ！
ナ：羊飼いたちは、この出来事を人々に知らせ喜び歌いながら、帰って行きました。

—クリスマス之歌をみんなで賛美する—

『こどもさんびか』23番「そらにひびくかねが」など

③祈り

天のお父さま、クリスマスを感謝します。クリスマス皆で楽しみ喜ぶことが出来ますように。アーメン。

〈やってみよう〉

「神様へのてがみ」

○用意するもの

画用紙、クレヨン

○クリスマスのお誕生劇などで味わった後、神様にお手紙を書こう。絵をかいてもよいし、自由に表現しよう。

〈暗唱聖句〉 ルカによる福音書2章12節

あなたがたは、布に包まって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。

〈学びのポイント〉

- (1) 神の救いの約束（契約）がいつに実現した
- (2) イエスこそ神の最大のおくりもの
- (3) 神が共におられる＝インマヌエル

〈説教のおさらい〉

クリスマスはなぜ私たちのよろこびか？ イエスが私たちと同じように、人として生まれた。それにより、神が本当に私たちと共におられる方になられた。神は私たちをはなれない救い主になられた。また、御子イエスが、家畜小屋に生まれたこと。それがどんなことか、話し合ってみよう。つめたく、暗いところにイエスが来られた。クリ

スマスに小さなろうそくの灯がふさわしいことを話し合ってみよう。

〈やってみよう〉

聖書を開きましょう

ルカによる福音書2章1～20節

「た」ぬきでよみましょう

いたとた高たきとこたろにたは
たたえいたこう、たかみたに
あたたれ、ちたにたたはへた
たいわ、たみこたころにたか
たなうたひとたたにたあれた

何と書かれていましたか？

〈目標〉 いつも屋外で仕事をしていた羊飼いに慣れてたくましく元気になろう。

〈指導上の心得〉 元気に交わりをいたしましょう。人数が少ないところは合同分級にするといいでしょう。

〈展開例〉**1. 寒さをぶっとばせ！羊飼いゲーム**

教会のお庭か公園で。一人が羊飼い、一人が羊に。他の人は全員オオカミになります。羊は迷子になりました。羊飼いから10～20mくらい離れたところに迷子の羊が座ります。目隠しされた羊飼いはその場で三回転くらい回ります。その次にスタートの合図で羊飼いは迷子の羊を探しにいきます。（スイカ割りの要領）羊はメーメーと一生懸命場所を知らせます。しかしオオカミたちはガオー、ウォーンと叫び聞こえないようにします。オオカミは羊飼いの半径1m以内は近づいてはいけません。羊飼いが羊を見つけたら、目隠しをと

り、羊をおんぶをし、スタートの位置へ急いで戻ります。スタートからゴールまでのタイムを競います。

2. しっぽ取りゲーム

先生と子供を、お兄ちゃん又はお姉ちゃんと小さい子供というふうにより組になります。小さい方はおんぶされますが、ズボンの腰にビニールひもを三本くらい束ねたものをシッポのように挟んでおきます。スカートの子は腰にセロテープでひもをつけます。各組おんぶし用意ができたなら、ヨーイどんで、他の組のシッポ（ビニールひも）をとり走りまわります。どの組がたくさんのシッポをとれるかな。シッポはなかなかとれませんよ。人数が多ければ多いほどたのしいゲーム。おんぶする人はかなりの体力が要求されますよ。

3. 全員縄跳び

ご存知ロング縄跳びを使って、全員で何回とるかチャレンジ。

聖書の読みとり (ルカ2:1~20)



だれ? ①人名と思われるもの全てを拾い出させる。

皇帝アウグストゥス シリア州総督キリニウス
ヨセフ ダビデ マリア 初めての子(イエス)
羊飼いたち 主の天使 天の大軍 人々

②主要な登場人物はだれ? それはどんな人?
(3~5節) ヨセフがダビデの子孫であることは、
今週も確認。



いつ? この出来事はいつのことか。

ローマ皇帝アウグストゥスの治世
シリア州の総督はキリニウス
ユダヤの王ヘロデの時代
住民登録の勅令が出たころ
マリアが臨月
イエスさまが生まれた日、その夜



どこ? この出来事が起こった場所、
地名(白地図に地名を書き込む)、舞台。

ガリラヤの町ナザレ
ユダヤのダビデの町ベツレヘム
宿屋 飼い葉桶の中 野原



どうした? 何が起こったのか?

ベツレヘムへの旅、旅先での出産、
宿屋には泊まる場所がない。飼い葉桶の中に寝て
いる乳飲み子。

羊飼いへの知らせ。天の大軍の讃美、急いで行
く、探し当てる、人々に知らせる。神をあがめ讃
美しながら帰って行った。

人々は不思議に思う。
マリアは心に納め、思い巡らしていた。

月 日 「主イエスの誕生」 中学科

名前 _____

聖書：
問

讃美：

☆いつ

☆どこで

☆だれが

☆どうした

☆感想(わかったこと)



暗唱聖句

(ルカ2:12)

この箇所から、神の民に対する主のおしみとお導きがどれほど大きいものであるのか、そのことを読みとりたい。

(1) 戒めを守る歩み (1節)

主の戒めを守ることにより、命と祝福を得、約束の地に入りそれを得ることができると、この章の冒頭で語られています。この主の戒めとは、ホレブでモーセを通して与えられた戒めです。その戒めを守り行うことが、すべての祝福の根底にあるのです。つまり、神を中心とし、神の御言葉に従って生きることが求められ、そのように生きることにより祝福が与えられます。このことは、当時のイスラエルの集会に向けて語られたのですが、このところで「あなたたち」と言われているのは今の私たちでもあります。この1節の言葉は、昔も今もこれから先も、神の民が守り行うべきことなのです。

(2) 神の守りを思い起こせ (2節～6節)

主は、2節以下で荒野での40年を思い起こすように命じておられます。荒野でのイスラエルの経験は大変厳しいものでした。その厳しさは、イスラエルが神の戒めを守るかを試み訓練するためであったと言われます。それは、日々の必要にさえも欠く貧しさであり、窮乏の状態です。その中でイスラエルの人々は、自分たちの力では何もできないことを知り、神がすべての必要を満たしてくださる方であることを知るのです。しかも物質的な必要を与えられるだけではなく、霊的な糧を与え霊的な必要も満たされます。いや人はパンだけで生きるのではなく、霊的な糧によってこそ生かされます。神の御言葉によってこそ生かされることを知ることを求められました。私たちの命が

神の御言葉にこそあることを示しておられるのです。また、神は40年間、私たちの肉体を支えるもろもろの品物をも与えられ、イスラエルの民を守られたのです。

我々の歩みの中で過去を振り返るとき、このイスラエルが守られたように、御言葉を与えてくださる主がすべてを満たしてくださる事実をこの時代の私たちも見つめ直さなければなりません。

(3) 新しい地で

主の御言葉を守り、主の訓練を受けていく中で、イスラエルは導かれ、恵みを受けて荒野の40年を過ごし、約束の地に導き入れられました。そこは荒野と違い、豊かな土地でした。その豊かな土地に入れられる前に、荒野での訓練と教育と試みを受けることによって、すべての支えは神から来るのであることを、イスラエルの人々は覚えたのです。そして、これから与えられる土地とさらにこれからの繁栄をどなたが与えてくださるのかを覚えて、それを思い起こすことができるようにされました。

しかし、満たされるとき、人は神からの恵みを忘れやすいものです。イスラエルの民もそうでした。神が祝福し豊かにしてくださったにもかかわらず、人間は豊かになると自分の力でそれを得たかのように思い傲慢になるものです。神は、7節～10節でそのことを警告しています。

すべてが満たされているときにはなおのこと、神がしてくださったことを思い起こし、主の戒め、主の御言葉と御心をきちんと心に留めるのです。そして、与えられた恵みに感謝し、これからのことに期待をしつつ、神に従って歩む決意をもって、すべてを備えて下さった神の御名をほめたたえていくべきことが教えられています。

テキスト 申命記8章1節～10節

「一年の感謝」

〔単元のねらい〕

日曜学校の子どもたちと一年を振り返り、神に感謝を捧げよう。また、我々奉仕者としては、神の家族としての絆を深めるような日曜学校の営みであったかどうかを振り返る時でもある。このような節目の時、日頃できない合同分級などをして一体感を深めることも大切かもしれない。筆者の日曜学校では、合同分級で「かるた」などのゲームをし、幼児から小学校6年生まで、楽しく盛り上がる。分級は年齢別になるが、日曜学校の醍醐味は年齢を越えた子らの交わり、小さな子からお兄さん、お姉さんの大きな共同体の幸いを知ることでもある。

本日は、父なる神が我々の歩みを導き、天国への旅路を確実な導いてくださったことを確認し、心から神への感謝を捧げたい。

愛する皆さんと一緒に、今年の最後の礼拝式を捧げることができることを感謝します。この一年間も神さまは、僕たち私たちすべてをお守りくださいました。食べるもの、飲むもの、着るもの、住む家、お父さん、お母さん、兄弟、家族、お友達、学校の先生、神さまは僕たち私たちに必要なすべてを与えてくださいました。どんなときも、いっしょにいてくださいました。神さまを信じてお祈りする心を与えてくださいました。その神さまが与えてくださった一年間の恵みを、この礼拝式を通して心から皆で神様への感謝をあらわしましょう。

何よりも、今日は、今年最後の日曜日、今年一年、日曜学校にがんばって通うことができたことを感謝したいと思います。お友達の誘って来ることもできました。夏のキャンプにも大勢で参加できました。日曜学校では、たくさん牛乳とパンを食べることができました。「えーっ、僕は、ごはんのほうがいっぱい食べたよ」と思っているお友達がいるかもしれません。牛乳はカルシウムが豊富で、骨をつくり背が伸びます。パンは元気に運動したり、遊んだりするための力を作ります。でも、先生が今言ったのは、お口に入る牛乳とパンのことではありません。日曜学校の牛乳とパンは、カテキズムと聖書です。僕たち私たちの信仰は、カテキズムの牛乳と聖書の御言葉のパンで成

長します。骨が丈夫に成長すると自然に身長が伸びて、体がしっかり大きくなるように、カテキズムを覚えると信仰の骨が丈夫に成長し、しっかり大きな信仰へと成長します。また、骨が伸びてもパンを食べないとお腹がすいて力が出ないように、御言葉のパンを食べると力が湧いて、勇気が出てきます。神さまのために遊んだり、勉強したり、誰かを助けてあげたりする力が与えられます。お友達と仲直りする力も与えられます。お父さんお母さんを敬い、お手伝いする力も与えられます。日曜学校で、今年も暗唱聖句とカテキズムの暗唱をがんばりました。それによって、皆さんは神さまに喜ばれる子どもとして大きく成長させていただきました。来年も、日曜学校を皆にとって一番大切な場所にしてください。日曜日を神さまを礼拝する日として、大切にしてください。先生達も、皆のために、心からお祈りしています。そして、一緒に暗唱聖句とカテキズムの暗唱に励みましょう。楽しい日曜学校になるように、お友達が溢れるように一緒にイエスさまのために励みましょう。

さて、神さまはモーセさんとイスラエルの人々を40年間の荒れ野の旅に導きました。荒れ野とはどんなところでしょう。果物のなる木は生えていません。水の湧き出る泉もめったにありません。お腹はすくし、のどは渴くし、旅の途中には、真

の神さまではなく、偶像を作ってはそれを拝む誘惑にも何度も出会いました。しかし、神さまは天から必要なだけマナを降らせ、うずらを降らせてくださいました。神さま御自身の御手によってモーセ達は養われました。砂漠の暑さからも、神さまは親鳥が小鳥をその翼でおおうように、雲を用いて彼らを守られました。神さまは、何もない砂漠において、ほかの何かではなく神さまのみに信頼すること、頼ること、神さまの御手によってこそ守られることを教えようとされました。

砂漠の旅で神さまは十戒を教えてください、それを守るようにと命じてくださいました。荒野を旅する間に、真の神さまを礼拝すること、一緒に旅をする仲間を大切にすることがどれほど大切なことか、神さまに祝福された天国に向かう地上の旅にとってどれほど重要な道標であるのか、神さまの民に与えられた自由の特権をずっと手にするためになくてはならないのかを教えてくださいました。

僕たち私たちも、この年、十戒を教えられ、口で唱えるようになりました。神さまの御手から牛乳とパンをいただいて、神さまの御翼に守られ、十戒を唱えることによって神様から離れさせようとする誘惑から守られたのです。そのことを今日、心からたくさん感謝したいと思います。今日の御

言葉の中に、「あなたは食べてパン満足し、よい土地を与えてくださったことを思ってあなたの神、主をたたえなさい」とありました。今、僕たち私たちも、一つ一つのことを思い出しましょう。感謝できること、感謝しなくてはならないこと、いくつあるでしょうか。

先生が思うのは、まず自由に歩けること。ごはんが美味しいと感じること。皆と礼拝できること……。皆も一緒に数えてみましょう。手を挙げて、自由に言ってみてください。(夜、すやすや眠れること。元気に起き上がれること。通える学校があること。ランドセル、教科書、ノート、鉛筆があること。教室があること。先生がいて、お友達がいること。給食がおいしいこと……。) いくつも出てきましたね。まだまだ足りないはずです。時間があれば、もっともっと出てくるでしょう。神さまに与えられた数え切れない祝福を数えて、神さまを賛美しましょう。

そして、一番感謝しなければならないし、したいのは、主イエス・キリストを与えてくださった天のお父さまの救いの恵みです。僕たち私たちを、神さまの子としていただいたことです。さあ、来週は2003年です。新しい年も、皆と励ましあって、神さまを信じ従って、日曜学校に励んで行きましょう。

今週の暗唱聖句

あなたは食べて満腹し、良い土地を与えてくださったことを思って、あなたの神、主をたたえなさい。

申命記8章10節

〈ねらい〉

神様が一年間私たちを守り導いてくださり、心も体も成長させてくださったことを神様に感謝する。

〈展開例〉

今日は今年最後の日曜日です。今年もみんな神様を賛美したり、暗唱聖句を覚えたり、工作を作ったり、いろいろ楽しかったね！

ところで、皆さんに聞きますよ！

楽しかったことは何かな？

(キャンプに行った！クリスマスプレゼントもらった！etc)

困ったことは何かな？

(お父さん・お母さんに怒られちゃった。おねしょしちゃった！etc)

困った時どうしましたか？

(お母さん・お父さんをお願いした。お祈りした。etc)

今みんながいろいろ話してくれましたね。楽しいこと、困ったこと、嬉しかったこと、悲しかったこと、いっぱいありましたね。それはとっても大切なことだったんです。神様はそのことすべてを知っておられます。そして、いつもみんなと一緒にいて助けてくださったんだよ。だから神様に「ありがとう！」って言いましょ！

〈いのり〉

天のお父さま、今日まで私たち一人一人を守ってくださってありがとうございます。神様に喜ばれる子どもにしてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

〈工作〉

今年の嬉しかったことなどを絵に書いて、分級室の壁に貼りましょう。

- 紙皿を使ってテープで吊下げられるようにする。
- 文字は先に書いておきます。
- 子供達に好きな絵をかいてもらう。



〈目標〉

一年の歩みを振り返って、主なる神に感謝をささげ、御名をほめたたえます。

〈展開例〉

①導入

今日は、今年最後の分級です。暑い夏の日も、雨の日も、続けて日曜学校に来ることが、出来ました。身長が伸びて、体重が増えたように、目には見えなくても、みんなの心も成長しました。

イエスさまが、いつもいっしょにいてくださることを知って、強い心になれました。イエスさまに愛されていることを知って、お友達や兄弟を大切にすることが出来るようになりましたね！

②考えてみよう

モーセやイスラエルの民の40年間の荒れ野の旅のお話を、礼拝で聴きました。人々は、どんな体験をしましたか？

……予想されることを、何でも言ってもらおう
……お腹がすいた、のどが渇いた、道に迷った、

神さまに文句を言った、暑かった、病気になった、けんかをした、など。

神さまは、モーセを呼んで十戒を与え、それを守ように命じられましたね。それは、どうしてでしょう？

……真の神さまを礼拝すること、一緒に旅をる仲間を大切にすることが、どれほど大切なことを教えるため。

③適応

ぼくたち・わたしたちも、学校で、家でいろいろなことがあります。けんかをしたり、いじわるされたり、テストができなかったり、病気になったり、ほめられたり、しかられたり、……そのような経験をしながら、神さまの愛はどんな時も変わらないこと、十戒の大切さを知っていくのですね。

④お祈り

一年間のたくさんの恵みをありがとうございます。来年も、私たちを、導いてください。アーメン。

〈やってみよう〉

『十戒かるた』

○用意するもの

厚紙(画用紙)で作ったカードを22枚用意する。

○遊び方

十戒の前書き・十戒(一戒～十戒)を、上句と下句に分けて、教師が上句を読み、机に並べた下句から、つながる文を探して取る。

〔例〕

上句

わたしは主、あなたの神

下句

あなたを、エジプトの国、
どれいの家からみちびき出した神である

上句

あなたには、わたしをおいて

下句

ほかに神があってはならない

上句

あなたは、いかなる

下句

像も造ってはならない

上

こ

下

ろしてはならない

上

ぬ

下

すんではならない

☆一年間で、嬉しかったこと、神さまに感謝することを話し合ひましょう。

〈暗唱聖句〉 申命記8章10節

あなたは食べて満足し、良い土地を与えてくださったことを思って、あなたの神、主をたたえなさい。

〈学びのポイント〉

- (1) いつでもどんなときも神様の導きがある
- (2) 神様だけを信頼しよう
- (3) 一年の歩みを感謝しよう

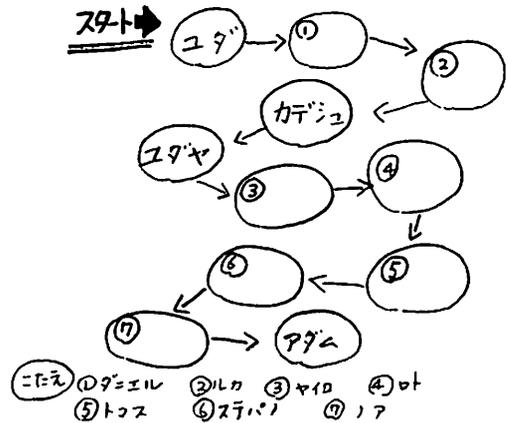
〈説教のおさらい〉

この一年、私たちは様々な誘惑に出会い、負けてしまったこともたくさんある。それはイスラエルの人たちが、40年の旅でいろいろな誘惑にあって、神様に背を向けたことがあったのと同じ。十戒を与え、必要なときに水やマナを与え、うずらを与えてくださる神様。神様に頼ることが大切なことを教えてくださった。毎日の食事、着るもの、友達、兄弟、両親、遊び、学校、すべてに神様の導きがあった。一つ一つを思い出して、神様に心

から感謝しましょう。

〈やってみよう〉

1. 聖書を開きましょう
申命記8章2節
・人にとって一番大切なことは何でしょう
2. 「聖書しりとり」



〈目標〉 一年の恵みを感謝する。

〈指導上の心得〉 すごろくのコインバージョンを紹介します。お菓子とジュースも出して、ゲームをしながら一年の恵みなどを語り合ひましょう。コインの予想がなかなかあたらない人もいますので、適当な時間ですごろくを終え、全員自分のことを言えるようにしてください。別の質問を考えたり、表=3マス、裏=2マスにしたりいろいろと応用してみてください。コインを投げる時はかっこよく投げましょう。

〈展開例〉

〔コインすごろく〕

〔準備〕 渦巻き状にすごろくの枠をつくる。外側をスタートに、中心をゴールとする。駒を人数分用意する。コインを用意し裏と表を決めます。マ

スの数は16個程度。各マスに K・S・Q・O をランダムに記す。各記号の意味は次のとおり。

K：今年嬉しかったことを教えてください。

S：新年の誓いを教えてください。

Q：聖書クイズに答えましょう。

O：大人になったら何になりたいですか。

〔進め方〕 コインを次の順番の人に投げてもらいます。投げてもらう前に裏か表かを言います。そして当たったら、表=2マス、裏=1マス進みます。進んだマスに書いてある記号の指示に従います。当たらなければ進めず、次の人の番になります。クイズは12月15日の問題例を使ってください。クイズ以外の一人一人の答えは、黒板などに書き出していきましょう。全員ゴールしたら、黒板に書かれた一人一人の恵みと豊富、夢などについて先生がお祈りをし、会を閉じましょう。



聖書の読みとり (申命記8:1~10)

2節「この40年の荒野の旅」とは？ (申命記1:19~2:7、民数記

13:1~14:38)

1節「今日」。申命記は40年の荒野の旅を終え、いよいよヨルダン川を渡って約束のカナンの地に入るイスラエルの民に、モーセがした最後の説教。

3節、有名なセリフ(マタイ4:4)出典。マナ(出エ16)との関係はきっちり押さえない。

4、5、6節と味わって、7節につながる。

7~9節、どんな土地が思い描こう。

10節に心からアーメンと唱和。

あなたが好きな世界(歌謡界とか漫画界とか)にとって、あなたの暮らす町にとって、日本という国にとって、世界にとって、どんな一年だったろう。

教会生活についてはどんな一年だった？ いっしょに感謝することを祈り合おう。

担当する生徒の一年がどんなだったか、想定して質問して下さい。

教会と全然関係ない話でも、神様の御手の中にないことなど一つもありません。様々な分野の感謝ができれば幸いです。

教会の動き、中会大会の動きについても知っているメンバーなら、今年一年教会に与えられた恵みを共に感謝しましょう。



祈り合おう

2002年はどんな一年だった？

あなたにとって、あなたの家族にとって、あなたのクラスや部活や学校にとって、

月日「一年の感謝」 中学科
名前

聖書:

問

讃美:

☆「この40年の荒野の旅」とは？

☆約束の土地はどんな土地？

☆2002年の感謝

毎日聖書を読もう

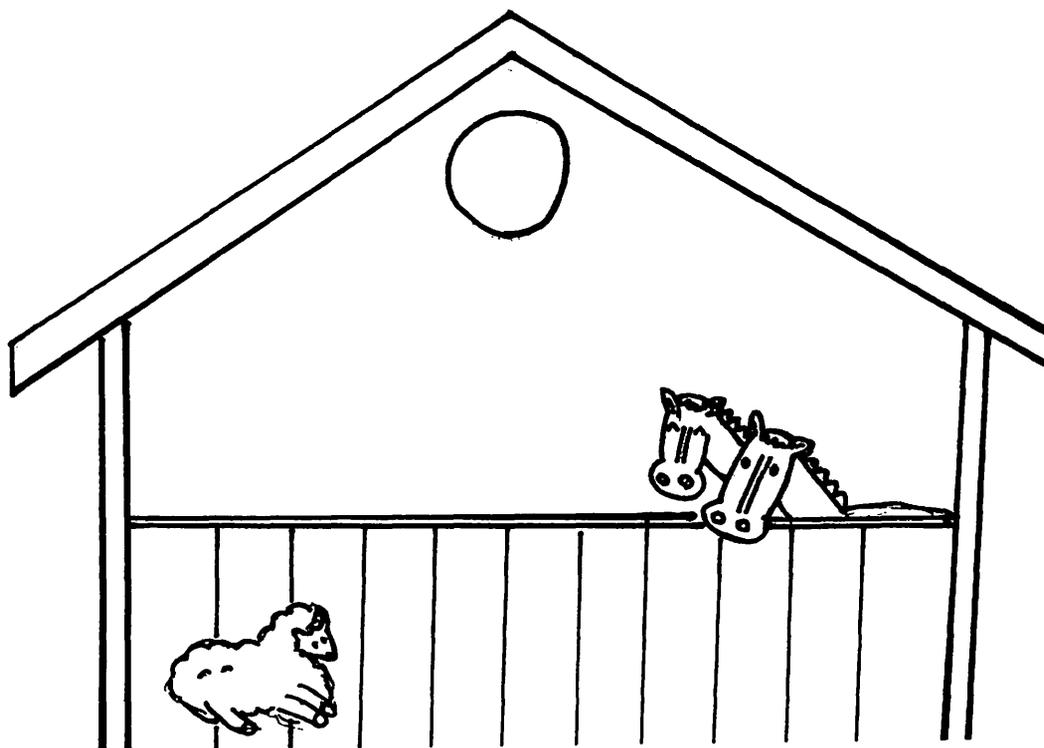
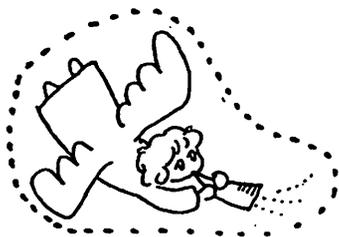
日 ルカ 2:39-51	月 ルカ 11:1-16
火 ルカ 3:1-20	木 ルカ 4:1-15
水 ルカ 3:21-38	土 ルカ 4:31-44
金 ルカ 4:16-30	

暗唱聖句

(申命記8:10)

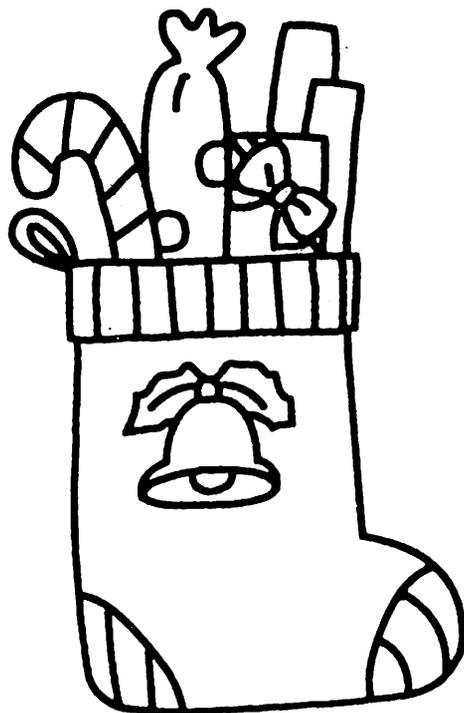
12月22日 幼稚科 分級展開例

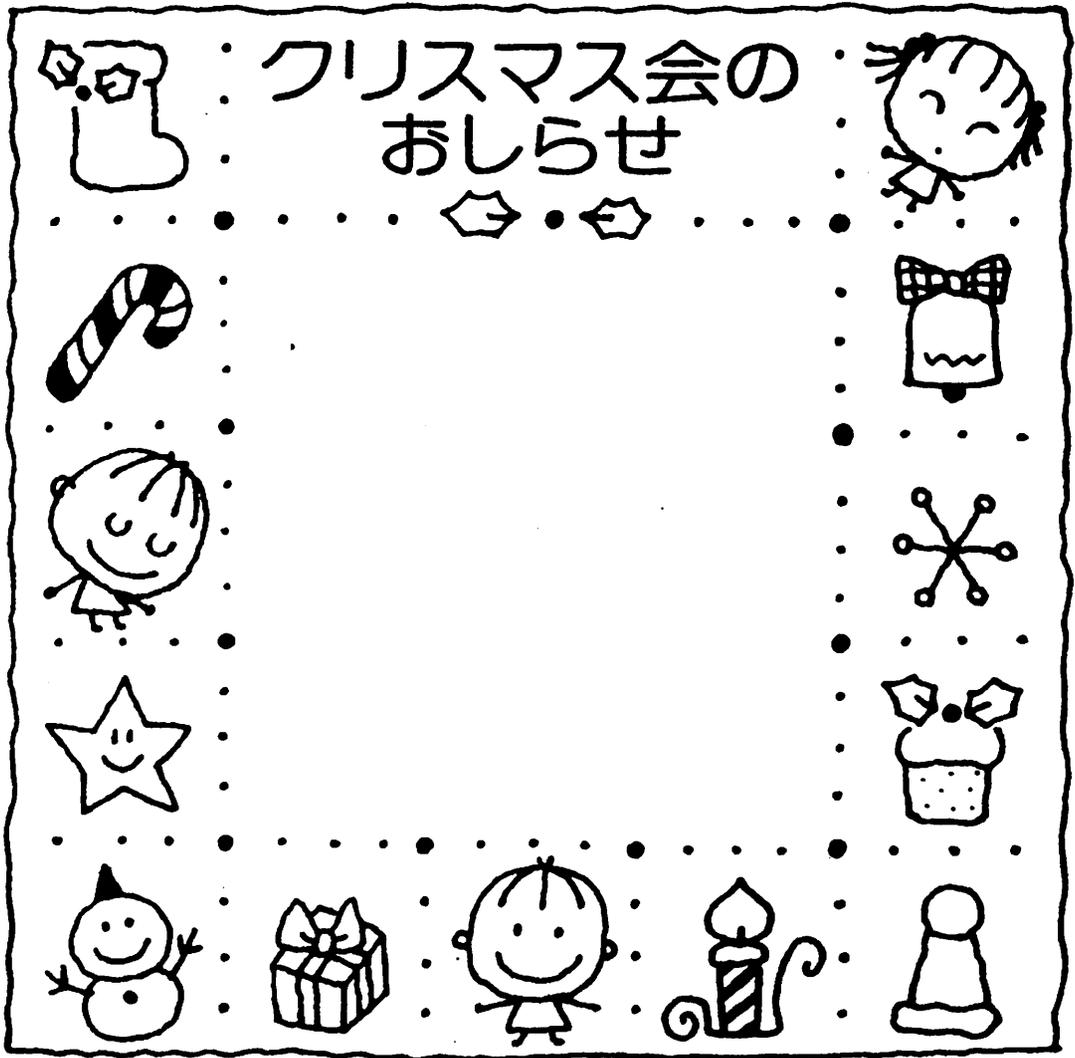
〈工作〉「イエス様の生まれたところはどんなところだったのかな？」 図版



たけいすきな _____ ちゃん

あてきな プレゼントを
よういしました。





日曜学校 2002年度カリキュラム (2003年1～3月分)

2年サイクル第2年 (子どもカテキズム問34～85)

月日 教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単 元 の 目 標			
1月5日 新年	聖餐 (主の晩餐)	問74, 75	ウ小96, 97、ハイデ75-82
		マルコ14: 22-26	ヨハネ6: 35
聖餐の恵みを教え、聖餐に招く			
12日	祈りとは何か (一)	問76	ウ小98、ハイデ116, 117
		サムエル上3: 1-10	サムエル上3: 10b
祈りは御言葉に耳を傾けることから始まることを学ぶ			
19日	祈りとは何か (二)	問76	ウ小98、ハイデ116-118
		使徒言行録12: 1-19	フィリピ4: 6
主なる神を信頼して、どんなことでも素直にお祈りするよう励ます			
26日	祈りのお手本 —主の祈り—	問77	ウ小99、ハイデ118, 119
		ルカ11: 1-4	ルカ11: 1b-2a
イエスさまの教えられた主の祈りを私たちの祈りとする			
2月2日	天の父よ	問78	ウ小100、ハイデ120, 121
		マタイ6: 9-13	主の祈り
神の子とされた喜びをもって父の御名を呼ぶ			
9日	御名をあがめ させたまえ	問79	ウ小101、ハイデ122
		マタイ6: 9-13	主の祈り
祈りとは、神をほめたたえ、神の栄光をあらわすことである			
16日	御国を来たらせたまえ	問80	ウ小102、ハイデ123
		マタイ6: 9-13	主の祈り
祈りとは、御国の完成を待ち望んで生きることである			
23日	御心の天になるごとく	問81	ウ小103、ハイデ124
		マタイ6: 9-13	主の祈り
祈りとは、私たちの心を神の御心に重ね合わせることである			
3月2日	日用の糧を与えたまえ	問82	ウ小104、ハイデ125
		マタイ6: 9-13	主の祈り
いつでもどんなことでも、主なる神に祈り求めて歩む			
9日	我らの罪を赦したまえ	問83	ウ小105、ハイデ126
		マタイ6: 9-13	主の祈り
十字架の主イエス・キリストを仰いで、罪の赦しに生きる			
16日	悪より救い出したまえ	問84	ウ小106、ハイデ127
		マタイ6: 9-13	主の祈り
神の子としての祝福に生きる (、キリストの恵みに堅く立つよう励ます)			
23日	頌栄	問85	ウ小107、ハイデ128
		歴代上29: 10-13	主の祈り
祈りとは、神の勝利を確信することである			
30日	アーメン	問85	ウ小107、ハイデ129
		コリント二1: 18-22	コリント二1: 20
私たちの祈りは主イエスの真実に支えられていることを学ぶ			

日曜学校 2002年度カリキュラム 年間計画

2年サイクル第2年 (子どもカテキズム問34～85)

月 日	教会暦・行事	主 題 (仮 題)	子どもカテキズム
2002年		第二部 信仰の道 五、聖霊なる神さま	
4月7日	進級	神の民の祈りの家	問34
14日		キリストの体なる教会	問34
21日		再臨の約束	問35
28日		再臨に備える	問35
5月5日		死のときの祝福	問36
12日	母の日	復活のときの祝福	問36
19日	ペンテコステ	教会の誕生	聖霊降臨祭
26日		第三部 生活の道 一、感謝について 感謝—神の求め	問37
6月2日		感謝としての服従	問38
9日	花の日	第三部 生活の道 二、感謝に生きる道 十戒—感謝の道標	問39
16日	父の日	神と人への愛	問40
23日		贖いの御業—過越	問41, 42
30日		過越の成就—キリスト	問41, 42
7月7日		第一戒 神を神とする	問43, 44
14日		第二戒 刻んだ像	問45, 46
21日		第三戒 神の御名	問47, 48
28日		第四戒 主の日の安息	問49, 50
8月4日		第五戒 父母を敬う	問51, 52
11日		第六戒 殺人の禁止	問53, 54
18日		第七戒 姦淫の禁止	問55, 56
25日		第八戒 盗みの禁止	問57, 58
9月1日		第九戒 偽りの禁止	問59, 60
8日		第十戒 むさぼりの禁止	問61, 62
15日	敬老の日	神の掟を喜ぶ生活	問63
22日		律法に背く人間	問64
29日		十戒の完成者キリスト	問64

月 日	教会暦・行事	主 題 (仮 題)	子どもカテキズム
		第三部 生活の道 三、教会に生きる道	
10月6日		教会に生きる (一)	問65
13日		教会に生きる (二)	問66
20日		信仰と悔い改め	問67
27日	宗教改革記念日	恵みの手段	問68
11月3日		生ける神の御言葉	問69
10日		御言葉への聴従	問70
17日		礼典	問71
24日		洗礼	問72, 73
12月1日	アドベント	到来への備え	待降節
8日	アドベント	ザカリアとエリサベト	待降節
15日	アドベント	マリア	待降節
22日	クリスマス	主イエスの誕生	降誕祭
29日	年末	一年の感謝	
2003年			
1月5日	新年	聖餐 (主の晩餐)	問74, 75
		第三部 生活の道 四、祈りに生きる道	
12日		祈りとは何か (一)	問76
29日		祈りとは何か (二)	問76
26日		祈りのお手本—主の祈り—	問77
2月2日		呼びかけ	問78
9日		第一の祈願	問79
16日		第二の祈願	問80
23日		第三の祈願	問81
3月2日		第四の祈願	問82
9日		第五の祈願	問83
16日		第六の祈願	問84
23日		頌栄	問85
30日		アーメン	問85

編 集 後 記

●編集部より

本誌の体裁が、今号から少し変わりました。今まで本誌の編集は素人が行っておりましたが、今号から編集を「株式会社あるむ」に委託いたしました。全面委託ということではありませんし、現段階で誌面の大幅な変更をすることはできませんので、あまり変更が目立たなかったかもしれません。しかし、編集や書籍デザインの専門家のアドバイスを受けながら、より読みやすい誌面を目指していきたいと願っています。

編集部では、本誌に対する皆様からのご意見を受け付けています。本誌を用いられて感じられたことやご質問、ご要望などをお気軽にお寄せください。皆様の手でよりよい教案誌へと育てていただきたいと願っています。ご意見は下記までよろしくお願いたします。

郵便の場合 〒487-0008 愛知県名古屋市長区平手北2-1701 協英ビル3F
日曜学校教案誌編集部 相馬伸郎
Faxの場合 Fax. 0568-51-7411
E-mailの場合 sstextbook@yahoo.co.jp

	執筆担当	編集部
聖書研究	分級展開例	相馬伸郎（長）
前半……………村手 淳	幼稚科……………名古屋教会	木下裕也
後半……………春名義行	小学科下級	村手 淳
カテキズム研究	……………名古屋岩の上伝道所	春名義行（会計、販売取次）
10 / 6, 10 / 13……………相馬伸郎	小学科中級……………多治見教会	望月 信（編集）
10 / 20, 10 / 27……………木下裕也	小学科上級……………豊明教会	
11月……………望月 信	中学科……………関キリスト教会	
説教展開例	表紙デザイン……………宮川裕希子	
10～11月……………相馬伸郎		
12 / 1～22……………木下裕也		
12 / 29……………相馬伸郎		

●今回、教師全員の執筆を目指しました。とても良い研鑽になりましたが、大変な重圧、重荷でもありました。拙いものですが、少しでも皆様のお役に立てれば嬉しいです（名古屋岩の上伝道所日曜学校）。●今回で二回目の参加です。やりっぱなしで、いいのか悪いのか分かりません。ぜひご意見を多治見教会まで!!（多治見教会日曜学校）。●今回はワークシート例を中心に展開しました。少しでも多くの教会でこの教案誌が用いられますように（豊明教会日曜学校）。●「一年の感謝」を書いたのは6月末。半年の思みを振り返り感謝するひとときを与えられました（関キリスト教会日曜学校）。●教紙について……実りの秋。神様のお思みをいっぱい食べて、聴いて、心も体も元気になる（宮川裕希子、名古屋教会）。●今

回もこの奉仕の為に捧げられた執筆者の方々の御苦労を思い、心から感謝致しております。その苦労は、主が覚えていてくださいます。何よりも私どもへの報いは、日曜学校の働きが豊かに実ること。なお望みと使命を新しくして、二年間のカリキュラムを終える次号に臨みたいと思います（相馬伸郎、名古屋岩の上伝道所宣教教師）。●子どもたちを御言葉によって教え育てる重責の重大さを覚えながら、奉仕を続けさせていただいています（木下裕也、豊明教会牧師）。●今回、手違いのため編集後記を掲載できない方々があることをお詫び申し上げます。奉仕者の方々に感謝し、また諸教会の日曜学校に主の祝福が豊かであるよう祈ります（望月信、高蔵寺教会牧師）。

日本キリスト改革派教会 中部中会 『日曜学校教案誌』

2002年10・11・12月号（季刊）

第7号

2002年9月8日発行

発行	日本キリスト改革派教会 中部中会 教育委員会
発行所	日本キリスト改革派教会 中部中会 日曜学校教案誌編集部 名古屋岩の上传道所 宣教教師 相馬伸郎 〒458-0008 愛知県名古屋市緑区平手北2-1701 協英ビル3F Tel/Fax. 052-877-8962
編集・印刷	株式会社あるむ 〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田3-1-12 第三記念橋ビル3F
頒布取り次ぎ	津島伝道所 宣教教師 春名義行 〒496-0038 愛知県津島市橋町2-30 Tel/Fax. 0567-26-4221
頒価	900円（本体価格）
